



Osaka
University
Forum
on
China

戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』
データベースの構築・公開に向けて

田中仁・堤一昭 編

OUFC
BOOKLET
vol.9
2016/3

OUFC BOOKLET
Vol.9

戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』
データベースの構築・公開に向けて

田中仁・堤一昭 編

目次

はじめに.....	1
-----------	---

報告

報告 『フフ・トグ（青旗）』ほか近代史研究の調査・整理の現状と公開に向けて.....	堤一昭 5
報告 内モンゴルにおける『フフ・トグ（青旗）』研究：満洲国における近代モンゴル語新語 研究を兼ねて.....	周太平 15
報告 『フフ・トグ（青旗）』研究における諸問題：データベース構築を中心として.....	都馬 バイカル 24
報告 『フフ・トグ（青旗）』のデータブック作成をめぐる諸問題.....	相原佳之 28
報告 『フフ・トグ（青旗）』データベースの構築と公開に向けて.....	田中仁 35

討論

資料

資料 『フフ・トグ（青旗）』1941年5月（第8号～第11号）本紙.....	59
資料 『フフ・トグ（青旗）』1941年5月（第8号～第11号）記事索引.....	『青旗』研究会 91
資料 『フフ・トグ（青旗）』1941年5月（第8号～第11号）記事細目.....	ナランゲレル 117
資料 『フフ・トグ（青旗）』1941年5月（第8号～第11号）専門用語.....	『青旗』研究会 131
資料 『1940年代アジア総合年表』に見る国際情勢の日録記事（1941年5月）.....	田中仁 134
執筆者・発言者.....	140
あとがき.....	141

はじめに

ワークショップ「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』データベースの構築・公開に向けて」は、2015年9月19日(土)、大阪大学豊中キャンパスの待兼山会館会議室で開催され、5人の報告の後、討論が行われた。21世紀課題群と中国(大阪大学未来研究イニシアティブ)、堤科研(東洋学学術資産としての石濱文庫の基礎的研究)の主催、NIHU現代中国研究・東洋文庫拠点(政治史資料研究班)の共催による。開催にあたって掲げた主旨は、以下のとおりである。

大阪大学総合図書館の貴重コレクション「石濱文庫」には、1940年代前半に満洲国で発行されたモンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』が世界で唯一、ほぼ完全な形で所蔵されている。当時の文化・民族政策とメディアの関係、現在にいたる民族意識を知るための重要な資料として1990年代から再び注目されてきた。昨年(2014年)12月には、研究セミナー「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性」を開催し、この資料をめぐる研究の現状を知り、国際的な学術ネットワーク形成の可能性をさぐった。今回のワークショップでは、昨年の研究セミナーの成果の上に、紙面画像、多言語による目次データなどを統合したデータベース構築に向けた作業を報告する。データベースの構築に何が必要か、また公開によって今後どのような研究の展望が拓けるかを考えてみたい。

本ブックレットは、当日の報告に基づく論考5篇と討論内容の書き起こし、および資料篇からなる。今回は、『フフ・トグ(青旗)』の一部分(1941年5月(第8号~第11号)の1箇月分)をサンプルとして、データベースを構成する各部分を試作し、具体的なあり方・構築の方法を検討した。資料は『フフ・トグ(青旗)』の本紙、資料と は都馬バイカル氏を中心とした『青旗』研究会による記事索引(モンゴル語・ローマ字転写・日本語訳)と専門用語、資料 はナランゲレル氏(中国・内モンゴル大学)による記事細目、資料 は田中仁氏による国際情勢の日録記事のそれぞれ1941年5月部分である。

昨年(2014年)12月開催の前の研究セミナーをまとめたブックレット『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性：東洋文庫政治史資料研究班・研究セミナーの記録』(OUFC BOOKLET vol.7)の「はじめに」で、「デジタル化と公開」は、「可能性」から実現にむけて第一歩を記したばかりであると述べた。本ブックレットは、第二歩へと進んだ作業の記録といえる。さらなる歩みに向けては、関係者の研鑽・努

力が必要なことはいうまでもない。未筆ながら、今後とも皆さまからのご助言・ご協力をお願い申し上げたい。

(堤一昭)

報 告

『フフ・トグ(青旗)』ほか近代史資料の 調査・整理の現状と公開にむけて

堤 一昭

1. 石濱¹文庫の近代アジア史資料

今回のワークショップでとりあげる、満洲国で1940年代前半に発行されたモンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』は、東洋学者・石濱純太郎(1888(明治21)年～1968(昭和43)年)のコレクション「石濱文庫」にはほぼ全号が収められている。石濱文庫には、『フフ・トグ(青旗)』以外にも近代史、日本以外のアジア史資料(彼にとっては“同時代史”と呼ぶべきか)も多く所蔵されている。本報告では、それらの調査・整理の現状と、公開へのとりくみについて考えたい。

1) 石濱純太郎の、近代アジア史資料に関わる資料収集について

内藤湖南(1866(慶応2)年～1934(昭和9)年)らを日本の東洋学者の第一世代とすれば、石濱純太郎は第二世代にあたる。大阪の漢学塾の泊園書院、東京帝大の支那文学科に学ぶ²など“漢学”から学問をスタートした石濱が、そこから関心を拡げて『フフ・トグ(青旗)』をはじめとするモンゴル語資料、近代アジア史に関わる資料をなぜ、どのようにして収集するに至ったかの詳細は、まだよく分からない。ただ経歴や彼についての記述の中で注目されるのは、次の二点である。

第一は、創立当初の大阪外国語学校の蒙古語科に選科委託生として入学して(1922(大正11)年)、モンゴル語を学んだこと。そこでロシア語教員のニコライ・ネフスキーと知り合い、また来講していた京都帝大の羽田亨(「言語学概説」を担当)に学んだことである。

¹ 以下、原資料に「石浜」「石濱」とある場合も含めて、「石濱」の表記に統一する。

² ちなみに、石濱の東京帝大在学中に起こった南北朝正閏問題は、義兄の代議士・藤澤元造(黄鵠)が関係していた。石濱が学び、終世関わり続けた泊園書院は、幕末に藤澤東暎が興して以来、藤澤家の三代四人が主催した。石濱の姉かつは元造の弟、章次郎(黄坡)の妻である。

これに先立つ内藤湖南との出会い（1916(大正 5)年ころ）と合わせて、これらの経験、人間関係が、『元朝秘史』をはじめとするモンゴル語文献、西夏文字／語の研究、ウイグル語文献、敦煌学の研究へと、石濱を導いたものと考えられる。

第二は、石濱が同時代のモンゴル語資料を早い内から収集していたことが、新聞記事から判明することである。「学界新風景(19)」なる連載記事に“東洋学の三人男”として紹介された石濱について、「わが国で蒙古語の新聞を蒙古から全部取寄せて読んでいるのは、陸軍の参謀本部の外に、ひとり石濱氏を数えるのみであるという。」とある（下線部は筆者による。『東京日日新聞』1927（昭和 2）年 6 月 22 日。堤一昭 2012, p.19）。ただ、この「蒙古語の新聞」が具体的に何なのか、また「蒙古」がモンゴル人民共和国を指すのかどうか、この記事からだけでは判然としない。

くわえて、石濱の収集の特徴を指摘した次の文章も興味深い。「いわゆるゲテもの(／俗書)とって、当時の帝大(／京大)などでは購入をはばかる種類の書物には、とくに目をかけて集めている。これは今日になっては非常に貴いことで、石濱文庫の特徴の一つはこの点にある。」（下線部は筆者による。外山軍治 1975；同 1979）『フフ・トグ(青旗)』や本稿の後半でふれる資料類も考え合わせれば、「ゲテもの(／俗書)」の中には、書物以外にも新聞、雑誌、パンフレットなど零細な近代史資料を含めてもいいのではなかろうか。

2) 石濱文庫の近代アジア史資料の特徴

そもそも「石濱文庫」全体の特徴、また特に近代アジア史資料についての特徴は何だろうか。それは、石濱純太郎の収集資料の全てを受け入れていること、そしてこれまでに注目された近代アジア史資料が「未整理」分からのものであることである。

石濱純太郎が亡くなった 1968(昭和 43)年に、大阪市住吉区内の石濱邸から「すべて」の資料を受け入れ、大阪外国語大学(上八学舎)に搬入したという（種別毎に分散受け入れ、一部は売却となった徳永康元旧蔵書(金子亨 2007)などと異なる。石濱の日記、友人の画家・小出檜重からの書簡などは、石濱家に残された）。それから十年にわたる教員、図書館員ら関係者の努力の末、1979 年に索引付きの目録『大阪外国語大学所蔵石濱文庫目録』が刊行された（索引無し版は 1977 年に刊行）。

この目録では、文庫の内訳・冊数として「漢籍 20,262 冊、和書 9,021 冊、洋書 3,269 冊、雑誌 9,743 冊」と記載される。なおこれらの内訳以外に、目録には「写真の部」が設けられ、稀少資料の図版とその一部の目録が載せられている（1977 年版、1979 年版で収録図版が異なる）。しかし、写真の種別・キャプションは整わず、この「写真の部」の図版・目録はともに未定稿といわざるを得ない。

この『石濱文庫目録』に未収録、未整理の資料が少なくとも 1 万点を超える量で残され

ているのが実状である。つまり、和洋書の NDC 分類、漢籍の四部分類になじまなかった書簡や原稿、研究ノート・メモ、写真資料、絵はがき(内藤湖南に随行して訪欧時のもの)、石刻拓本などの研究資料、販売用目録、石濱家家政資料が未整理のままである。また、目録未収載の図書、雑誌ほか定期刊行物や抜刷も相当の分量がある。

近代アジア史資料のうち、漢語の図書・定期刊行物の所在については、『石濱文庫目録』の漢籍の部・F 新学部 (pp.171-197, 約 800 タイトル, NDC 分類) に載せられていて、近代モンゴル関係の漢語資料に特色を見出すことができる。ただし、この部分の資料は阪大図書館 OPAC や cinii books からの検索ができない(可能なのは、洋書と四部分類の漢籍)。またこの目録所蔵の大学図書館は 57 館 (1977 年版の所蔵は 15 館) のみのため、この資料群の存在は専門研究者にもあまり知られていないようである。

石濱文庫の目録未収載・未整理の資料は、学術史の資料としての性格も強いと思われるが、石濱と同時代の近代アジア史資料がなお多く含まれていると考えられる。というのは、『フフ・トグ(青旗)』をはじめ、これまで稀覯の近代アジア史資料として着目されてきたものは、文庫目録に未載・未整理の資料がほとんどだからである。以下の①～③が例としてあげられよう。

①『フフ・トグ(青旗)』をはじめとする 20 世紀前半のモンゴル語新聞：

目録では上述の「写真の部」に一部のサンプル画像が載るのみである。石濱文庫所蔵の満洲国のモンゴル語定期刊行物の概要については、すでに研究がある(広川佐保 2007 ; 内田孝 2015)。

②ニコライ・ネフスキー関係書簡：

石濱とともに西夏文字研究を行ったネフスキーは、ソ連帰国時に一部の書簡を石濱に託し、その後も書簡のやり取りがあった。ソ連東洋学と石濱の学術交流史についても研究がある(加藤九祚 2011; 生田美智子 2003)。現在、文庫内に所在が判明している書簡については目録を作製した(堤 2013)。

③20 世紀前半のシベリア、東北アジアに関する刊行物：

『バルガ』(Барга, А. Баранов, Харбинь, 1912, 59 p.), 『自由シベリア』誌(プラハ刊), シベリアのユダヤ人自治州で刊行されたイディッシュ語新聞『ピロビジャンの星』紙(1937 年。現在、所在未確認)などの価値が指摘されている(田中克彦 2002, 2009, 2010, 2013)

これら以外にも、報告者が現在進めている未整理資料の調査で、以下の近代アジア史資料が見出されている。零細なもので、他所にも所蔵されていると思われるが、まずは何がどれだけあるか把握すべきだろう。

◎フィリピンのタガログ語雑誌『Liwayway』:

日本占領期の1943(昭和17)年5月21日号(表紙に“大日本比島派遣軍発行認可”の文字が見える)。日本占領期のフィリピンでの言語政策を知る資料である(この資料の存在は、田中仁先生の示教による)。

◎太平洋戦争末期のアメリカ軍の宣伝用ビラ『マリヤナ時報』1945(昭和20)年6月1日号:

米軍の沖縄の首里城制圧、横浜空襲などの記事が載る。当時の日本では、所持することが危険であった資料だろう。

【追補】ワークショップ後の調査で、新たに目録未収録の、以下の近代刊行のモンゴル語文献も見出された。早くから知られたモンゴル文経典などの古典籍、カルムイク語訳聖書などとあわせて、専門研究者による徹底的な調査・目録作成が必要である。

◎ *Mongyol-un yeke toli bičig* / 『蒙古大辞典』: 籌蒙学社, 1912年。「F829」のラベルが貼られている。(『中国蒙古文古籍総目』: 06691)

◎ *Činggis qayan-u čadig* / 『諸汗源流黄金史綱』: 蒙文書社, 1925年。(『中国蒙古文古籍総目』: 08907)

◎ *Angq-a suryaqu jiruqai-yin bičig* / 『蒙古(蒙文)初等算術』: 東京・大日本図書, 1907(明治40)年, 奥付に「喀喇沁王府」とある。

◎ *Galbingga-yin egessig kemekü neretü darumal* / 『カラピン・ガイヤン』: 日暮臺雄編輯・興安北省公署民生科発行, 1943(満洲国・康徳10)年。チベット文・モンゴル文の併記。日本軍によるシンガポール陥落の記事, 写真を掲載。(『中国蒙古文古籍総目』: 06144)

2. 石濱文庫の調査・整理の現状

石濱文庫は、昨年度2014年9月~11月に、大阪大学箕面キャンパスの外国学図書館(旧大阪外国語大学附属図書館)書庫3階の貴重図書室から、豊中キャンパスの総合図書館C棟3階に新設された貴重コレクション室に移転した。従来から懸念されてきた温度・湿度の問題が解決し、管理がゆきとどいた設備に収められたことは大変喜ばしい。移転後には、『フフ・トグ』紙のデータベース化の共同研究が、昨年2014年12月の研究セミナー「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性」,そして本日のワークショップ「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』データベースの構築・公開に向けて」開催で大きく進展することも、石濱文庫受け入れ後の調査・研究の中で、特筆すべきことである。

しかしながら基本的なこととして、排架の問題, 整理記録の問題が未解決であることも

留意しなければならない。目録に記載されている図書や定期刊行物類が、必ずしも請求番号どおりに排架されていない。つまり、資料の所在が全ては確認できていない。また、帙が未作製の和綴じ本（主に和古書）が多数あり、それらは別にまとめて置かれている。和漢洋の図書ほか、補修が急務の資料も多数にのぼると考えられる。なお、未整理資料も配置・保管状況が把握されていない。残念なのは、移転前からの図書館職員によるこれまでの整理作業の概要が不明（いつ、だれが何をどこまで行ったかが、統一的に記録・継承されていない可能性もある）。

移転前からの上記の認識のもとで、貴重図書室資料の詳細な所在／排架図を作成していた（2011年9月、12月；2012年1月調査）。これにより未整理分も含め、おおよそどの資料がどこにあるのかが把握しえた。移転後の現在は、貴重コレクション室への移動分について新たな所在／排架図の作成を作成中である。なお、史料的高価値の高い石刻拓本類の調査・整理も続行している。

3. 資料のより広い公開と活用にむけて

——付：外国学図書館「旧分類」図書の近代アジア史資料とともに

石濱文庫の近代アジア史資料の、より広い公開と活用を考える際には、石濱文庫のみで考えるのではなく、外国学図書館「旧分類」の資料をあわせて構想すべきである。

外国学図書館「旧分類」図書とは、大阪外国語学校(1922(大正11)年創立)、および附設の第五臨時教員養成所(1923(大正12)年～1931(昭和6)年。国語漢文科あり)の旧蔵書のことを指す。大阪大空襲で校舎は全焼したものの、書庫は被災を免れた(蔵書数は1942年の時点で47,000冊、または約6万冊ともいう)。戦中戦後の混乱や高槻学舎への移転、上八学舎への復帰の中で一部の散佚があったが、現在も大阪大学箕面キャンパスの外国学図書館の書庫に排架(基本的に和装本(和漢混在)は1階の、洋装本は3階の集密書架)。

ところで、近年の研究動向に、「ある機関...が、どのような意図をもって資料を収集したのか」という問題は、研究者がライブラリアンとともに意識すべき問題の一つである」として、戦前期の資料の全体をとらえようとする試みがある(阿部安成 2003。彦根高等商業学校(滋賀大学経済学部の前身)、横浜高等商業学校(横浜国立大学経済学部・経営学部の前身)の例が論じられている)。同様に大阪外国語学校での資料収集の意図・方針はどうだったのかを、(石濱文庫についても合わせて)あらためて考える価値・必要があるだろう。

では、より広い公開・活用が望まれる、石濱文庫および「旧分類」の資料群にはどのようなものがあると考えているのか。先に挙げたものとも一部重複し、前近代の資料も含め

てだが、現時点であげうるのは以下のような資料である。

・近代モンゴルの定期刊行物：

石濱文庫の『フフ・トグ』ほか満洲国で刊行のものに加えて、「旧分類」の『蒙文白話報』ほかの中華民国期(1910～30年代)のモンゴル語定期刊行物8種(内田孝 2015, 41-43, 55)などは、一群の資料として全貌を把握すべきである。すでに『フフ・トグ』をはじめ相当部分がマイクロフィルム撮影済みで、そこからデジタル化も行われている。稀観のもの、資料劣化が懸念されるものから優先的に公開を行うべきだろう。

・満洲語資料：

稀観本の『百二十老人語録』ほか、『庫倫事宜』、『四體奏事檔』(満洲語・チベット語。清・道光年間)など、「旧分類」には、相当多数の満洲語資料が分散して収蔵されている。石濱文庫のものと合わせて、専門研究者による再調査と目録作成が望まれる。

・近代中国イスラーム文献と近代ベトナム漢文史料：

「旧分類」には、19世紀末から20世紀初頭、主に北京で出版された中国イスラーム文献、および同時期の近代ベトナム漢文史料が収められている。大阪外国語学校の創設時に収集されたものと考えられる。東洋文庫での収蔵などと照らし合わせつつ史料価値を探り、専門研究者に利用の便を図るべきである。これらについては、予備調査を行い、仮のリストを作成済みである(本稿末尾の「大阪大学外国学図書館「旧分類」の中国イスラーム関係図書」、「大阪大学外国学図書館「旧分類」のベトナム漢籍」を参照)。

・東洋学学術史資料：

たとえば、内藤湖南の手校本『蒙古源流』漢文版³(鴛淵一を通じて、「旧分類」に入ったものと推測される)。モンゴル史そのものの史料としてではなく、近代日本の東洋学の学術史資料として注目すべきである。

ニコライ・ネフスキー関連の書簡類は、上述のように目録は作成済みだが、重要なものは撮影・画像公開が望まれる。またユリアン・シチュツキー(Ю. К. Щуцкий, 楚紫気)の漢文書簡など未解読資料の研究も必要である。

・シベリア研究資料：

a. 石濱文庫の18世紀以降のロシア語ほかの文献コレクションは、日本国内の所蔵として有数のものと予想される。『シベリアに憑かれた人々』の末尾(加藤九祚 1974, p.232)には、シベリア関係文献の日本でのコレクションの紹介が載るが、石濱文庫目録刊行前のため、石濱文庫への言及はない。今後、原山煌によるシベリア研究文献紹介(原山煌 1984)

³ 内藤虎次郎「奉天宮殿にて見たる図書」『内藤湖南全集第12巻』筑摩書房、1970年の註2(41頁)に「(『蒙古源流』の)漢訳本は官版と文溯閣四庫写本とは異同があるので、所蔵の流布本に朱藍両筆を以て官版と文溯閣本との対校をした。」とあるものに相当する。

を利用して、資料のまとまりを確認する必要がある。

b. 田中克彦が紹介した石濱文庫の『ピロビジャンの星』(所在調査中。田中克彦 2002, 同 2010) など, 外国語新聞類はまとめて排架して, 適切な保管・保存措置を行うことが望まれる。

・石刻拓本 :

羽田亨を団長とする遺跡調査“羽田ミッション”(1935年)で内モンゴルにおいて採拓したモンゴル文・漢文合璧碑の拓本(14世紀)ほかは, 資料価値も高い。おおよそ1300枚ある石濱文庫所蔵拓本のなかで, 優先して適切な補修措置を行う必要がある。

・その他 :

上述の『Liwayway』, 『マリヤナ時報』など, 多岐にわたる種類の新発見資料を順次追加していくリストを作成し, おおのこの資料価値について専門研究者からの情報を得るべきである。

* * *

近代アジア史資料の公開・活用についての構想

現時点で構想しているのは以下のような方法である。

「(仮称) 大阪大学図書館所蔵アジア学コレクション」のサイトを, 大阪大学図書館ホームページ HP の中に設けて, 3段階の公開レベルを設ける。①タイトルと説明のみ(閲覧可能), ②タイトル・説明+画像(サンプル画像または, e-book などによる全文画像), ③タイトル・説明・索引と参照付き画像データベース [『フフ・トグ』データベースは③をめざす]。(なお, ①~③での資料説明は, 先行研究を参照して編集する。)

上記の構想を実現していくには, 解決すべき多くの課題があるだろう。まずは, 資料公開で先行する国立国会図書館の近代デジタル図書館, 東洋文庫, 京都大学(人文科学研究所, 地域研究統合情報センターなど)との差異化をはかる。つまり, これらの機関の公開する資料とは重複しないこと, そして大阪大学所蔵資料の特色が認識されるように留意すべきだろう。また, 協力・助言を仰ぐためにも, これらの機関ほか, 関係する専門研究者やライブラリアンとの継続的な交流・協力が望まれる。また, 資料を公開した際に, サイトの管理者をどうするか, 研究や維持の費用をどう継続的に得るかも構想段階から十分考える必要がある。

参考文献

阿部安成 2003 : 「彦根高等商業学校収集資料の可能性について」(近現代東北アジア地域史研究会) News letter, 第15号, 2-13頁。

生田美智子 2003 : 『資料が語るネフスキー』大阪外国語大学。

- 内田孝 2015 : 「モンゴル語近現代文学研究からみた『青旗(フフ・トグ)』紙 : モンゴル語定期刊行物の研究現況に言及しつつ」堤・田中編『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性』, 37-64 頁。
- 大阪外国語大学附属図書館 1979 : 『大阪外国語大学所蔵石濱文庫目録』, 大阪・大阪外国語大学附属図書館 (索引なし, 「写真の部」の異なる 1977 年版あり)。
- 加藤九祚 1974 : 『シベリアに憑かれた人々』岩波書店, 232 頁, 「シベリア関係のコレクションについて」。
- 加藤九祚 2011 : 『完本 天の蛇 ニコライ・ネフスキーの生涯』平凡社。
- 金子亨 2007 : 「徳永先生の蔵書のこと」『古書通信』937 号, pp.8-10 (転載版がネット上で閲覧可能)
- 田中克彦 2002 : 「石濱文庫の『ピロビジャンの星』『法廷にたつ言語』, 岩波書店, 286-290 頁。
- 田中克彦 2009 : 『ノモンハン戦争 モンゴルと満洲国』, 岩波書店。
- 田中克彦 2010 : (講演概要) 「石濱文庫が語る世界」『大阪大学図書館報』, 第 43 巻第 3 号, 2010 年 3 月 1 日, 3-4 頁 (ネット上で公開)。
- 田中克彦 2013 : 『「シベリアに独立を!」諸民族の祖国をとりもどす』, 岩波書店。
- 堤一昭 2012 : 「石濱純太郎を紹介する新聞記事 2 件(1923 年,1927 年)および解説」, 堤編『石濱文庫の学際的研究 : 大阪の漢学から世界の東洋学へ』平成 23 年度大阪大学文学研究科共同研究 研究成果報告書, 16-21 頁。
- 外山軍治 1975 : 「石濱文庫について」『(大阪外国語大学附属図書館) 館報』第 2 号 (『石濱文庫目録』1979 年に部分修正のうえ再録)。
- 原山煌 1984 : 「シベリア」島田ほか編『アジア歴史研究入門 4』同朋舎, 251-281 頁。
- 広川佐保 2007 : 「満洲国のモンゴル語定期刊行物の系譜とその発展」『環日本海研究年報』, 第 14 号, 104-126 頁。

【追補】

《中国蒙古文古籍总目》编委会编, *Dumdadu ulus-un erten-ü mongyol nom bičig-ün yerüنگkei yarčay* / 《中国蒙古文古籍总目》, 北京图书馆出版社, 1999 年。

◆ 大阪大学外国学図書館「旧分類」の中国イスラーム関係図書

◎2009 年 11 月 4 日調査分。所在は, 書庫 1 階集密書架 C1 (1), C5 (2~37)。書誌情報は完全に記録し得ていない。

1. 『天方詩經』3 冊, 光緒 16 年 (1892), 提督軍門馬如龍雲峯氏刊。[旧分類 : 380C/121, 大正 12 年 (1923) 6 月 20 日]
2. 『歸真要道譯義』卷首・4 卷, 4 冊 (排印本), 光緒 17 年 (1893) 序, 元代回賢 二ト頓撈吸額補白克爾著, 念一齊藏版。[旧分類 : /130/82] ☆?
3. 『扯哈雷凡速』1 冊, 民國 10 年 (1921) 3 月, 北京牛街, 清真書報社。[旧分類 : /130/66]

4. 『指迷考証』1冊，民國11（1922）年，北京，清真書報社。[旧分類：/130/68]
5. 『清真釋疑補輯』1冊，光緒辛巳（7年，1881）。[旧分類：/130/69] ☆
6. 『雜醮公文要集』1冊。[旧分類：/130/70]
7. 『修真蒙引』1冊。[旧分類：/130/71] ☆
8. 『回回原來』1冊。[旧分類：/130/72] ☆
9. 『回耶辨真』1冊，清真書報社。[旧分類：/130/73]
10. 『四篇要道』1冊，清真書報社，民國12年（1923）。[旧分類：/130/74]
11. 『歸真總義』1冊，清真書報社，光緒34年（1908）→民國11年（1922），20版。[旧分類：/130/75]
12. 『祝天大讚真經』1冊。[旧分類：/130/76]
13. 『回教辨真』1冊。[旧分類：/130/77]
14. 『漢譯耳木代』1冊。[旧分類：/130/78]
15. 『正教真詮』5冊。[旧分類：/130/79] ☆
16. 『清真要議』1冊。[旧分類：/130/80]
17. 『禮法啓愛』1冊。[旧分類：/130/81]
18. 『清真教典歌』1冊。[旧分類：/130/83]
19. 『清真學理譯著』1冊。[旧分類：/130/84]
20. 『清真教五功齋戒』1冊。[旧分類：/130/85]
21. 『清真教飲食篇』1冊。[旧分類：/130/86]
22. 『清真教天國地禁說』1冊。[旧分類：/130/87]
23. 『五功釋義』1冊。[旧分類：/130/88]
24. 『宗教正基』1冊。[旧分類：/130/89]
25. 『教欵捷要』1冊。[旧分類：/130/90]
26. 『四教要括』1冊。[旧分類：/130/91]
27. 『天方三字教註解』1冊。[旧分類：/130/92]
28. 『清真教考』1冊。[旧分類：/130/93]
29. 『真功發微』2冊。[旧分類：/130/94] ☆
30. 『清真大學』1冊。[旧分類：/130/95] ☆
31. 『漢譯禮拜箴規』1冊。[旧分類：/130/98]
32. 『清真釋疑』1冊。[旧分類：/130/97] ☆
33. 『至聖寶訓』1冊。[旧分類：/130/96]
34. 『聚禮明源』1冊。[旧分類：/130/161]
35. 『赫廳』1冊。[旧分類：/130/162]
36. 『教欵捷要』1冊。[旧分類：/130/163]
37. 『新譯天方大化歷史』2冊，中華民國8年（1919），北京牛街，萬全書局印。[旧分類：210/194]

☆印を付したものは、《回族和中国伊斯兰教古籍资料汇编》，宁夏少数民族古籍整理出版规划小组办公室编；张秀峰，马塞北选辑整理，天津古籍出版社，[1987.7 前言]に収められている。この資料汇编所収の15種のうち、8種（うち1種は疑問あり）が上記の旧分類図書に存する。

◎2001年7月31日調査分

38. 『天方字母解義』1冊，金陵劉介廉先生甫書，光緒20年（1896）重鐫，成都敬畏堂周氏藏版。[旧分類：320/140]

39. 『天方奇異勸善錄』1冊，北京牛街，萬善書局。[旧分類：940/47]

◆ 大阪大学外国学図書館「旧分類」のベトナム漢籍

◎2001年7月31日調査分

1. 『壽梅家禮』1冊，維新丙辰（10年，1916）仲春吉日重刊，觀文堂藏版。[旧分類：550/37]

2. 『新訂萬事不求人書』1冊，成泰甲午（6年，1894年）蒲月下澣新刊，盛美堂藏版。[旧分類：550/38]

3. 『日用常談』1冊，孫□□，署祭酒范先生□，啓定壬戌（7年，1922）荷月，聚文堂藏版。[旧分類：550/48]（□の部分は，字喃=チュノム）

4. 『國朝律例撮要』三卷，1帙3冊，維新己酉（3年，1909）仲秋新刊。[旧分類：710/4]

内モンゴルにおける『フフ・トグ(青旗)』研究 満洲国における近代モンゴル新語研究を兼ねて

周 太 平

はじめに

日本の学界では、『フフ・トグ(青旗)』紙に関する研究は比較的多く、歴史遺産という視点を意識している。これに対して、中国の事情については、満洲国・蒙疆政権期における定期刊行物に関する研究は少ない。その原因は、もちろん資料を入手することが困難であることが一因となっているかもしれないが、もっとも重要なのはやはり学問空間である。それは中国の政治的イデオロギーからみれば、独立したモンゴル史はデリケートな問題である。しかしそうした昨今の事情を考慮するだけではなく、戦前の内モンゴルには全面的な再検討を要する問題があるように思われる。したがって、歴史の記憶が想起されるとき、現代モンゴル人の立場から歴史遺産としての植民地時代の諸問題への「関心」が惹起されざるを得ない。

本報告では、まず近年の内モンゴルにおける『フフ・トグ(青旗)』紙に関する研究を概況し、つぎに『フフ・トグ(青旗)』紙を用いた言語学に関連する所見を述べる。

1. 『フフ・トグ(青旗)』紙を用いた文学研究

『フフ・トグ(青旗)』紙と内モンゴル近現代文学研究については、内田孝(2015)「内モンゴル近現代文学研究からみた『フフ・トグ(青旗)』紙：モンゴル語定期刊行物の研究現況に言及しつつ¹」が詳しい。以下内田の論考をふまえつつ、若干の補足を行う。

満洲国・蒙疆政権期における定期刊行物に注目し、最も早く文学研究に着手したのは故ウ・ショガラー教授である。1990年、同氏は内モンゴルの文芸誌『ウネル・チチゲ』に

¹ 内田孝(2015)「内モンゴル近現代文学研究からみた『フフ・トグ(青旗)』紙：モンゴル語定期刊行物の研究現況に言及しつつ」、堤一昭・田中仁編『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性：東洋文庫政治史資料研究班・研究セミナーの記録』(OUFC Booklet 第7巻), 2015年, 37-64頁。

「Dalai-ača subud šügügsen temdeglel」[大洋から真珠をすくい上げた記録]を掲載した²。氏は、1939年7月刊行の『Mongxul-un Suruxa-yin Qoriyan-u Surxal Negegegsen Jil-ün Oi-yin Durasqal-un Sedkül』[蒙古学院成立一周年記念誌]から「xobi mangq_a-yin čečeg」[ゴビに咲く花]というタイトルの短篇小説を発見したこと、そしてこの作品が内モンゴル近代文学の珠玉の名作として高く評価できるとして全文を紹介した。この作品の著者は蒙疆政権期の蒙古学院や大阪外国語学校で教員を務めていたエルデムバートルである³。この作品はまた、『フフ・トグ(青旗)』紙の第36号(1941年11月22日)にも掲載されているが、作者の記載がなく、ただ「ケシケテンのデレゲル」と署名されているだけである。この署名がこの作品の作者であるのか、あるいは「紹介文」の筆者であるのか判然としない⁴。

続いて、バ・ゲレルト氏による文学研究を掲げる。氏は、満洲国・蒙疆政権期の定期刊行物の中から文学作品を選び出し、注釈を加えた。『ソーゴ・イン・ノゴ』[異草集]は、サブタイトルを「1931-1945年モンゴル文学選」とし、1998年に内モンゴル人民出版社から刊行された⁵。同書には132の作品が紹介されているが、主として『青旗』紙からの抜である。とは言え、この書籍には誤りが少なくない。近年、オルスガル氏らによって改訂作業がおこなわれている。

近年の文学研究には下記の論考がある。

- (1) オットゴンバヤル『近代啓蒙的なモンゴル文学：1902-1947』(博士論文)⁶、同「1941年の『青旗』紙に掲載された文学作品に関する考察」⁷。
- (2) 永花氏『満洲国時期的蒙古族児童文学研究：以満洲国蒙古文機関報為中心』(博士論文)⁸。
- (3) 小長谷由紀・サランゲレル・永花『偽満洲国における蒙古族文学に関する研究』(内モンゴル人民出版社2013年)⁹。

² Ü.Šuxar_a (1990) 「Dalai-ača subud šügügsen temdeglel」, 『Önir Čečeg』, 1, pp.49-55, 64.

³ 同上内田孝(2015), 48-49頁。

⁴ 『フフ・トグ(青旗)』紙, 第36号, 1941年11月22日, 第5面。

⁵ B.Gereltü (1998) 『Suxu-yin Noxug_a: 1931-1945 on-u qoxurunduki mongxul uran jokiyal-un songxuburi』, Übür mongxul-un arad-un keblel-ün qoriy_a.

⁶ Otqunbayar (2009) 『Odu üy_e-yin soyun gegeregülkü mongxul udq_a jokiyal: 1902-1947』, 内モンゴル大学博士学位論文。

⁷ Otqunbayar (2009) 「1941 on-u Köke Tux sonin deger_e neyitelegdegsen udq_a jokiyal-un sinjilel」 『Übür Mongxul-un Yeke Surxaxuli Erdem Sinjilegen-ü Sedkül』 3, pp. 95-104.

⁸ 永花(2009) 『満洲国時期的蒙古族児童文学研究：以満洲国蒙古文機関報為中心』, 中央民族大学博士学位論文。

⁹ Konařaya yüki, Sarangerel, Yüing Quwa nayiraxulun jokiyaba (2013) 『Qaxurmax Manju Ulus-un Üy_e-yin Mongxul Ündüsüten-ü Uran Jokiyal-un Sudulul』, Öbür mongxul-un arad-un keblel-ün qoriy_a.

2. 刊行物研究

内モンゴルにおける満洲国・蒙疆政権期の定期刊行物に関する研究としては、まずトゥイメル(忒莫勒)『建国前内蒙古地方報刊考録』(1987)¹⁰、『内蒙古旧報刊考録：1905-1949.9』(2010)¹¹、金海・忒莫勒・蘇德畢力格『從傳統到現代：近代内蒙古地区文化史』(2009)¹²を掲げる。またトゥイメル(忒莫勒)氏には「偽滿蒙政部の第一個綜合性蒙文月刊『蒙古報』」¹³、「偽蒙疆時期的『文化專刊』和『蒙古文化』」¹⁴がある。

ノンダグラ(努恩達古拉)『日本の植民地支配時期におけるフフ・トグ(青旗)紙に関する研究』(2013)¹⁵は、刊行物研究の視点から『フフ・トグ』紙を系統的に考察した個別研究である。

オットゴンバヤル「竹内正のモンゴル語刊行物出版事績」¹⁶は、満洲国時代に近代的な活版印刷技術を導入し、『モンゴル・セトグール(蒙古報)』、『モンゴル・シネ・セトグール(蒙古新報)』、『フフ・トグ(青旗)』などモンゴル語刊行物の出版事業に貢献した日本人・竹内正について考究する。

新聞史研究の視点からの概括として、オユン(烏雲)『近代中国におけるモンゴル語刊行物研究』(2013)¹⁷と・オットゴンバヤル「日本におけるモンゴル語定期刊行物研究」(2013)¹⁸がある。ノンダグラ(努恩達古拉)『フフ・トグ(青旗)』紙とその紙面配列について論じる¹⁹は、『フフ・トグ』紙の紙面構成について詳細な分析を行っている。

¹⁰ 忒莫勒(1987)『建国前内蒙古地方報刊考録』,内モンゴル自治区図書館編(フフホト)。

¹¹ 忒莫勒(2010)『内蒙古旧報刊考録：1905-1949.9』,遠方出版社。

¹² 金海・忒莫勒・蘇德畢力格(2009)『從傳統到現代：近代内蒙古地区文化史』,内モンゴル人民出版社。

¹³ 忒莫勒(2002)「偽滿蒙政部の第一個綜合性蒙文月刊『蒙古報』」,『蒙古学信息』第2期。

¹⁴ 忒莫勒(2004)「偽蒙疆時期的『文化專刊』和『蒙古文化』」,『蒙古学信息』第1期。

¹⁵ Nondaxul_a(2013)『Yapun-u koluniilal-un noyarqal-un üy_e-yin 「Küke Tux」 sonin-u sudulul』,中央民族大学博士学位論文。

¹⁶ Otqunbayar(2015)「Takeuchi Tadashi-yin Mongxul sonin Sedkül-un Ajillava」『Übür Mongxul-un Yeke Surxavuli Erdem Sinjilegen-ü Sedkül』2, pp. 84-92。

¹⁷ Oyun(2013)『Orčün ü y_e-yin Dumdadu ulus-un mongxul sonin Sedkül-un Sudulul』,Öbür mongxul-un arad-un keblel-ün qoriy_a。

¹⁸ S. Otqunbayar(2012)「Yapun deki mongxul toxtamal keblel(1905-1949)-un Sudulul」『Dumdadu ulus-un mongxul Sudulul』,NO.3, pp.127-135。

¹⁹ Nondaxul_a(2013)「Köke Tux sonin kiged tegun-nu qaxudasu bolung-un tokiraxululta-yin toqai ügülekü ni」『Dumdadu ulus-un mongxul Sudulul』,NO.1, pp.161-166。

3. 『フフ・トグ(青旗)』紙と歴史学関連研究

『フフ・トグ(青旗)』研究は単なる新聞研究ではなく、満洲国そのもの、あるいは植民地時代の内モンゴル社会の総合的研究である。

20世紀末に本格化した『青旗』紙に関する文学研究のほとんどは、上述『異草集』を用いた研究である。しかし、内田孝氏が指摘するように『青旗』紙に掲載された資料を研究をする場合、オリジナルの原文を確認する作業は欠かせない。『異草集』に収録されたテキストと『青旗』紙掲載の原文を比較すると、前者に誤記は少なくないことが分かる。

2004年、大阪外国語大学大学院での留学を終えたナランゲレル氏は、『フフ・トグ(青旗)』紙のコピーを内モンゴルにもち帰った。これによって、内モンゴルの人々は『フフ・トグ』紙の原文を初めて目にすることができるようになった。以来内モンゴル大学の研究者、とりわけ修士課程と博士課程の大学院生が『フフ・トグ』紙に関心を抱き、これを研究テーマとするものが排出した。

こうして文学の分野から始まった『フフ・トグ(青旗)』紙を用いたモンゴル研究は、しだいに歴史学の各分野において多くの研究者の注目するところとなった。以下、同紙を用いた近年の歴史学関連研究を発表順に列挙する。

- (1) ナランゲレル「ジャライトのアチンガと扎蘭屯師道学校」(2011)²⁰。
- (2) 王紅霞「ジャライトのナムハイジャブと『蒙古』誌に関する考察」(2011)²¹。
- (3) 王玉芹『満洲国期における新京の文化機構によるモンゴル語編集出版活動』(2011)²²。
- (4) 王紅霞『満洲国興安南省におけるモンゴル人教育』(2012)²³。
- (5) ナランゲレル「『フフ・トグ(青旗)』紙にみる近代モンゴル民族の女子教育」(2012)²⁴。

²⁰ Narangerel (2011)「Jalaid-un Ačingra kiged Jalan ayil-un barsi-yin yusun-nu Surxavuli」, 『Jalaid-un teüke soyol-un Sudulul』[扎賚特歷史文化研究], Öbür mongxul-un arad-un keblel-ün qoriy_a, pp.164-174。

²¹ Wang hong xia(2011)「Jalaid-un Namqaijab Ba mongxul kemekü Sedkül-un toqai sinjilel」, 『Jalaid-un teüke soyol-un Sudulul』[扎賚特歷史文化研究], Öbür mongxul-un arad-un keblel-ün qoriy_a, pp.418-428。

²² 王玉芹(2011)『“満洲国”時期新京文化機構的蒙古文編輯出版活動』, 内モンゴル大学修士論文。

²³ 王紅霞(2012)『“満洲国”興安南省蒙古族学校教育』, 内モンゴル大学修士論文。

²⁴ 娜仁格日勒(2012)「『青旗』所見近代蒙古民族女子教育」, 『内モンゴル師範大学学报』(教育科学版), 第9期, 26-29頁。

- (6) ナランゲレル「『フフ・トグ(青旗)』: 近代モンゴル民族の啓蒙思想関係の貴重文献」(2012)²⁵。
- (7) 周太平・王紅霞「1940年代における東モンゴルの職業教育」(2013)²⁶。
- (8) スチンバト「チンギス汗廟の建設過程とその歴史的意義」(2013)²⁷。
- (9) スチンバト『東モンゴルにおける植民地社会と文化の変容(1931-1945)』(2013)²⁸。
- (10) ナランゲレル「チンギス汗廟の建造に関する貴重な記載」(2013)²⁹。
- (11) ムーリン『日本の植民地時代における東モンゴルのラマ教改革に関する考察』(2014)³⁰。
- (12) 金栄『チンギス汗廟歴史研究』(2015)³¹。
- (13) ナヒヤ「蒙民厚生会の文化教育活動について」(2015)³²。
- (14) ジャン・チョクト『満州国期における東モンゴルの牧畜に関する考察』(2016)。
- (15) バイ・アルサラン『満州国期の興安地域における医療衛生についての研究』(2016)。
- (16) 包和芳『満州国期・新京のモンゴル関係団体』(2016)。

(14), (15), (16)は, 2016年度大学院修了予定者の修士論文である。

近年『フフ・トグ(青旗)』の紙面の見出しをリスト化する作業も進行している。ノンダグラウ氏作成の全号の主要見出しのリスト³³がある。またナランゲレル氏による全号のタイトルをリスト化した『記事細目』は, 2016年に内モンゴル教育出版社から刊行予定である。

²⁵ 娜仁格日勒(2012)『『青旗』(Küke tux): 珍貴的近代蒙古民族啓蒙思想文献』, 中国高校人文社会科学信息网『蒙古学集刊』第2期, 内モンゴル大学モンゴル学研究センター編, 1-17頁。

²⁶ 周太平・王紅霞(2013)「20世紀40年代東蒙古蒙古族職業教育」, 『中国・烏蘭浩特第二屆蒙元文化論壇暨科爾沁歷史文化研討会』, 内モンゴル文化出版社, 9-14頁。

²⁷ 斯欽巴圖(2013)「論奉建成吉思汗廟的過程及歷史意義」, 『中国・烏蘭浩特第二屆蒙元文化論壇暨科爾沁歷史文化研討会』, 内モンゴル文化出版社, 212-218頁。

²⁸ 斯欽巴圖(2013)『東蒙古殖民地社会与文化的變動(1931-1945)』, 内モンゴル大学博士学位論文。

²⁹ 娜仁格日勒(2013)「建造成吉思汗廟的珍貴記載」, 『中国・烏蘭浩特第二屆蒙元文化論壇暨科爾沁歷史文化研討会』, 内モンゴル文化出版社, 59-64頁。

³⁰ Müren(2014)『Yapun-u koluničilal-un üy_e deki Jegun mongxul-un Lama-yin sasin-nu ügereçilel-teyin toqai sinjilekü ni』, 内モンゴル大学修士論文。

³¹ Jin Rong(2015)『Čingis Qaxan-nu süme-yin teuke-yin Sudulul』, 内モンゴル大学修士論文。

³² 娜荷芽(2015)「論蒙民厚生会的文化教育活動」, 『首屆蒙古史研究青年學者學術研討會論文集』, 内モンゴル大学モンゴル歴史系編, 128-144頁。

³³ 同前掲注15。

4 . 言語学の視点から

今日の内モンゴルでは、『フフ・トグ(青旗)』紙に関連した言語学研究はまだ行われていない。これに対して日本では、フフバートル氏による関連研究があり³⁴、その満洲国期の『新名辞字典』や『フフ・トグ(青旗)』紙などを用いて行われた考察は内モンゴルでも知られているが、残念ながら内モンゴルの言語学会ではあまり注目されていない。フフバートル氏の論考に触れ、私は、バダマオッスル教授(内モンゴル大学モンゴル言語研究所長)に、「特殊な社会言語学」なる科目の開講を提言した。すなわち言語を歴史的社会的要因との関連で研究するとともに、オリジナルな資料に対する詳細な分析を行う必要がある、ということである。この場合、満洲国や蒙疆政権期の定期刊行物は貴重な資料と位置づけられる。そこでは、モンゴル語の新語・近代専門用語の出現に関する新たな知見が期待される。

モンゴル語は、アルタイ語族のモンゴル=トルク系に属するが、20世紀以来の漢字圏文化が近現代モンゴル語専門用語などの新語彙の形成に強い影響を及ぼしたと思われる。『フフ・トグ(青旗)』紙は、戦前期のもっとも大きなモンゴル語媒体であった。同紙には、近代的な新語と思われる語彙が多く見られるが、これらの専門的新語の意味や概念について検討することは、近現代内モンゴルの社会変動を考えるうえでひとつの重要な糸口となり、さらに近代モンゴル語と日本語との言語接触史を確認することでもある。

これまでの関連研究では、モンゴル語の近代語彙は、中国語から導入されたことが強調されてきたが、『フフ・トグ』紙を見ると、満洲国時代に日本語から導入されたと思われるところが少なくない。モンゴル語近代語彙の変遷を日本語との関係で考察する必要がある。

満洲国時代におけるモンゴル語近代語彙の形成については、『フフ・トグ(青旗)』紙から貴重な関連情報を得ることができる。同紙によれば、当時はモンゴル人社会が日進月歩の一途を辿り、発展が非常に速く、専門的用語がますます欠けていることを人々は強く感じるようになり、言語的混乱状態になっていた。新語の翻訳をみなばらばらに用い、どちらが正しいかが分からず、まるで海のなかで迷いながら、方向を失い航行しているようだという³⁵。これは『青旗』紙第28号(第4面)に掲載されたト和克什克(ブフヘシグ)の一文である。同じ内容の日本語は、『新名辞字典』に序文として掲載されている(段落と区読点は報告者が加筆した)。

³⁴ フフバートル(2012)「モンゴル語の近代語彙と辞書(2): 蒙文学会翻訳『新名字典』(満洲国1941年)」、昭和女子大学『学苑』, 第859号。

³⁵ 『フフ・トグ(青旗)』紙, 第28号, 1941年9月27日, 第4面。

現在、蒙古文化の発達を図らうとする有志達は誰でも新名詞の不足に悩んで居ることは周知の事実であります。

ところが、新名詞の翻訳に当っては一人が斯様に訳すと、一人が左様に訳すし、そうかと思ふと又一人は別な文字を以って訳すので、実に千差万別の翻訳が出来て来ます。之を譬えて云ひますと、海を走る船が其の目標が余りに多い為に何れが本当の道であるかが判らなくなって遂に目的地に達しない内に沈没してしまふ様なもので、翻訳が一致しないと文化の進歩発展は多大な障碍となるは明かなところであります。之は只蒙古民族のみならず世界諸国の諸民族も一度は必ず此の困難を経過するのであります。

然も、此の新名詞の選定といふことは実に重大な問題である関係上、一人や二人の力では到底出来得ないもので、必ず中央の命令に従って始めて出来得ることであり、また普及をし有効にもなるのであります。勿論、本会の如く幼稚な団体の出来得る仕事でないことは自覚しては居るけれど、満洲国内蒙古には本会の様な学術団体は未だ外に出来て居らないので、此の責任を他方へ移さうと思ふても受取るもの者が無いのであります。それが為め忍んで之に当って居る有様です。

本会康德六年四月から日本語の『学習便覧・日用辞典』を中心として、月毎に一般に使はれて居る必要な名詞及民生部が翻訳して居ない名詞を五十宛選んで出来るだけ満洲、日本、及西蒙古内の蒙古人並に蒙古文に秀れた日本人等百余名に一部宛御願ひし、月末に会議を開き此の訳してくれた幾多の方々の訳文の中から一番適当な名詞を選定するのであります。此の選定会議に出席される方々の御名前を記すと次の如くです。本会の指導者興安西省長諾拉嘎爾扎布、秘書官察隆阿、実業厅长ト和克什克、科長烏恩濟雅図、科長喀薩巴図爾、国民高等学校教師阿木古郎、及び額爾德陶克他呼、の諸氏です。以上の七名の方々は皆官吏でありますから休暇の時始めて集会出来るのであるし、又会議中に一つの名詞を選定するにも時としては色々議論する為相当の時間を費して始めて出来るし、早朝より晩まで研究して漸く五十の名詞が選定されるのです。斯の様に一語々々慎重に選定しますので、康德七年の末迄に漸く一千語の選定が出来た位です。此の一千語の名詞を察隆阿並に額爾德陶克他呼二人に頼んで解釈を付けて頂き省長始め一同が一つ一つ調整し然して印刷出来るには、急いでも康德八年八月末頃迄かかる様になってしまひました。又康德八年九月より引続き新名詞の翻訳を行ふ予定で居りますが、今度は出来る限り青旗報社に援助を御願ひして蒙古人に広く知らせ多数方々に翻訳して頂く様御願ひしたいと思ふので、読者方の御援助を御願ひする次第であります。

此の新名詞については以上述べた様に何時か政府或は有力な学術団体が出来、此の新名詞を翻訳してくれる様になった場合は、本会は直に翻訳を中止するのですが、それ迄は出来る範囲に於て引き続き翻訳の仕事を致します。

ト和克什克 康德八年八月³⁶

³⁶ 『新名辞字典』、蒙文学会訳、佈和希格校閲、蒙文学会出版、石印、186頁、1941年8月。上記フフバートル(2012)より引用。

同序文は、『青旗』紙の第28号(1941年9月27日)の第4面にモンゴル語で掲載されている。ト和克什克(ブフヘシグ)によれば、日本語の『学習便覧日用辞典』から単語を選択し、モンゴル語の新語作成の基本とした。審査・確定済みの新語が『フフ・トグ』紙に序次に公開されていった。これらの新語は、『フフ・トグ』紙で確認することができるのである。

当時の定期刊行物・書物である『新名辞字典』、『ウラン・バルス』誌、『フフ・トグ』紙、『官用会話教科書』のほかに、さらに総務庁や民生部が発行した文書のようにまだ確認できていないものもある。これらについては、今後の調査に期待したい。

あらためて考えると、満洲国・蒙疆政権期におけるモンゴル語近代語彙には、学術的史料的价值が認められる。残念ながら、今日の内モンゴルの学界では、いまだこのことに関心が向けられていない。

このように述べると往時のあることが頭に浮かぶ。1985年5月のことだと思う。まだ学部生だったわたしは内モンゴル大学のウ・マンダフ先生につれられて、モンゴル語名詞術語専門会議に列席した。その会議において、ある研究者が満洲国期に使われていた一部の新語をいま採用しても構わないという論考を発表したとき、主要メンバーのひとりがただちに発言を遮り、「偽満洲国関連のものは討論の余地はない」と厳しく批判した。戦後、内モンゴル人は、確かに満洲国のすべてを否定せざるをえない状況に追いこまれた。しかし、過ぎ去りし日々の記憶を失ってしまうのは植物人間にほかならない。

おわりに

満洲国はモンゴル人にとってどのような意義を持つのか。今日、戦後の内モンゴルにとって満洲国とは何であったのかがあらためて問われている。かつて民国政府の国策として進められた蒙地開墾、とりわけ張学良政権の興安屯墾によって、モンゴル人は土地を奪われ危機に直面していた。このような状況下で勃発した「満洲事変」によって、内モンゴル人は、ようやく新しい時代を迎えることができた。満洲国はモンゴル文化啓蒙政策を実施したが、『モンゴル・シネ・セトゲール(蒙古新報)』、『フフ・トグ(青旗)』のような近代的な活版印刷技術によるモンゴル人の大量出版活動はその一例である。さらに「興安振興」の一環として、蒙古会館、蒙民厚生会、蒙民裕生会、蒙文編訳館、蒙文学会が設置され、モンゴル人のために多くの学校、病院、文化設備が作られた。『フフ・トグ』紙によると、

1941年から45年までの間に興安4省をはじめとするモンゴル人地域に各種の学校46校が建てられた、という³⁷。

歴史研究の視点から考えると、近代内モンゴルは日本の影響を抜きに語れない。20世紀はじめから、モンゴルは日本と深い関わりを持つようになり、とくに内モンゴル地域の動向は日本と密接に連動するようになっていった。すなわち、すでに近代化が進んでいた日本は大陸進出を強め、その過程で内モンゴルの近代化に大きくかかわった。モンゴル独立軍の編成や近代教育、生産技術の普及などインフラの整備によって、満洲国は、わずか14年間で「貧・病・愚・乱」状態にあった封建的な社会を近代社会へと改造した。これは歴史的事実である³⁸。

³⁷ 『フフ・トグ(青旗)』の1941-45年の関連記事によれば、1941年8校、42年20校、43年10校、44年6校、45年2校が建てられた。

³⁸ 周太平(2015)「近代内モンゴルにおける歴史の真実と認識の「真実」: プフヘシクの死因に対する異論」、『阪大法学』、第65巻第1号(通巻295号)、2015年、298頁。

『フフ・トグ(青旗)』研究における諸問題 ——データベース構築を中心として

都馬 バイカル

1. 『青旗』研究会について

1) 設立の経緯

モンゴル人留学生が新潟産業大学に初めて入学したのは1997年4月からである。今まで、中国(内モンゴル自治区, 青海省, 新疆ウイグル自治区), モンゴル国, ロシア(ブリヤド共和国)から, 500人以上のモンゴル人学生が新潟産業大学で勉学に励み, そのうち, 200人が日本の各大学の大学院に進学した。

日本の各大学の大学院に進学したモンゴル人学生の横のつながりを深めるため, それに加えて, 近代内モンゴルに関する基本的な文献を解説させ, 資料の整理・分類などの研究方法を習得させるために, この研究会が発足した。

2) 研究会の目標

研究会は2009年に設立して以来, 毎年2回例会を開き, 『青旗』紙の目次作成とそのローマ字転写, 日本語訳及び内容解説などの作業を行い, 多種の問題点について議論しながら研究を進めてきた。発足当初, 約50名の学生OBと他大学教員3名が参加していた。2014年から, 主に大学院博士課程の在籍者もしくは修了者の約20名と他大学の教員3名が中心メンバーとして, 下述の目標に従って研究活動してきた。

研究会の最終の目標は, 『青旗』に関する以下の作業を完成させることである。

- (1) ローマ字転写, 日本語訳のデータベースの構築
- (2) モンゴル語の目録索引を作成
- (3) 日本語とモンゴル語対照 『青旗』用語集の編集
- (4) 『青旗』辞典の編集(モンゴル語)
- (5) 分類資料集の編集(モンゴル語)

(文学, 宗教, 人物, 教育, 経済, 軍事, 政治, 社会, 文化, 芸術, 衛生医療, 文物, 地理, 写真, 書道, 徳王政権, 外蒙, その他。合計30冊)

2. 『青旗』研究における諸問題：データベース構築を中心として

日本の統治により、モンゴル地域で近代義務教育が徹底的に行われ、その結果、若者の識字率が高くなり、新聞が読める民衆が増えた。『青旗』紙は主に「政治誘導、情報伝達、文化開花」などを目標として刊行されていた。しかし、満洲国では、最初のモンゴル語総合新聞ということで、編集者の学識レベルと経験不足により、誤字が多く、専門用語が統一されていないなどの問題が存在している。それがデータベース構築上手間取る原因となっている。ゆえに、今回の報告では、とりあえず 1941 年 5 月分、即ち 5 月 10 日（第 8 号）、17 日（第 9 号）、24 日（第 10 号）と 31 日（第 11 号）を実例として、データベース構築における諸問題を取り上げて検討したい。

1) 問題 : 同語異字

国名、地名などを記録する際、2 種類に表記している。

青旗 1 doysisu, 青旗 2 girmani, 現代表記 german	意味：ドイツ（国名）
青旗 1 nibbun, 青旗 2 nibpun, 現代表記 yapun	意味：日本（国名）
青旗 1 bou teü, 青旗 2 boutu, 現代表記 bovutu	意味：包頭（地名）

2) 問題 : 誤字

青旗 jalaxuu	標準表記 jalaxu	意味：若者
青旗 suraxcit	標準表記 suruxcit	意味：学生
青旗 durasxal	標準表記 durasqal	意味：記念
青旗 čirig	標準表記 čerig	意味：軍
青旗 jayiluqu	標準表記 jayilaqu	意味：植える
青旗 axuudam	標準表記 axudam	意味：広い
青旗 čiber	標準表記 čeber	意味：清潔
青旗 ömdege	標準表記 öndege	意味：卵
青旗 ireke	標準表記 irekü	意味：来る
青旗 egürege	標準表記 egürge	意味：任務
青旗 qara	標準表記 qar-a	意味：黒
青旗 sira	標準表記 sir-a	意味：黄
青旗 bolut	標準表記 bolun	意味：及び、と
青旗 toohiyu	標準表記 tookio	意味：東京
青旗 jakirqu	標準表記 jakirqu	意味：支配
青旗 čomuy-a	標準表記 čomu	意味：コップ
青旗 ermeljijü	標準表記 ermeljijü	意味：望む
青旗 sonusval	標準表記 sonusqal	意味：情報

青旗 amisvul	標準表記 amisqul	意味：気温
青旗 boljijy-a	標準表記 boljuv-a	意味：約束
青旗 emgen	標準表記 emegen	意味：老婦

3) 問題：格助詞の誤用

青旗 qimege-ü	標準表記 qimege-yin	意味：声の
青旗 qotan-yin	標準表記 qutan-u	意味：町の
青旗 ertese	標準表記 erte-eqe	意味：前から
青旗 bičig-yi	標準表記 bičig-i	意味：本を

4) 問題：専門用語

青旗にかぎっては、近代語彙を主に日本語から借用し、中国語からも多少借用したように見える。例えば、会議は qural jübdel,あるいは qural jüblel と文字通りに翻訳している。qural を「集会」、jübdel と jüblel を「協議・相談」という意味で取り込んでいる。現在は qural あるいは quralduvan で定着している。参事官を san Si güwan と日本語中国語両方の発音から借用している。

5) 問題：校正の問題

編集者のいい加減さより、文章構成のミスが目立っている。

例えば、『青旗』第8号第2頁に「amidural-i aliba xaǰar bükün-e kögǰigülkü qural-un ger-i bayixulun bötegekü」という文章があるが、直訳は「生活をすべての地域で向上させる会議室を設置」と読み取るが、元の意味は「全ての地域に裕生会の(事務)室を設置」(aliba xaǰar bükün-e amidural-i kögǰigülkü qural-un ger-i bayixulun bötegekü) というべきであろう。それは、「aliba xaǰar bükün-e」を「amidural-i」の前に配置したことによるミスである。

また、『青旗』第8号第1頁の「ドイツの物質使節団を歓迎」と「天長節の記念日を満洲国に開催」という2枚写真の説明文を入れ間違っていた。

3. 検討すべき点

上述した諸問題を考えながら、以下のことについて検討したい。

1) 作者、報告者等の名前について(例：文学作品、報告など)

データベースは文章のタイトルにより作成しようと想定しているが、その際、文章、特に文学作品や情報提供者の氏名を記入する必要があるかどうか。

2) 欄のタイトルについて

『青旗』紙には、「児童の青旗」、「西蒙古の情報」、「文芸欄」、「健康・家庭及び修身」、「家畜」、「読者からの手紙」、「科学」、「物語」、「各校の来訪」、「子供の科学」などの欄が

あり、一つの欄に数編の文章がある。欄のタイトルをデータベースに記入するかどうか。

3) 転写基準について

モンゴル語に転写する際、転写の方式を決めなければならない。ポッペ方式、小沢方式、栗林方式などがある。例えば、「*öüxčj*」などの特別な文字をコンピューターで直接表示できないので、手間取ることになる。

4) モンゴル語の誤字について

上述した『青旗』誌における誤字については、原則はモンゴル文字をそのままに表記し、ローマ字で転写する際、修正するのが良いではないかと考える。

5) 専門用語問題

『青旗』紙における地名と国名及び行政機関名などの専門用語は、当時、近代語彙としてはまだ完全に統一されていなかったのであるが、データを日本語で入力する際には、専門用語を統一する必要性が出てくる。

6) 翻訳の問題

タイトルを翻訳する際、専門用語を当時の日本語表記にするか、あるいは、現代日本語表記にするか。

『青旗』紙は、モンゴル語定期刊行物の発展史において、特別な意味を持っている。植民地、もしくは占領地の性格を持ちながら、満洲国のモンゴル民衆を対象とした最初の新聞で、読者層に多大な影響を与えたのは言うまでもない。それ以前の定期刊行物のほとんどが、特定の階級やグループを対象にして編集されていたことと根本的な違いがある。

研究会の最終目標を達成するには、長期的な、かつ緻密な作業が必要だと考える。

『フフ・トグ(青旗)』のデジタルブック作成をめぐる諸問題

相原 佳之

1. はじめに

大阪大学附属図書館の貴重書コレクション「石濱文庫」に所蔵されるモンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデータベース構築と公開を目指す本プロジェクトの中で、本稿に与えられた課題は以下の二つである。

一つ目は、筆者が関わってきた公益財団法人東洋文庫現代中国研究資料室(人間文化研究機構現代中国地域研究東洋文庫拠点)においてデジタルブックを用いた資料公開を行ってきた経験をもとに、利用可能な知識と問題点を提供することである。また二つ目は、提供された『フフ・トグ(青旗)』の紙面画像をもとに、市販ソフトを用いてデジタルブックを試作し、その中から発見された問題点を挙げ、データベース全体の中においてデジタルブックをどのように活用できるかについて、案を提示することである。

以下、これらの点につき、具体的なブック作成手順等も含めて述べていきたい。

2. 東洋文庫におけるデジタルブックを利用した資料公開

東洋文庫現代中国研究資料室では、これまでに下記のデータベースを公開してきた。(公開 URL : <http://www.tbcas.jp/ja/lib/>)¹

近代中国関係資料デジタルライブラリー (555 タイトル, 47,469 画像)

『柏原英一写真帳』(7冊, 写真数約 800 枚)

『亜東印画輯』データベース (16冊, 写真約 2600 枚)

『亜細亜大観』データベース (16冊, 写真約 2600 枚)

¹ 東洋文庫現代中国研究資料室における資料デジタル化の詳細については、下記の文献を参照。相原佳之・徳原靖浩「東洋文庫における地域研究資源の情報化・共有化の取り組み」, NIHU 研究資源共有化事業委員会編『PNC2013 NIHU 企画セッション報告集』, 85-101 頁, 2014 年 3 月, 相原佳之「東洋文庫所蔵の近代中国資料のデジタル化事業について」, 堤一昭・田中仁編『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性: 東洋文庫政治史資料研究班・研究セミナーの記録』(OUFC Booklet 第 7 巻), 65-74 頁, 2015 年 3 月。

このうち、写真帳を公開している、[http://www.tbias.jp/digitalimages/flipperu](#) は、市販ソフト Flipper U を用いたデジタルブックを作成し、ブックデータを web サーバーにアップロードする形で公開した。これらの資料はいずれも、写真ごとに標題（タイトル）または解説文（キャプション）が附属している。デジタルブック作成時には、この標題および解説文をいかにしてデジタルブックに反映し、利用者にわかりやすい形で提供できるかが課題となった。

においては、写真解説文を透明文字テキストとして埋め込んだ PDF ファイルからデジタルブックを作成する手順で、[http://www.tbias.jp/digitalimages/flipperu](#) においては、JPEG 画像にてデジタルブックを作成し、標題を目次用 CSV で、キャプションを検索用テキストの CSV でそれぞれ追加する手順でデジタルブックを作成し、1 冊ごとではあるが、標題や解説文から該当の写真が載るページが検索できるようにした²。

3. 『フフ・トグ（青旗）』デジタルブックの試作

上記の経験を踏まえ、『フフ・トグ（青旗）』のデジタルブックを試作した。試作の素材として利用したのは、第 8 号～第 11 号（康徳 8 年 5 月 10 日～5 月 31 日）の画像、計 32 画像（1 号あたり 8 頁）である（画像形式は TIFF）。

本報告集の資料に見られるごとく、『フフ・トグ（青旗）』の紙面には 1 ページに複数の記事が載り、記事に大見出し、中見出し、小見出しが存在する。また本報告集の田中仁氏の報告に見られるように、データベースとしては記事の細目を縦書きモンゴル文字やモンゴル語のローマ字転写、日本語訳など複数文字表記・複数言語で記述し検索することが目指されている。

求める検索をすべて満たすためには、それに適した新たなデータベースを構築する必要があるのはもちろんであるが、デジタルブックの機能を利用して、一定の検索は可能である。またデータベースとデジタルブックを併用して閲覧環境を整えることも考えられる。以下、試作した幾つかのバージョンのデジタルブックをもとに、活用の可能性を考えてみたい。

作成したデジタルブックの一覧は、【別表】に載せた。以下、適宜別表 1 行目の番号を用いる。なお、試作に用いたソフトとそのバージョンは、Adobe Acrobat XI Pro、FLIPPER U 4.2.4.0 バリュースタック、FlippingBook Publisher Professional 2.6.40、である。OS 環境はすべて Windows7 Home Premium である。

² 同様にデジタルブックを利用した資料公開の事例として、東洋文庫イスラーム地域研究資料室が公開している Ali Haydar によるオスマン民法典（Mecelle）の注釈書 *Dürerü'l-hukkam* がある（公開 URL <http://tbias.jp/digitalimages/durerulhukkam>）。

1) 事前加工

デジタルブック作成ソフトは、TIFF 画像に対応していないため、JPEG への変換 [0-1] を行った。また PDF への加工 [1-1 ~ 1-3] を行った。

PDF のうち、[1-1]、[1-2] は画像をもとに 1 枚ごと、1 冊 (8 頁) ごとに PDF を作成したもので、検索用の文字列は追加していない。[1-3] では [1-2] の PDF をもとに、記事の見出しおよび本文を PDF の該当箇所に埋め込んだ上で、テキストが表に出ないように画像の背後に隠す処理を行った。記事の一つ一つに対してテキストを埋め込む必要があるため処理に手間がかかるものの、PDF 閲覧ソフトの検索機能を用いることで、目当ての記事にたどり着く手段の一つとすることができる。

2) FLIPPER U によるデジタルブック作成

次にロゴスウェア社のデジタルブック作成ソフト FLIPPER U を用いた試作を行った。まず [2-1] は [0-1] の JPEG 画像を用い、検索用文字列を追加せずに加工をしたものである。画質を「大」で試作したものはサイズが 81.4MB となる。同じ画像を用いた PDF ファイルは 3.4MB であるため、サイズは非常に大きくなる。容量が大きいため web サーバー等にアップロードする際には時間がかかるが、PDF と異なり見開き頁ごとの読み込みになるため、閲覧はスムーズとなる。【別表】に見られるように、目次や検索用の文字列を追加したデジタルブックも、サイズは大きく異ならない。また左開き、右開きどちらのデジタルブックも作成できるため、『フフ・トグ (青旗)』のような左はじまり縦書きの言語でもページそのままの順での閲覧環境を構築できる。

続いて、目次を追加したブック [2-2] を作成した。メタデータは、タブ区切りテキストで、ページ番号に記事見出しを付加したものである。記事の階層 (大見出し、中見出し、小見出し等) は、下例のようにタブの数を増やすことでブック上に再現可能である。目次を追加することで、閲覧者はデジタルブックの左側にツリー形式で表示される目次を確認しながら、目当ての記事のあるページを探ることができる。なお、目次は同じページ番号に対して複数追加できるため、『フフ・トグ (青旗)』のごとく 1 頁に複数の記事を持つ新聞についても応用が利く。ただ、目次に追加した文字列は、このままでは検索できない。

ページ番号 [Tab] 大見出し

ページ番号 [Tab] [Tab] 中見出し

ページ番号 [Tab] [Tab] [Tab] 小見出し

さらに記事見出しの検索を可能にするため、ソフトの検索ワード追加機能を使用し、検索用テキストを追加したデジタルブック [2-3] を作成した。メタデータは目次と同じくタブ区切りテキストであるが、1 頁に対して検索文字列を 1 行で追加する。そのため、1

頁に複数の記事がある場合は、次のような形式で、記事の見出しをタブ以外の任意の文字で区切って追加する。この機能で追加した文字は、デジタルブックの機能を使って検索することで、検索結果一覧が表示され、結果をクリックすることで、目当ての記事の載るページにたどり着くことができる。

- 1 [Tab] 1 頁記事 1 見出し / 1 頁記事 2 見出し / 1 頁記事 3 見出し...
- 2 [Tab] 2 頁記事 1 見出し / 2 頁記事 2 見出し / 2 頁記事 3 見出し...
- 3 [Tab] 3 頁記事 1 見出し / 3 頁記事 2 見出し / 3 頁記事 3 見出し...

同じ機能を用い、メタデータとして記事見出しの代わりに記事のキーワードや本文を入力したタブ区切りテキストを用いれば、これらも検索対象になる。つまり、デジタルブックの機能を利用して、キーワードや本文の検索機能も簡易的に備えることができる。なおメタデータの文字コードは UTF-8 であり、多言語検索を目指す場合に、この範囲内の文字が使用可能である。ただ、この検索ワード追加方法では、目当ての記事の載るページが検索できるだけであり、その記事がページ内のどこに載るかは、検索結果に示されない。

上記のようにタブ区切りテキストを用いる検索ワード追加機能のほか、PDF を用いた検索ワードの追加も可能である。前述した [1-3], つまり文字列を追加した PDF を用いることで可能になる。PDF で追加された文字列は、検索された場合に文字列の背景色が反転するハイライト表示がされる。それゆえ、記事のある場所に文字列を適切に埋め込んだ PDF を利用すれば、検索された記事がページ内のどこにあるかがハイライト表示により明確になる。検索機能としてはより利便性が高まることになる。

3) Flippingbook によるデジタルブック作成

今回は、主として上記 FLIPPER U による試作を中心に検討したが、同種のソフト Flippingbook も用いたデジタルブックも試作した ([3-1] [3-2] [3-3])。FLIPPER U よりできあがりのサイズは小さくなる。文字列追加済みの PDF ファイル ([1-3]) を用いた場合にハイライト表示が実現できる点は、FLIPPER U の場合と同様である。ただ、[2-2]のようなタブ区切りテキストを用いた検索文字列追加はできない。また、目次の追加も一つ一つ手入力で行う必要がある。一方、検索結果の一覧性は FLIPPER U よりも優るという印象を持った。

4 . デジタルブックとデータベースの連携について

FLIPPER U でも Flippingbook でも、出来上がったデジタルブックは一冊が一つのフォルダに格納されたファイルの一セットとして出力できる。そして FTP クライアントソフト

等を用いてブックデータをフォルダごと web サーバーにアップロードすることで閲覧可能になる。

リンク先として、フォルダ(ディレクトリ)内の index.html ファイルを指定すると、ブックコンテンツが起動される。また各ページごとに固有の URL が生成され、その URL をリンク先として指定することで、デジタルブック内の特定のページを直接閲覧することができる。ページ固有 URL は、データベースと連携を行う際に活用できる。たとえば、データベースの記事のメタデータに、下記のように画像リンク URL としてページ固有 URL を載せることで、データベースの検索結果から容易にデジタルブックの該当ページにピンポイントで飛ぶことが可能になる。ページに飛んだ後には、前後のページにも移動できる。ただし、ページ内のハイライト表示を同時に行うことは難しい。

データの詳細な検索はデータベースにおいて行い、スムーズな閲覧環境はデジタルブックにより提供するという形で、特性を生かした併用が可能であろう。

記事番号	号	面	表題モ	表題日	表題英	作者1	作者2	年月日1	年月日2	キーワード	分類	...	画像リンク URL
1	8	1										...	http://www.*****/#page=1
2	8	1										...	http://www.*****/#page=1
3	8	2										...	http://www.*****/#page=2
4	8	3										...	http://www.*****/#page=3
...

5 . 終わりに：今後に向けて

以上、『フフ・トグ(青旗)』のデジタルブックを試作した結果を述べてきた。市販のデジタルブックソフトを用いて、記事見出しや本文等の検索ができ、データベースと連携可能なブックが作成できることが示された。

今後実際の活用の際には、本稿で紹介した以外のデジタルブック作成ソフトの機能や、作成したデジタルブックの見映え等の問題も同時に検討し、より容易な閲覧環境の整備に向けた取り組みが必要になるであろう。

また、『フフ・トグ(青旗)』の1冊ごとにブックを作成するのか、発行年月ごとに月単位でブックを作成するのか、検索用テキストとしてどのような情報を載せるか、記事のハイライトを実現するために比較的手順のかかる PDF へのテキスト埋め込みを行うか否か、デジタルブックの作成を業者委託するか否かなどの課題については、完成期日や人員など

の条件に基づいて作業量を見積もり、実現可能な最適なデジタルブックを作成することが
のぞまれる。

本稿での初歩的な試作結果が、『フフ・トグ(青旗)』のデータベース構築・公開の過程
において快適な閲覧環境を実現する際に活用され、『フフ・トグ(青旗)』がより多くの研
究者・学生等に利用されることに少しでも資することができれば幸いである。

別表：作成したデータの一覧表

	0-1	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3
種類	JPEG	PDF1枚 ごと	PDF一冊 ごと	PDF文字埋め込 み	FLIPPER検索なし	FLIPPER目次 つき	FLIPPER目次検 索つき	FLIPPER PDF文 字埋め込み	FlippingBook カタログ グ	FlippingBook 文書	FlippingBook PDFより
素材	tiff	tiff	tiff	1-2のPDF (あり)	0-1のjpeg	0-1のjpeg	0-1のjpeg	1-3のPDF	0-1のjpeg	0-1のjpeg	1-3のPDF
目次	なし	なし	なし	(あり)	なし	あり	あり	あり	なし	なし	あり
検索用	なし	なし	なし	(あり)	なし	なし	あり	あり	なし	なし	あり
OS	Windows 7	Windows 7	Windows 7	Windows 7	Windows 7	Windows 7	Windows 7	Windows 7	Windows 7	Windows 7	Windows 7
ソフト	フリー ソフト	Adobe Acrobat	Adobe Acrobat	Adobe Acrobat	FLIPPER U	FLIPPER U	FLIPPER U	FLIPPER U	FlippingBook	FlippingBook	FlippingBook
作業	拡張子 の変更	ファイル から PDFを 作成	ファイルを PDFに 結合	目次または検索 用テキストを記 事箇所に埋め込 み(手作業)	デジタルブック加工	デジタルブッ ク加工、目次は タブ区切りテ キストフア イルでインポ ート	デジタルブック加 工、目次と検索用 テキストはタブ区 切りテキストフ イルでインポ ート	デジタルブック加 工、テキストは PDFの埋め込みテ キストから自動抽 出、目次はタブ区 切りテキストフ イルでインポ ート	デジタル ブック加 工	デジタル ブック加 工	デジタルブック加 工、テキストは PDFの埋め込みテ キストから自動抽 出
設定									カタログ	文書	カタログ
見開き / 片面	片面	片面	片面	片面	見開き	見開き	見開き	見開き	見開き	片面	見開き
画質				大/標準/小	大	大	大	大	最高品質 / ライト	最高品質	最高品質
備考				画像のみ				検索結果文字の八 イライが可能。			検索結果文字の八 イライが可能。
サイズ		0.5MB	3.4MB	81.4MB / 31.8MB / 15.4MB	81.5MB	81.6MB	83.0MB	60.5MB / 29.6MB	60.4MB	44.2MB	

『フフ・トグ（青旗）』データベースの構築と公開にむけて

田中 仁

1. はじめに

大阪大学附属図書館の貴重コレクション「石濱文庫」には、1940年代前半に満洲国で発行されたモンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』が世界で唯一、ほぼ完全な形で所蔵されている（全178号、うち5号分欠）。当時の文化・民族政策とメディアの関係、現在にいたる民族意識を知るための重要な資料として1990年代から再び注目されてきた。本資料が近代内モンゴル社会の諸相をビビッドに再現しうる極めて豊富な情報を有することは、(1)都馬バイカル准教授（桜美林大学）らによる「フフ・トグ」研究会の活動、とりわけ記事索引（モンゴル語とそのローマ字転写、日本語）の作成作業、(2)中国でのリプリント版刊行計画と、ナランゲレル・内モンゴル大学教授による記事細目（モンゴル語）の作成に示されている。

大阪大学が所蔵する『フフ・トグ』紙の画像資料1054件と、都馬バイカル准教授作成の記事索引約9400件、ナランゲレル教授作成の記事細目（約1000件）を統合して、モンゴル語をふくむ多言語 Web 検索システムを構築するとともに、『フフ・トグ』データベースのウェブ上での公開を企図している。

2. モンゴル語新聞多言語 Web 検索システムの構築

このデータベースは、①大阪大学が所蔵する『フフ・トグ』紙の画像情報（欠号分を内モンゴル大学、京都大学人文科学研究所・現代中国研究センター、東京外国語大学所蔵資料から提供を受ける）、②都馬バイカル准教授作成の記事索引（モンゴル語とそのローマ字転写、日本語訳）、③ナランゲレル教授作成の記事細目（モンゴル語）に加えて、④各号の刊行日前後の国際情勢日録（日本語と英語、大阪外国語大学アジア研究会『1940年代アジア総合年表』1995年、1992～94年度科学研究費補助金・一般研究(A)成果報告書）によって構成され、画像情報（本紙の原版、および同紙に掲載された写真情報）を中心に、書誌情報と索引・日録について、モンゴル語・日本語・英語による横断的検索を行う。

このデータベースは、モンゴル語と日本語・英語による多言語 Web 検索システムの構築をめざしている。すなわち：

(1) 記事索引の複数文字表記・複数言語による検索対応

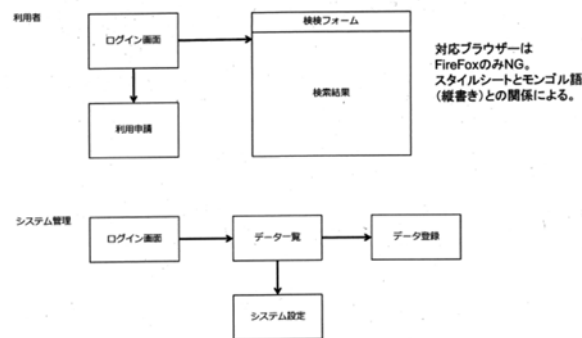
このデータベースに対するアクセス、さらに利用を簡便にするために、記事索引の検索方法にいくつかの工夫を施す。すなわち、記事索引は合計4種類の言語表記から検索できるようにする(①縦書きモンゴル文字モンゴル語 [当時の綴り字法による]、②同前 [現代の内モンゴルでの綴り字法による]、③モンゴル語のローマ字転写 [ポッペ・モステール方式による]、④日本語訳)。①②により新旧モンゴル語綴り字の両面からの検索が、③により海外を含めモンゴル文字を表示できない通常のPC環境からの検索が、④によりモンゴル学研究以外にも広く研究者・一般利用者からの検索がそれぞれ可能である。

(2) 写真資料の提供

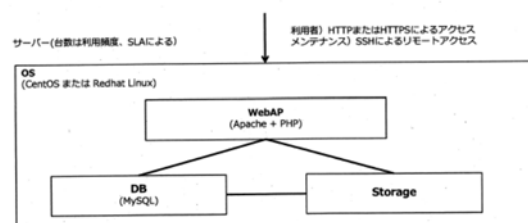
『フフ・トグ』掲載の写真資料、くわえて同時代の国際情勢日録を検索・参照できるようにすることにより、モンゴル語話者に限らず、広く日本と東アジアの近代を研究課題とする研究者に図像・歴史背景の情報を提供する。

(3) (1) (2) をふまえて、画面フロー・システム・データベースは、以下の構成を想定している。

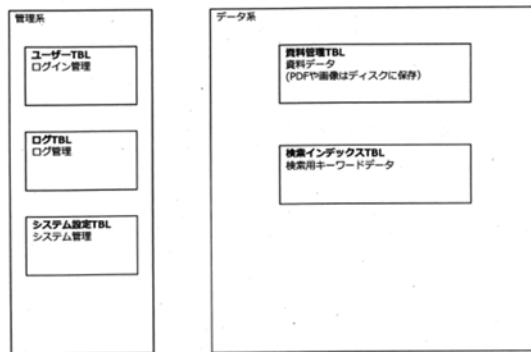
画面フロー (案)



システム構成 (案)



DB構成 (案)



(株)富士ゼロックス・吉益正晴氏提供資料

3. データ情報とデータベース・イメージ

現在までに入手 (確認) している情報とデータ数は以下のとおりである。①画像資料：1054 件 (TIF 形式, 紙面一頁ごとに 1 件), ②バイカル准教授作成の記事索引 (a.モンゴル文字表記・b.モンゴル語のローマ字転写・c.日本語訳) 概数 9400 件 (4 号分のデータから算出) 基本的に作業を完了, ③ナランゲレル教授作成の記事細目 (モンゴル語, 作業完了) 約 1000 件, ④同時代の国際情勢の日録資料 (日本語と英語) 作業完了。日本語データ 2900 件, 英語データ 970 件 (一か月分のデータから算出)。

データベース化にあたって, 以下に示す 4 種のイメージを作成した。

1) 都馬バイカル准教授作成の記事索引



[説明] ①左半分が都馬バイカル准教授作成の記事目録, 右半分が対応する『フフ・トグ』紙の紙面である。②左半分の記事目録は, モンゴル文字表記部分 (縦書き, 左→右), 日本語訳部分 (縦書き, 右→左), モンゴル語のローマ字転写部分 (横書き, 上→下) の三部分で構成される。③この三部分の記事は, スクロールさせて当該紙面のすべての記事を表示させる。

2) ナランゲレル教授作成の記事細目



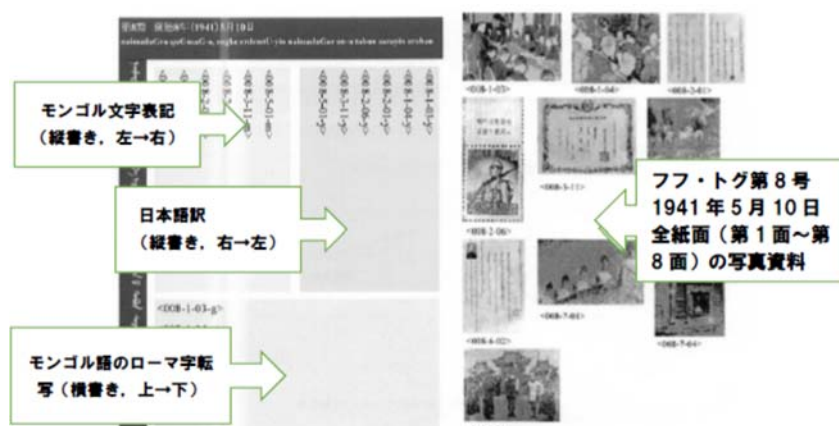
[説明] ①左半分がナランゲレル教授作成の記事細目，右半分が対応する『フフ・トグ』紙の紙面である。

3) 国際情勢の日録記事資料



[説明] ①右半分が『フフ・トグ』紙の紙面，左半分が大阪外国語大学『1940年代アジア総合年表』所載の日録記事資料である（刊行日前後一週間の記事をスクロールさせて表示する）。

4) 各号の写真資料



[説明] ①右半分は『フフ・トグ』1号に掲載された写真資料のサムネイル，左半分は各サムネイルに対応する記事目録（都馬バイカル准教授作成）である。②サムネイルをクリックすると拡大画像が表示される。

* * *

データベース構築に向けたデータ情報の処理について、以下の二点について留意が必要である。

第一に、都馬バイカル准教授作成の記事索引における日本語訳は、現段階ではモンゴル語から逐語的に翻訳したものであるため、当事の満洲で発行されていた日本語紙たとえば『満洲日日新聞』による対照・校閲作業が必要である。

第二に、「各号の写真資料」を一覧化しサムネイルと拡大画像として表示するには、現在手許にある TIF 形式の画像資料は写真画像として適さない。このため、新たに画像を作成する必要がある。

4. データベースの公開に向けて

1) 知的財産権に関する対応

(1) 『フフ・トグ』の画像資料

「満洲国司法資料」[第2]（満洲国司法部法務司編，大同2[1933]年）の序文で「すでにある規制で国体国情に抵触しないものは、執政教令第3号にもとづきこれを援用する。改革増益の必要があれば別にこれを制定する」とし、同書 393-396 頁に 1915 年（民国 4 年）の中華民国著作権法を収録していることから、当該資料は同法の保護を受けていたとみなされる。同法によると、団体名義の著作の著作権は 30 年（第 7 条）としており許諾の必要はない。個人の著作にあつては「作者の死後 30 年」を保護期間としているが（第 4 条）、停刊後 70 年を経ており、かつすでに失効した国外法の保護下にあることから、パ

ブリックドメイン扱いとしたうえで著作権者の名乗りを求めるアナウンスを掲載する。著作権者等からレスポンスがあった場合、個々の著作物に応じて適切・誠実に対応する。

(2) ナランゲレル教授作成の記事細目

本細目は中国国内で公刊する予定であることから、著者・ナランゲレル教授ならびに出版社の双方から書面による許諾をとる。

(3) 旧大阪外国語大学アジア研究会による日録資料

多くの研究者が参与した編集著作物として、表現にかかわった人々からの許諾を求めることにする。連絡を取れない人については、連絡があったときに誠意をもって対応する。

2) 予想される成果と展望

[学術的利用] ①このデータベースは学術用であり、日本のみならず中国・モンゴルほか世界各地のモンゴル学、およびモンゴル語を研究言語とする研究者と学生からの利用が想定される。『フフ・トグ』が近代モンゴル語の言語資料・文学資料としての側面ももつため、歴史分野のみならず言語学・文学分野からの利用も多いと考えられる。②モンゴル語を研究言語としない多くの日本の近代、東北アジアの近代を研究課題とする内外の研究者からの利用も想定される。その利便を図るため、記事索引に日本語訳を付すことと千数百件の写真画像に日本語のキャプションを付して一覧化すること、および同時代の国際情勢の日録資料（日本語と英語）を付加する。

[研究者・学生以外の関心] 上記の日本語のキャプションを付して一覧できる写真画像については、研究者以外の一般からの利用が想定される。これらはその後の歴史変動の中で現存しない文化財など貴重な画像を多数含むためである。このデータベースでは、日本語キャプション（漢字を用いているため漢語使用者からもアクセス可能）記事索引やモンゴル語ローマ字転写などを通じて、当時の満洲（中国東北地方）の状況に関心を持つ一般利用者とともに、現代の中国内モンゴル等からの利用に対応することができる。

[展望] このデータベースを大阪大学附属図書館ホームページ上からアクセスできるようにするほか、デジタル資料も対象とする国会図書館「国立国会図書館サーチ」（NDL Search）からも検索可能とし、事前に本データベースの存在を知らない研究者・一般利用者からの検索にも対応できるようにする。また、さらに将来的に京都大学地域研究統合情報センターが設ける「地域研究資源共有化データベース」への参加も図る。

[付記]

本稿の作成にあたって、データベース・システム構築については（株）富士ゼロックスの、知的財産権については大阪大学・智適塾（法曹実務家）の、データベース公開にかかわる諸条件については大阪大学附属図書館・学術情報整備室のアドバイスを受けた。

討 論

討 論

堤一昭 5人の方の報告を受けて質疑等を行います。コメントを受けて情報交換の場になればと思います。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の中見立夫先生に最初にお願いします。上八¹時代に、すでに『フフ・トグ (Köke tuγ, 青旗)』をごらんになったとのことで、お教えいただければと思います。

中見立夫 今日は大変有意義な研究発表をありがとうございました。今年は、キャプタ協定締結100周年です。一昨日まで北京からウランバートルに行き、ウランバートルからキャプタに行って講演して、また北京から大阪空港に着いて展覧会を見に行き、東京に戻って今朝、新幹線に乗ると指定席は満席です。何とか座れてやってきました。

古い話から始めさせていただきます。「石濱文庫」を最初に見たのは、なんと上八時代、1970年代前半です。この席におられる方でその時代を知っている方がいるかどうか。ほとんどの出席の方がひょっとしたらまだ生まれていない時代ではないかと思います。その時は汚い校舎でして、それが印象に残っています。大変なご苦労をされて大阪外国語大学が「石濱文庫」を手に入れた直後に見に行ったのです。その時は、『フフ・トグ (青旗)』を見に行ったのではないのです。立派な目録 (『大阪外国語大学所蔵石

濱文庫目録』1977年版か) をいただいていたのです。ロシア帝国の外交文書(集)であるオレンジブックに、一冊だけモンゴル関係の資料集があります。それがその『目録』に著録されていて²、探してもらったらすでに無かった。その後も手紙でやりとりしても、とうとう見つからなくて。でも不思議なことに日本の外務省で見つけ、1913年の露中宣言のことで論文を書きました。オレンジブックは収録された文書に改ざんがあるので有名です。モスクワの外務省文書館で外交文書の原本を確認し、(日本の)外務省所蔵本の写真も撮っています。薄い冊子ですが、今からでも一応探されてみて、現物があればめずらしいものなので、よろしいと思います。

大阪外語(大阪外国語大学)が(箕面キャンパスに)移転した後にも、何回か来ました。モンゴル語の新聞『フフ・トグ(青旗)』などにも興味がありました。感心したのは『ニースレル・フレーニー・ソニン・ビチグ (Neyisler Kūriyen-ü Sonin Bičig, 首都フレー新聞)』があったことです。これは、1911年にモンゴルが独立した時のウルガ、ウランバートルの新聞です。日本で見たのは初めてです。全巻はないのですが、その全部のコピーをとりました。『石濱文庫目録』を作って賞をとられ、後に大阪外語を辞められた図書館員³の方に、これは珍しいものですよ

¹ 大阪外国語大学は、外国語学校時代から1979年に現在の大阪大学箕面キャンパスに移転する前まで、大阪市天王寺区上本町8丁目にあり、「上八(うえはち)学舎」と呼ばれた。

² *Сборник дипломатических документов по*

монгольскому вопросу : 23 августа 1912 г.-2 ноября 1913 г. / Министерство иностранных делъ, С.-Петербург, 1914 (16 p, 30 cm. 請求番号 319.226, 登録番号 99900276975) を指すか。

³ 布川嘉佑氏は「東洋学関係資料(石濱文庫)の

と伝え、綴じてもらい表紙をつけました。もう一つ『ムクデニー・モンゴル・セトグール (Mügden-ü Mongγul Sedküil, 奉天蒙文報)』という復刻版がかなりの量あります。その後、満洲語の本を調べにきた時に見たら、マイクロフィルムになっていました。田淵陽子さん⁴はそれを使ったと述べています。今日は『フフ・トグ (青旗)』がまとまってあるという話ですが、大阪外語の「石濱文庫」には他の(モンゴル語の)新聞もあるのです。

東洋文庫にも『フフ・トグ (青旗)』があります。昔は、倉庫の中に段ボール箱に入れて置いてありました。戦前期、20世紀になってからのモンゴル(の刊行物)は、東洋文庫に結構ある。『シネ・トリ (Sin-e Toli, 新しい鏡)』という、ウランバートルの、ウルガの時代に出た有名な雑誌があつて、昔は洋書の中におかれていました。そういうモンゴル語文献を、島根県立大学にいる井上治さんに、引き出してモンゴル語の方に一括して置くようにしてもらいました。ただ、探すときまだ出てくる。今回は欠けている分を見つけるわけですね。(『フフ・トグ (青旗)』は)最後は何年まで出ていましたか。

堤 1945年6月頃⁵までです。

中見 6月ですか。よく調べられたら『フフ・トグ (青旗)』は全部見つかるでしょうね。『シネ・トリ (新しい鏡)』は、第1号から第3号まで全部、東洋文庫にあります。第1号第1冊は2冊ある。一部はモンゴル問題で活躍したロシアの外交官コロストヴェツからモリソンにプレゼントされたもので、コロストヴェツのサ

インがある珍しいものです。以前出た『モリソン・パンフレット』の目録にもその旨書いています。ところが、東洋文庫ではモリソン・パンフレットを製本したとき、そのサインの頁を削除してしまい、驚きました。

『ニースレル・フレーニー・ソニン・ビチグ (首都フレー新聞)』、『シネ・トリ (新しい鏡)』については、モンゴル科学アカデミー歴史研究所のチョローン (Чулуун, Сампилдондовын) 所長が熱心で、ぜひ写真にくれと言っています。『フフ・トグ (青旗)』もそうですが、劣化がひどいのです。大阪外大は国際的に貴重なものをお持ちですので、よく考えられて(画像による公開を)なさるといいと思います。

もうひとつ、東洋文庫では松筠(スンギョン)が満洲語で記した書、『百二十老人語録』⁶鈔本を数年前に買いました。東洋文庫のものの方が良い写本です。『百二十老人語録』の別の鈔本が大阪外語の渡部(薫太郎)のコレクションにもあります。日本の満洲語文献コレクションとしては、東洋文庫、天理(天理大学附属天理図書館)と並んで、大阪外語のものはいい。渡部薫太郎は、関東州で写真屋をやっていたという、はっきり言えば胡散臭い人ですね。目録はあるのですが、作り直そうと思って、杉山清彦君(東京大学大学院総合文化研究科。大清帝国史)が大阪大学にいた時、岸田文隆さん(大阪大学大学院言語文化研究科。朝鮮語学・満洲語学)とでチェックしてもらいました。(堤の報告にあった『庫倫事宜』は、)庫倫辨事大臣の満洲語の手紙を写したもので、珍しいです。『フフ・トグ

整備に関する功績」により、第11回国立大学図書館協議会賞(昭和51(1976)年度)を受賞された。

⁴ 田淵陽子氏。著作に「1945年東アジア国際関係における「モンゴル独立問題」」(博士論文(平成15年(2003)),大阪外国語大学)ほかがある。

⁵ 石濱文庫所蔵分で「康徳十二(1945)年七月二十三日」付けの178号まで刊行が確認されている。

⁶ 満洲語のタイトルは、Emu tangû orin sakda-i gisun-i sarkiyān bithe)。松筠(スンギョン)は、清朝乾隆

年間の蒙古正藍旗の人。当時の旗人の生活を記した貴重な史料。日本での鈔本所蔵は長らく大阪外国語大学所蔵のもののみであった。神田信夫『百二十老人語録』のことども『満学五十年』、刀水書房、1992年、113-117頁(原載は『岩波講座世界歴史月報』21号、1971年)、橋本勝「『百二十老人語録』について」『大阪外国語大学附属図書館報 Library Information』第9号、1997年、7頁参照。

(青旗)』だけというより、ぜひ、いろいろな大阪大学の満洲語、モンゴル語の貴重書をどういふふう公開するかを考えていただきたい。

ちなみに、画像をクリックしたら日本語の翻訳テキストまで(表示される)という遠大な計画をお持ちのようですね。それに近いことを一つだけやったことがあります。横浜ユーラシア文化館に江上波夫先生が集めたオロン・スムの資料がある⁷。14~16世紀の遺跡で、モンゴル帝国の皇帝の姻戚のオールドを発掘して、ヨーロッパのゴシック式の僧院が見つかったという大発見です。江上さんが20世紀の世界中の考古学者の有名な10人の中に入る最大の理由は、これを発見したことです。それでヨーロッパに招待される。江上さんは僕と同じように資料を集めるのだけど、どこにいったか分からないと言う。(資料を)見たいというモンゴル人が来たものですから、江上さんのマンションにつれて行き、2時間かけて探し出しました。僕は「どこにいくかわからないから、古代オリエント博物館にもっていけ」と言ったのです。その後、江上さんは古代オリエント博物館に入らずに横浜市に寄付されました。画像にされていますから、横浜市ユーラシア文化館のホームページを見てください。カラー画面が出て、モンゴル語のところをクリックするとローマナイズも出て、日本語も出てくるシステムを作りました⁸。これは私の本来の仕事ではなくて、責任者にさせられただけの話です。

『フフ・トグ(青旗)』に関して、大阪大学のプロジェクトでは画像に撮って、全部をクリックして(ローマ字転写も日本語訳も出るように)

するということですね。周太平さんもおられるし、貴重なものもお持ちなので、そういうものを、高度な(画質の)映像化をしてCD-ROMにされて、総合目録をつけた方がいいですね。(そうしないと)モンゴル語ができない人には『フフ・トグ(青旗)』を利用しようがないのです。そこまで、(内モンゴルからの研究者に)頼ってやる必要はないかもしれない。複製本も日本の新聞社がやっているような形(縮刷版)で出されてはどうでしょう。(『フフ・トグ(青旗)』の内容のかなりの部分は日本語の翻訳なので、記事内容の)成立過程も含めて、再整理して公開していくかという課題です。『フフ・トグ(青旗)』というまとまったものを持っていることは大きな資産なので、大阪大学のプロジェクトとして公開と活用の方法をよく考えられたらよいのではないかと思います。ところで拓本はどうなっているのですか。まだ段ボール箱の中ですか。

堤 拓本は今、整理に向かっています。中性紙製の専用の箱に入れてあります。

中見 (堤の報告に)『蒙古源流』の内藤湖南手沢本があると書いてありましたね。ちなみに、大阪外語の最初のモンゴル語の先生の一人は、内藤湖南の娘婿の鴛淵一さんです。その後、広島文理大学に移りました。彼が(広島大学に)残していった満洲語、モンゴル語の拓本類は、誰も見ないので(長らく)置いたままだったらしい⁹。鴛淵さんの同僚の浦廉一さんが『百二十老人語録』を最初に研究した人です¹⁰。いっしょにやったのが東南アジア史の伊東隆夫さん。韓国で『百二十老人語録』の翻訳が出ています

イズが表示される。

⁹ 寺地遵「故鴛淵一教授蒐集 広島大学文学部東洋史学教室所蔵満蒙史関係拓本紹介」『広島大学東洋史研究室報告』第9号、1987年、37-41頁。

¹⁰ 浦廉一、伊東隆夫「満語「百二十老人の話」の研究」『史学研究(広島史学研究会)』(52)、1953年、61-79頁。

⁷ 中見立夫「江上波夫と内モンゴルのオロン・スム遺跡調査」『オロンスム:モンゴル帝国のキリスト教遺跡』、横浜ユーラシア文化館、2003年、77-88頁。

⁸ 現在は、ホームページから「収蔵資料・検索」→「資料データベース・オロンスム文書」と進み、文書リストのサムネイル画像か収蔵番号をクリックすると、カラーの画像とテキストのローマナ

が、面白いことに底本は大阪外語の所蔵本です。10年前に東洋文庫は満漢合璧鈔本、『満漢百二十老人語録』を買いました。

時々、内藤湖南のサイン入りの手沢本も売りに出ていました。大阪外語の鴛淵一さんは、内藤湖南の記録によく出てきます。(内藤湖南は、最初に北京で『蒙古源流』の)漢文本を買って、瀋陽では満文本も買おうとする。モンゴル語本がなかなか見つからなくて、それは青写真を撮ったと細かく出てきます¹¹。(堤の報告で紹介された『蒙古源流』の内藤湖南手沢本¹²は)漢文本で、内藤湖南が書き入れをしているだけであって(史料的)価値は全然ない。ただし満洲語本の内藤湖南が買ってきたのは京大の東洋史にあるはずですよ。今はどうなったか知りませんが…。

ロシア語資料でも貴重なものは、かなりマイクロフィルムで見られる。バラノフの『バルガ』は、東洋文庫にもあるでしょう。ピロビジャンの新聞は珍しいかもしれませんが、ドイツあたりにいったら見られるでしょうね。そのあたりは、資料のアクセスや国際的な役割を考えて、もっと効率的なプロジェクトを構想できるでしょう。京都大学にも、法学部にモンゴル語の珍しい資料、法制史のものを集めたものがありますよ。文部科学省も東洋学のデータベース化をやっているくらいですから、(協力・分担して)資料の発信をされるといいのではないかと思います。

公開に関しての著作権の問題をおっしゃったけれども、著作権はそれぞれの国の法律に拘

束されるのです。満洲国は傀儡国家で、なくなった国家ですから、満洲国の著作権が法的拘束力があつたかどうか、問題ではないのです。大昔の本の著作者なんて分かりっこない。むしろ現在持っているところが自由に資料を提供するかどうかというところが問題です。この前も、モンゴル語聖書の国際プロジェクト¹³があつて、東洋文庫に(著作権のことを)尋ねてきたそうです。聖書の著作権なんて誰にあるのですか。翻訳権とか翻訳者が(本に)書いてあるわけではないのです。満洲国での著作だなどと考える必要はないでしょう。日本の国会図書館がやっているように貴重な資料を積極的に画像で公開していくことが大切です。ダウンロードされることが問題であれば制限したらいい。

『フフ・トグ(青旗)』を日本人の研究者で使う人は、あまりないかもしれない。しかし、(この資料は)重要なのですよ。モンゴル史の観点に立てば、独立国家というのはすごいものです。清朝時代以降の公文書がずらっと残っている。それこそ政策の展開過程が追えるわけです。一方で満洲国のモンゴル人向けの新聞、しかもかなりのニュースは他からとってきているもの。今後、周太平さんやバイカルさんが(成果を)出す時に、日本側が(『フフ・トグ(青旗)』の記事を)どの程度チェックをしていたかという問題を考える必要があるわけです。当時の満洲国のモンゴル人がモンゴル語で自分たちの考えを、ある程度書けたというのが『フフ・トグ(青旗)』です。最近、東京で女性研究者3人か4人が、モンゴルの教育や文芸問題で学位を取

¹¹ モンゴル語版を青写真で撮ったことは、内藤虎次郎「奉天宮殿にて見たる凶書」『内藤湖南全集第12巻』筑摩書房、1970年、「目睹書譚」所収。「奉天訪書日記」(『全集第6巻』)、「奉天訪書談」(『全集第12巻』)には『蒙古源流』への言及がない。¹² 内藤虎次郎、前掲「奉天宮殿にて見たる凶書」註2(41頁)に「(『蒙古源流』の)漢訳本は官版と文溯閣四庫写本とは異同があるので、所蔵の流布本に朱藍両筆を以て官版と文溯閣本との対校

をした。」とあるものに相当する。学術的な価値にとどまる。

¹³ 「I.J. シュミットの聖書翻訳200周年記念国際シンポジウム「聖書のモンゴル語翻訳と精神史」が、2015年9月4日にウランバートルで開催された。本ワークショップ報告者の一人、都馬バイカル氏も「スウェーデン宣教団の出版活動及び聖書翻訳」と題する報告を行った。

り、『フフ・トグ（青旗）』を使っています。というのは、満洲国の政府の公文書は基本的にほとんど残っていない。ましてモンゴル語の文書などはほとんどない。回想録資料を使うか、『フフ・トグ（青旗）』に多少出ているモンゴル人の考えしか使えない。ともあれ、近代内モンゴルの史料には、モンゴル人がモンゴル語で自分の考えを書いたものはほとんどない。外モンゴルの状況とは全然違うわけです。清朝時代の行政文書も残っているし、その後、人民共和国になって以降、いくら第三者の力があつたにせよ、ある程度モンゴル人によるモンゴル語の記録があるのです。満洲国期は、モンゴル人の考えを完全に自由に書けたという時代ではありません。バイカルさんの努力で、かなりの部分、いろんな関連資料を紹介しておられる。因みに『蒙文白話報』¹⁴は天理図書館にある。中国の北京政府の広報のためのモンゴル語雑誌です。あれを見るとモンゴル人の人名などをモンゴル語でどう表記・翻訳するのかが分かります。

最後にひとつだけ周太平さんに質問。言葉の編集委員会。チンゲルテイ（Čenggeltei, 清格尔泰）と同世代の、社会科学院にいたエルデニトクトホ（Erdenitoytaqu, 额尔敦陶克陶）について。『フフ・トグ（青旗）』に出てくるエルデニトクトホのことではありませんか。彼は私も1回、1980年代に会いました。彼は興安学院出身で、戦後の内モンゴルの文字改革や語彙を決めた人です。一方で文法をやったのはチンゲルテイですね。文革の時に腕を折られたとのことですが、なかなか風格のある方でした。文革前の最初の段階では、内モンゴルにモンゴル語学者はいなかった。戦後、中国科学院の内モンゴル分院ができた時、最初の言語学者はチンゲルテイ。チンゲルテイは内蒙古大学ができたから（そち

らに）移って、エルデニトクトホは社会科学院にいたのです。文字改革の話をしてくれたのが1980年代なかばです。それからほどなくして亡くなったと聞きました。

話し言葉を文章にして、語彙をどう定めるかは、難しい問題ですね。たとえば「内モンゴル自治区」というけど、「内モンゴル」について）ドトード・モンゴル（Дотоод Монгол / Dotuγadu Mongγul）とウブル（南）・モンゴル（Өвөр Монгол / Öbür Mongγul）と二つの言い方がある。内蒙古人民革命党の「内モンゴル」はドトード・モンゴルです。「内モンゴル」自治区はウブル・モンゴルなのです。いつ誰がこちらに来て（言葉を決めて）いったのかが分かるような話を、モンゴル人とやった方がいいかなと思います。ウブル・モンゴルは清朝時代からです。ドトード・モンゴルは漢字「内蒙古」からの翻訳なのです。なぜ戦後、内蒙古人民革命党はドトード・モンゴルだけど、内モンゴル自治区はウブル・モンゴルになったのか。本来はドトード・モンゴルでもいいのだけれど、謎です。

長々と話しました。ちなみに石濱さんは薬問屋の坊ちゃん、仕事は全部任せて、丸善にくる（東洋学の）本は全部買ったという有名な方なのだそうです。

堤 70年代前半のことからの情報、アドバイスをありがとうございました。“オレンジブック”のような小冊子類は心して探したいと思います。

中見 他の新聞等も、1920年代くらいのもので、『奉天蒙文報』などもあるはずですよ。

堤 それは内田先生も前に調査されていると思いますが、周先生から。

周太平 堤先生の報告にも指摘されていた東京日日新聞 1927年の記事では石濱純太郎が

¹⁴ 大阪大学外国学図書館（旧大阪外国語大学図書館）「旧分類」にも1～18号所蔵される。内田孝「内モンゴル近現代文学研究からみた『青旗（フフ・トグ）』紙：モンゴル語定期刊行物の研究現況に言

及しつつ」『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ（青旗）』のデジタル化と公開の可能性』OUFCブックレット第7巻、2015年、注(3)参照。

『モンゴル・シネ・セトゥグール（蒙古新報）』を全部取り寄せている話がありました¹⁵。しかし確認したところでは『奉天蒙文報』はありましたが、先生がおっしゃった新聞はありませんでした。

中見 白い段ボール箱か何かに。目録をつくられています。

周 十数年前、2002年ごろだと思います。その時、内田孝先生が作成された「大阪外国語大学石濱文庫所蔵モンゴル語新聞リスト」では、『ニースレル・フレーニー・ソニン・ビチグ（首都フレー新聞）』の「第2号～第14号、ただし第6号（第7号?）のみ欠号」と書いてありますが、わたしは去年の夏、石濱文庫に入って捜したところ、現物が見つからないですね。さきほど、中見先生も『ニースレル・フレーニー・ソニン・ビチグ（首都フレー新聞）』があったとおっしゃるので、どこかにあるはずですが、これらの刊行物は1910年代のモンゴル独立時期のウルガ=フレーにて発行されていた大事なものです。くり返しになりますが、『東京日日新聞』の記事によれば、「石濱文庫」所蔵のモンゴル語新聞には確認されていないものもあると思います。

内田孝 阪大にあるとは思いますが、15年前に私が見た時には、モンゴル新聞のオリジナルはビニール袋に入っただけの状態でした。図書館の方に「貴重な資料なのに劣化がひどい。ページをめくったら破れる状態です。すぐマイクロ化してください」とお願いしたら「お金がないからできない」と言われました。「それなら私がモンゴル語科の卒業生からお金を集めます」と言ったら、翌週に「お金は何とかしたからこちらでデジタル化する」と言われました。それでデジタル化が実現しました。現物がいまだどこにあるかは知りません。

中見 田淵陽子さんが研究生をやっていた時は、マイクロでちゃんと見られますと。

堤 マイクロになっているものはすべてCDに焼いてあると思います。今回、CDの全タイトルが見られていないので。現物も、そうバラけてはいないと思います。後ほど探します。

中見 モンゴルが辛亥革命で独立した直後のモンゴル語の新聞で、もっと古いのはハルピンで刊行したものがあるのだけれども、ただ紙のものは破れたかもしれませんね。「こんなものを段ボール箱でおいてあるとは何事だ」と思った記憶があります。

周 『奉天蒙文報』は現物もあります。それは間違いない。しかし、『ニースレル・フレーニー・ソニン・ビチグ（首都フレー新聞）』はなかったと思います。

中見 綴じてあってね。

周 戦後、内モンゴルでは、言葉の問題だけではなく、さまざまな問題で人々が不安を抱き、民族社会は安定していませんでした。深刻な民族問題が発生し、民族の言葉をめぐっても対立が生じました。たとえば名詞術語の造語をめぐって、「中国寄り」と「モンゴル寄り」の二派が対立していました。

中見 1980年代、在外研究の際に、会いたいというから、チンゲルテイと話をしました。（彼は）ごく初期の蒙古言語工作委員会や1950年代の内モンゴル社会科学研究院で、モンゴルにおける近代語の文法研究に活躍されたのです。

堤 周先生が去年（2014年）9月に、内田さんが前にごらんになった時のビニール袋入りの状態から、きちんとした状態に移し変えていただいたのですが、移転直前の慌ただしい時でした。内田孝さんの15年前のリストとつきあわ

¹⁵ 昭和二（1927）年六月二十二日号。「わが国で蒙古語の新聞を蒙古から全部取寄せて読んでゐるのは、陸軍の参謀本部の外に、ひとり石濱氏を数へるのみであるといふ。」とあるので、『モンゴル・シネ・セトゥグール（蒙古新報）』かどうかは分

からない。堤一昭「石濱純太郎を紹介する新聞記事2件および解説」『石濱文庫の学際的研究』（平成23年度大阪大学文学研究科共同研究研究成果報告書）、2012年、16-21頁参照。

せて、細かいものまでは全部はチェックできなかった恐れもあります。

中見 旧大阪外国語大学にあった貴重図書は？

堤 去年 9 月から作業を始めて旧大阪外国語大学貴重図書室にあった「石濱文庫」を主とするその他のすべての貴重図서가、こちら（大阪大学豊中キャンパスの総合図書館貴重コレクション室）に移りました。「旧分類」図書は箕面キャンパス（の外国学図書館に置かれた）ままです。

中見 クーロン（『庫倫時宜』）は？

堤 こちらに来ています。

中見 大阪外語の渡部（薫太郎）文庫には「松筠（スンギョン）の日記」と称するものがあつた。ところが最近、（中国の）中央民族大学の方（趙令志）が、あの有名な松筠（スンギョン）ではない（つまり『百二十老人語録』の著者の松筠ではない）、別の旗人の松筠という人物が日々の生活のことを書いているものだとの研究をしている。ファクシミリ版で立派な装丁 2 冊で出版されている¹⁶。

堤 それはまだ確認していません。貴重図書室でも、満洲語文献を固めて置いてはありませんでした。「旧分類」図書でも、それ以外のところでも、満洲語文献はバラけて入っています。

中見 その点は岸田文隆さんがよくご存じです。岸田さんを介して（閲覧の）許可をもらったと聞いています。箕面（の外国学）図書館では満洲語のファクシミリ版のものがある。

堤 岸田さんとも最近、お話していません。先程の話にも出てきた渡部薫太郎からの寄贈のハンコを押したものが貴重図書室にもありました。清朝時代の誥命が 3 通、古いのは乾隆時代のものがありますが、かなり傷んでいます。他にも女真文字の拓本などがありますが、それらもバラけていて全貌はまだつかめていませ

ん。『フフ・トグ（青旗）』もようやく去年、周太平先生とガンボルトさん（鉄鋼。法学研究科博士前期課程）がちゃんとした保存箱に入れ換ええました。ついこの間、『フフ・トグ（青旗）』に若干の重複本があることを、伊藤崇展君（文学研究科修士課程）といっしょに見つけました、もう一度調べ直さないといけません。どの程度、把握されているのかの再調査が今日に間に合いませんでした。

中見 渡部薫太郎は、今の北朝鮮と東北の境界の町で写真屋をやっていた。スパイだったのではないかとも思います。今、あんな資料はほとんど残ってないけれど、まして『百二十老人語録』とかをどうの方法で収集したのか。まだその時代、関東（州）には旗人たちがいた。その人たちの家から買い集めたのではないかとも思います。当時の大阪外語では 1920 年代、30 年代、満洲語の授業があつて、よく聞く人もいたものだと思います。そういうことは岸田君が詳しいでしょう。

堤 分かりました。ありがとうございます。

中見 まとまった満洲語文献のコレクションは、東洋文庫と天理図書館にあり、大阪大学と学習院、京大の東洋史、広島大学にもある。渡部薫太郎に情熱があつたということですね。大阪大学で頑張つて貴重な資料を整理してください。

堤 ありがとうございます。それでは今日の先生方のご報告に対するご質問、コメント等ございましたらお願いできないでしょうか。

石川禎浩 京都大学人文科学研究所の石川です。今日ここに来ましたのは、人文研にも『フフ・トグ（青旗）』（1～41 号）と話題になった『奉天蒙文報』（5～28 号）の現物があるからです。阪大のみなさまにはすでにお伝えしていますが、人文研で数年前、書庫の中から『フフ・

¹⁶（清）松筠（穆齊賢）記；趙令志，関康訳『関

窓録夢訳編』，北京・中央民族大学出版社，2011 年。

トグ (青旗)』が見つかりました¹⁷。人文研がそれらを所蔵するに至った経緯は不明です。人文研にある分については、すでにデジタル撮影を終えていて、いつでも提供できるとお伝えしました。これに対して、阪大でも「石濱文庫」所蔵のものをもとにデジタル化、データベース化が進んでいるという話をうかがって、今日このワークショップに参加した次第です。私はモンゴルの専門家ではありませんが、大変魅力的なプロジェクトで、単にデータベースだけではなく、日本語で当時の年表を付加してデータベース化することにより、ナレッジベースに近いものを構想していらっしゃる点についても、大変期待しています。

2つ質問したいと思います。ひとつは周先生に、『フフ・トグ (青旗)』からモンゴル語の近代語についての変遷や貴重なデータが得られるとのこと。今までモンゴル語の近代語の来歴については漢語の影響が大きいといわれてきましたが、『フフ・トグ (青旗)』によって日本語の影響も見られるというお話を大変興味深く伺いました。西洋のさまざまな翻訳概念を表した近代漢語は、それが日本語の影響を受けて清末に形成されたという事情があります。それゆえ、近代漢語と日本語の影響を分別するのがなかなか難しいわけですが、近代漢語と日本語をどのように区別しているのかについて、周先生にお尋ねしたいと思います。

もうひとつはデータベースに関して、いろんなデータを盛り込むことには賛成ですが、この処理についてです。『フフ・トグ (青旗)』には画像がたくさんついており、キャプションをデータ入力することによって写真の検索も可能になるとのことですが、その一方で、キャプションに書かれていないデータや、そこに写っているものが必ずしもキャプションに反映され

ていない場合もあると思います。データベースをつくるにあたって、画像にどのようにしてタグをつけようとなさっているのかについて、お教えてください。

堤 質問のひとつ目に関して周先生からお願いいたします。

周 1910年代から満洲国樹立までの時期におけるモンゴル語の新語には、漢語からの影響が見られます。もちろん、北のほうでロシア語の影響もありますが、とくに蒙蔵委員会による新語作成の基本に漢語(中国語)があった。しかし、満洲国期に新語を作るとき、日本語の『日用辞典』などの辞書を使い、当時の「新語集成」として出版された『新名辞字典』は、じつは「日本語 - モンゴル語対照新語辞典」であった。日本語の「物理」「数学」や「革命」などは、日本語から中国語に入って、また中国語経由でモンゴル語に訳されたことも考えられます。私の考えでは、『フフ・トグ (青旗)』から得る情報を、日本語の辞書を使って、それに照らしてどれくらいの言葉が直接日本語の意味を表しているのかを分析することが必要です。

石川 資料の7ページに「文明」と「文化」という言葉があります。これらは訳語として大切なタームですが、そもそも近代のモンゴル語のタームだったのでしょいか、あるいは満洲国時代に制定されたのでしょいか。

周 資料にある5つくらいの言葉は以前からありました。たとえば「商業」、「工業」、「農業」です。これに対して「文明」、「文化」、「報告書」、「明細書」や「教育」はこの時代に初めて出てきました。私の判断ではこれらは日本語を参照した結果です。

石川 この時代に初めてですか。

周 1930-40年代に「オトガ・ゲゲン」(udq-agegegen, 文明)と言っていました。戦後に

¹⁷ 小野寺史郎「現代中国研究センター配架図書に関する二、三の覚書」『人文』第61号、2014年、

38-39頁。

なると、「ボルバスン」(bolbasun, 文明)という言葉が使われるようになります。現在は「イルゲンシル」(irgensil, 文明)とも使います。

石川 「文化」や「文明」について、1930年代まで訳語がなかったとは、にわかには信じることができません。

周 それらの表現がもともとモンゴル語にはないわけではありません。「文明」や「文化」と言いますと、それは訳語ではなく、固有名詞として本来にモンゴル語に存在していました。ただ、モンゴル人はこの本来の用語を継承できず、時代にあわせて新語を作り出すわけです。もちろん、テクニカル・タームは新しく作らなければならないのです。モンゴル語には、伝統的用語の断絶、方言差の大きい、口語と文語の不統一という歴史上の問題があります。

中見 清朝時代のモンゴル語には漢語の影響が確認できます。たとえば日本のことは「リーベン」(Riben)と書いています。その後「ナラン・ウルス」(Naran ulus, Наран улс)と表記されます。さらに人民革命を経て「ヤポン」(Япон, Япон)が使われるようになりました。1980年代、ウランバートルに行くとき「ナラン・ウルス」を使っていました。「リーベン」は中国語の訳語で、「ヤポン」はロシア語からの訳語です。一体、どの時点で、何が用いられていたのかを確定することは、社会言語学者の課題でしょうか。

周 清朝期のモンゴル語に「ナラン・ウルス」という言葉が出ています。「太陽の国」という意味です。1920年代から満洲国時代に「リーベン」と「ナラン・ウルス」どちらも使われていました。

中見 「ドイツ」はどうですか。

石川 「文化」や「文明」については、満洲国時代に確定された言葉が使われたということですね。

中見 それは昔からありますね。「教育」も。

周 戦後、外モンゴルの方がよいということに

なり、それらを受け入れるという傾向がありました。しかし、外モンゴルでは、従来の「アイマグ」(aimag, аймар)という言葉で「県」や「省」に相当する行政単位として使ったのは適当ではありません。「アイマグ」はもともとモンゴルの部族のことです。戦後、外モンゴルにまねて、伝統的「チゴラガン」(čiyulγan, 盟)という行政単位としての言葉を廃棄して「アイマグ」を用いるのは間違いです。

田中仁 もうひとつの画像の問題について。去年11月に最初の研究セミナーを開き、『フフ・トグ(青旗)』をデジタル化してウェブ上で公開したいという合意ができました。それで東洋文庫の相原(佳之)さんに、e-bookとして何が可能かサンプルを示してほしいとお願いしました。またバイカル先生らが作成された記事目録を拝見し、これからどのような作業を行う必要があり、どのように整理することができるのかを検討していきたいと考えています。キャプションについては、バイカル先生の記事目録はモンゴル語と日本語の表記があり、さらに写真や図についての説明を記しています。実際には、この記事目録をもとにして、どのように整理してデータベースを構築するかをこれから考えていくことになるでしょう。e-bookの可能性については、相原さんが具体的なイメージをご紹介くださいました。これをもとに検討作業を具体化したいと思います。

石川 期待しています。

都馬バイカル 配布資料についてですが、「1941年5月10日」の「008」は項目数が100を超えるため三桁の整理番号をつけました。「8」は第8期で「1」は第1面、「01」は最初の記事という意味です。実際には、作業の関係で数字がずれているところもあります。複数の研究者による共同作業であり、またモンゴル語ソフトが違うため調整が必要です。「08」のところにある「蒙」はモンゴル語、「イ」はローマ字転写

です。

内田孝 中見先生から初代学長の中目覚先生の話が出ましたが、中目先生は晩年、大阪外国語学校学長時代にやり残したことというのを文章に残しています。その中に、自分たちでモンゴル活字をつくってモンゴル語書籍を刊行したかったが実現できなかったということを書いています。大阪外国語学校では1928年9月から鈴江萬太郎がモンゴル語教員になりました。この人は元陸軍軍人で、東京外国語学校でモンゴル語を学んだあと、ブリヤート方面で工作活動をしていました。陸軍を退役してからは東京でモンゴル語日本語辞典をつくっていて、それはのちに陸軍省編『蒙古語大辞典』になります。その辞書の巻頭にはブリヤートや内モンゴルの知識人や高名なラマ僧などが題辞を寄せていて、鈴江の交遊範囲の広さを知ることができます。2週間に一度、東京から大阪にきてモンゴル語を教えていましたが、1年もたたないうちに脳溢血で急死してしまいました。それで中目学長が自ら鹿児島へ行き、そこで学校教員をしていた精松源一先生（あべまつ・げんいち。蒙古語部第一期生）を「大阪に戻ってこい」と説得し、大阪外国語学校蒙古語部の教員になってもらったという経緯がありました。

阪大外国語学図書館の「旧分類」図書資料の中には、20世紀初頭にフレーで出版された学校教科書などの貴重なモンゴル語書籍が残っていますが、それらはこの鈴江萬太郎がブリヤートから入手したものではないかと思っています。鈴江の蔵書は東洋文庫に入っていますが、一部は大阪外国語学校に寄贈した可能性があります。所蔵に至った由来は分かりませんが、貴重な本がたくさんあるわけです。これらも利用しやすいように紹介し、古くて閲覧を許可で

きないものは、複製を作成するなどの工夫をお願いしたいと思います。

中見 鈴江については、東洋文庫の青木雅浩君が調べています。東京外国語大学の図書館にも一部ある。東洋文庫ではブリヤート（文献）書庫にも入っている。鈴江が東洋文庫に売ったか、寄付したか。（彼の）ノートが出てきた。それをもとに青木君に東洋文庫の「鈴江蔵書」について書いてもらった¹⁸。大阪外語の図書館には帳簿は残ってないですか。それを見ると何年にどこから入ったとか、価格が載っています。ソウル大学でも戦前の京城大学のものがあるとのことですし、東京外語にも昔のものが残っています。ジャムツァラーノ（Ц. Жамцарано）の『国家の権利』とか、おそらく戦前のハルピンかの本屋を通じて、ロシア語のものも含めてかなり買っていますね。東洋文庫のモンゴル本や近代関係も、北京でエージェントのようなことをしていた人が寄付している。モンゴル語や満洲語文献は、北京や奉天（瀋陽）の古本屋とかで、軍人さんが買ってきたものがあります。今は、北京の古本屋でモンゴル語の本を売っていますね。

堤 阪大外国語学部のロシア語の先生が、大阪外国語学校時代の授業の内容を調べようと思って、古い時代の学校要覧を探されたのですが、肝心の『大阪外大 70 年史』を作った際の資料が見つからないとのことでした。同窓会の咲耶会で保管されているのか、もう一度調べてみる必要があると思います。

バイカル先生、周先生のお話でも『フフ・トグ（青旗）』の記事索引で日本語の部分はどうするかが意外と難しいことが分かってきました。『フフ・トグ（青旗）』の記事の翻訳元となった日本語の記事がある場合、『フフ・トグ（青

¹⁸ 青木雅浩「東洋文庫所蔵鈴江萬太郎寄贈図書について（含 東洋文庫所蔵鈴江萬太郎寄贈図書一覧表凡例）」『東洋文庫書報』第40号、2008年、

77-132頁。

旗)』だけでは元の日本語が分かりにくい部分がたくさんある。それらを全部チェックした上でデータベースをつくるとなると至難の技です。バイカル先生、ナランゲレル先生がつくられたものをまずは活用したい。日本語訳もバイカル先生たちが積み上げてきた業績を使いたいと思います。確定版ではなく暫定版でも、まず上げて公表しようということです。このことは、前回2014年12月の研究セミナーで民博の小長谷有紀先生が話されていました。

相原佳之 見せ方として e-book を採用するということが決定しているわけではないのですが、選択肢の一つとして、これまで東洋文庫で行ってきた e-book の実例をご紹介します。「ウィキペディアのような」と表現されましたが、画像へのタグづけやキーワードなどを増やしていく可能性があるという点や、『フフ・トグ (青旗)』についてこれから研究の進展可能性が大いにあるという点を考えれば、ある程度柔軟性をもたせた追加可能なデータベースの形式を採用しておくのが望ましいかもしれません。ウィキペディアのように誰でも自由に書き込めるかは別にして、柔軟性をもったデータベースということです。項目は同じでも、内容を追加していくことができるデータベースや、追加したデータを含めて検索が可能になるようなデータベースというのは、開発業者の方ですでいくつかのモデルを持っている場合が多いと思います。データベースを提供している会社で学術的なものに対応した経験のあるところと相談しながら、データベースの項目をどうするか、項目のうちどの部分を検索できるようにするか、どの項目を検索させないようにするかなど、開発業者とご相談されたらよいと思います。経費の面でどの程度の余裕があるのかにもよりますが、使いやすいデータベースを相談しながらつくっていくことが望ましいと考えます。とはいえ、開発業者との間でデータ

ベース構築の話を決める前には、項目として何を採用するのかを研究者側で明確しておく必要があります。開発業者が提示する項目は『フフ・トグ (青旗)』データベースについては不要なものもあると思うので、標準的な項目は共通させるとしても、それとは別に『フフ・トグ (青旗)』の紙面から必要な項目をリストアップし、投入しうる作業量と経費との関連でこの項目までを実現するのかを決めていければいいと思います。

堤 大事な点をご指摘いただきました。

田中 最初に業者の方と話をした時、データベースのありようを閉鎖型にするのか、応答型にするかがポイントだと伺いました。また利用者の検索を前提にするのであれば、サーバー設置が必須であることも指摘されました。閉鎖型での日本語部分の展開は、とても大変な作業になると思われますし、途方もない作業量になるかも知れません。私たちが構想しているのは、なるべく早く公開するために必要なことは何かということです。開放型のウィキかどうかはともかく、日本語の用語の確定それ自身が重要な研究課題となるということでしょう。重要な課題であれば、今回のような研究セミナーを開催するというように、データベースの構築と研究活動とにリンクさせることがよいと思います。とすれば、完全フリーでも閉鎖型でもないその中間的な形態として具体化するのが現実的なのではないでしょうか。

相原 そうかもしれませんね。また、開発業者にデータベース構築をお願いするのと合わせて、他にもさまざまな形で協力する機関を探すことも一案です。たとえばデータベースに強いNPOとか理工系の研究プロジェクトとかとも協力していくこともできるかも知れません。柔軟に考える必要があります。

堤 日本語の用語についての提起を受け止めて反映する。富士ゼロックスの人に「いつでも

フリーの形のウィキ的な感じにするのか。時期を区切ってたまたまところを反映するサイクルをつくっていくのか？」と聞かれました。いつでもというのは不可能だから定期的に半年、1年とかが現実的だと思います。データベースを構想する時の広い意味での「設計」にあたることだと思っています。ちなみに、同じく大阪大学の「懷徳堂文庫」では目録を公開する時に、昔、本でつくったものを最初は画像だけで公開していました。専門家の目から見て誤りや直すべきところがあれば、懷徳堂記念会なり中国哲学研究室なりにメールで連絡してくれとありました。そういう試みもなされたのです。

橋本勝 この研究会は去年12月にも出席し、今日は、2回目の参加です。5人のご発表は興味深く、新しい知見を得ることができました。私は大阪外国語大学の教員OBで、10年ほど前に2年間、旧大阪外国語大学附属図書館長を務めました。その間にも、内モンゴルや欧米からも「石瀆文庫」や旧分類の古い貴重図書を開覧したいとお見えになりました。周太平先生がご紹介された内モンゴルの方々です。10年くらい前、内モンゴル師範大学のU. ショゴラー(U. Šuyar_a, 烏・苏古拉)先生は娘(ナヒヤ)さんが東京に留学しておられることもあり、訪日されました。ご滞在中、『フフ・トグ(青旗)』をぜひ見たいと連絡を受けました。その頃は来校されれば開覧していただくことができたのですが、結局、ご都合悪くご来校はかないませんでした。それで既にマイクロフィッシュに撮ってありましたので、先生のご要望に応じて若干コピーをして滞在先の東京へお送りしたこともありました。『フフ・トグ(青旗)』研究に限っても、私が現役(大阪外大在職)の頃、錚々たる若い研究者が開覧にお見えになりましたが、彼らは今や一線の研究者として活躍されています。石瀆文庫に関係し大阪外国語大学に在職していた旧教員として、このことをうれしく

また誇らしく思います。

20年あまり前、内モンゴル大学のB.ゲレルト先生が奥様とご一緒に日本を訪問されたことがありました。短い滞在期間にもかかわらず、大阪外大の図書館訪問を希望されました。まだ整理が行き届かない頃でしたが、書庫に入られて2、3日べったりと座って書き写されていたことを思い出しました。当時、すでに日本と内モンゴルの交流が盛んになりつつあり、大阪外大でかなり多くの留学生が学んでいました。懐かしい気持ちになります。

現在は東京で一線の教授として活躍しているフフバートルさん(昭和女子大学)も、大阪外大で学んでおり、『フフ・トグ(青旗)』をはじめとする、かつて内モンゴルで発行された新聞類などを参照したいと仰っていました。また、ずっと以前のこと、内モンゴル出身のインディアナ大学のゴンボジャブ・ハンギン(Gombojab Hangin)教授が天理大学で1年間研修をされていましたが、1982年秋、同教授は大阪外大を訪れ箕面キャンパスの附属図書館書庫で『フフ・トグ(青旗)』などの新聞や文学関係の書籍を見て、「こんな貴重なものがある。何とかしないといけない」と仰っていました。

ウランバートルからも多くの方々がお出でになりました。勿論『フフ・トグ(青旗)』だけではなく、図書館にはモンゴルの新聞・雑誌類あるいは帝政ロシア時代に出た文献、雑誌類がかなり揃っています。嘗てウラジオストックで発行された文献資料や、ロシアで刊行された東洋学関係の書籍、紀要、雑誌類はとても貴重な資料だと思います。多くのものは『大阪外国語大学所蔵石瀆文庫目録』に載っていますが、未整理で掲載されていないものも存在します。8年前、大阪外大と阪大が統合し、1年前に「石瀆文庫」などの貴重図書が箕面キャンパスの外国語学図書館(旧大阪外大附属図書館)より豊中の総合図書館に移ったということです。環境

面では整備が徐々に進んできていると思います。堤先生や田中先生のご尽力もあり、『フフ・トグ（青旗）』のデータベース公開に向けた作業が進んでいることを誇らしく思います。これは日本の研究者だけでは無理であり、内モンゴルの研究者や日本におられる内モンゴル出身の研究者の協力をえて公開が実現することが望めます。どこまで公開するのかについては異論があり、さらに著作権や法律上の問題はありますが、できるだけ研究者が自由に閲覧できる形でデジタル化と公開が進んでいくことを希望します。

今後、さらにモンゴル語の転写方法についても検討しなければなりませんね。

堤 ありがとうございます。今日は目録に載ってないところもターゲットにして話をしましたが、ただ『石濱文庫目録』があればこそ、洋書も漢籍もネットで全部検索できるようになっているわけです。

今日の報告者たちの目標は、『フフ・トグ（青旗）』データベースをつくりたいということです。データベース化に当たり、田中先生から、考えるべき項目のポイントについてコメントをお願いします。

田中 『フフ・トグ（青旗）』という新聞が貴重な学術資産であることは間違いないのですが、それをどのように活かしていけるか、息を吹き込んでいけるのか、さらに大阪に足場をおきながらどのようなアカデミック活動を展開していけるのかを構想したいと思います。今日、バイカル先生に初めてお目にかかり、お話をして気づいたことがありました。内モンゴルの方々にとって『フフ・トグ（青旗）』がかけがえのない貴重な資料であり、そのことが記事索引として共同で整理を行う契機となっていること、同時にその日本語訳はモンゴル語からの翻訳であり、当時実際に使われていた用語ではないことです。また相原先生には、どのようにデジタ

ル化を進めうるのかについてのサンプルを提示していただきました。日本語の訳語の確定は、確かに大変な作業ではありますが、見方を代えると、このことは研究を進める価値があるということでもあると思います。次の一步をどう踏みだせばよいか。さらに5歩10歩先を考えながら今日の議論を通して考えることができればと思います。

堤 今日の成果を持ち寄って次の一步を記すためには、ライブラリアンの助言と協力が不可欠です。阪大図書館員の方々に早くからご相談すればよかったです。直接の担当は坂本祐一さんとのことですが、野原亜希さんは大阪外国語大学図書館から移ってこられたので両方をごらんになっています。お気づきの点などございますか。

野原亜希 小都晶子先生が図書館でアルバイトされていた頃も存じあげています。また橋本先生はじめ懐かしいお顔を拝見して思い出すことも多々ありました。私は懐徳堂データベースの開発に携わっていますので、その経験から一点お伺いします。『フフ・トグ（青旗）』データベースで構想されていることは、画像の公開にいくつかの付加価値をもたせ、多言語による検索を可能にすることでしょうか。附属図書館は記事や論文を検索できるデータベース・サーバをもっていますが、それらと性質が近いのかも知れません。現在のデータベースは図書画像の公開データベースですので、書誌の中身を検索しキーワードとして画像を公開することになります。こちらは図書館が運営にあっているものであり、テキスト化などの作業については先生方の成果を待つこととなります。懐徳堂のデータベースは業者にお願いしていますが、公開後の修正、目次の追加ができる機能がほしいと考えています。

もう一点、検索時に使用する文字についてです。モンゴル文字、ローマ字転写、日本語の3

種類をお考えですが、実際に研究される先生方として検索に使用される文字はモンゴル文字が主になるのでしょうか。

周 ローマ字の表記は統一する必要があります。モンゴル文字の場合、コンピュータ（パソコン）にモンゴル文字のソフトがないと検索できません。

野原 モンゴル語のローマ字の転写方法はどれを採用するつもりですか。

橋本 古典モンゴル語（モンゴル語文語）の転写法（ポップ式）がポピュラーで、多くの研究者はそれによって転写しています。内モンゴルの現代モンゴル語についても、この転写法に統一すれば問題ないのではないのでしょうか。

内田 複数ある転写法の対照表を付けておくことが現実的かも知れません。

橋本 内モンゴルの標準的転写法と所謂モンゴル語文語の転写法とでは異なる場合があります。また方言を反映した表記も考慮にいれますか。

バイカル 今回採用したのは、すべて内モンゴルの標準的転写法です。ただ方言を反映する点に難点があります。

橋本 若干のモンゴル文字の母音字、子音字を転写する場合、今でも表記上の揺れ（o/u, ö/ü, t/d, q/h/x, j/ġ, c/ĉ など）がありますね。

バイカル 転写法の問題は、ある程度解決できると思います。

周 大事な点を指摘していただきました。検索

に用いる基準を決める問題です。当時のモンゴル語をそのまま入力したら検索できないとすれば、現代モンゴル語に書き直すのか、あるいは、どのような転写法を採用するのかを統一する必要があります。

橋本 専ら内モンゴルの標準的転写によるのか、モンゴル国の標準音も考慮しながら統一するのかという問題もあります。

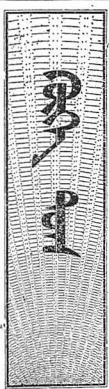
内田 ポップ式の j の上にチェックをつけるフォントはパソコンにはあらかじめ存在しないのです。東北大学の栗林均先生がつくっているモンゴル語ウェブ辞書（言語資料検索システム）や東京外国語大学図書館の転写表記なども参考にしながら、ルールを決めていくのがいいと思います。

堤 これから詰めていかないといけない問題を最後に指摘していただき、ありがとうございます。当時の表記を保存する役目もありますが、検索の時には使いやすい形が望まれます。今日いただいた意見をもとに相談していきたいと思います。これからもご協力、ご助言をいただきたいと思います。

それでは長時間、報告者の先生方、フロアの方々から情報をいただきありがとうございました。実のあるワークショップになったことを感謝します。これをもちまして本日のワークショップ「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ（青旗）』データベースの構築・公開に向けて」を終了したいと思います。ありがとうございました。

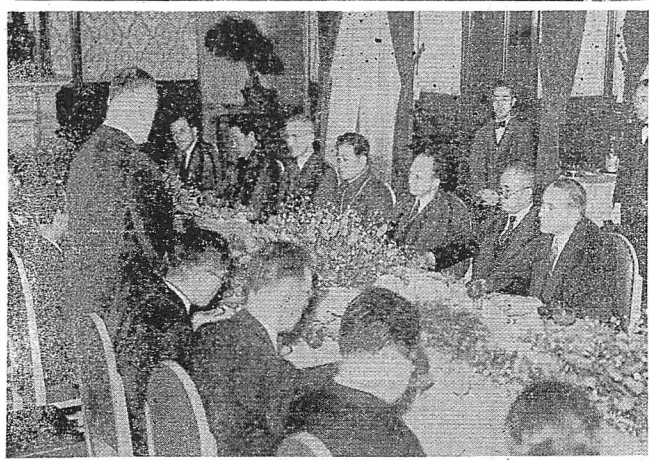
資料

本書に転載・収録した『フ・トグ(青旗)』第8~11号における写真等について、著作権者等からのご意見・質問がございましたら、大阪大学中国文化フォーラム事務局まで封書にてご連絡ください(住所は奥付に記載)。問題があった場合には、個々の著作物に応じて適切・誠実に対応します。



大衆の政治的行動と政治的意識

政治的行動と政治的意識の関係を論じている文章の冒頭部分。大衆の政治的行動は、その政治的意識の表れであるという考えが述べられている。



政治的意識の形成には、教育やメディアの影響が大きいと指摘されている。大衆は、これらの影響を通じて、自己の政治的立場を形成していく。

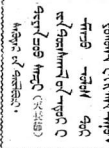
政治的行動は、単に投票や選挙だけではなく、日常的な政治的発言や参加も含む。大衆の政治的意識が、これらの行動に反映される。

政治的意識の向上には、政治的参加の機会を創出することが重要である。大衆は、積極的に政治に関与することで、自己の政治的意識を高めることができる。



政治的意識の向上には、政治的参加の機会を創出することが重要である。大衆は、積極的に政治に関与することで、自己の政治的意識を高めることができる。

政治的意識の向上には、政治的参加の機会を創出することが重要である。大衆は、積極的に政治に関与することで、自己の政治的意識を高めることができる。



政治的意識の向上には、政治的参加の機会を創出することが重要である。大衆は、積極的に政治に関与することで、自己の政治的意識を高めることができる。

政治的意識の向上には、政治的参加の機会を創出することが重要である。大衆は、積極的に政治に関与することで、自己の政治的意識を高めることができる。

政治的意識の向上には、政治的参加の機会を創出することが重要である。大衆は、積極的に政治に関与することで、自己の政治的意識を高めることができる。

政治的意識の向上には、政治的参加の機会を創出することが重要である。大衆は、積極的に政治に関与することで、自己の政治的意識を高めることができる。

政治的意識の向上には、政治的参加の機会を創出することが重要である。大衆は、積極的に政治に関与することで、自己の政治的意識を高めることができる。

... (Text continues with various news items and reports from the region, including mentions of local events and administrative matters.)

... (Text continues with further news items, possibly related to the local economy or social conditions.)

... (Text continues with news items, including reports on local governance and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly focusing on community events and local news.)

... (Text continues with news items, including reports on local news and public opinion.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

... (Text continues with news items, including reports on local governance and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly focusing on community events and local news.)

... (Text continues with news items, including reports on local news and public opinion.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

... (Text continues with news items, including reports on local governance and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly focusing on community events and local news.)

... (Text continues with news items, including reports on local news and public opinion.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

... (Text continues with news items, including reports on local governance and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly focusing on community events and local news.)

... (Text continues with news items, including reports on local news and public opinion.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

... (Text continues with news items, including reports on local governance and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly focusing on community events and local news.)

... (Text continues with news items, including reports on local news and public opinion.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

... (Text continues with news items, including reports on local governance and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly focusing on community events and local news.)

... (Text continues with news items, including reports on local news and public opinion.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

研九
研九
研九

研九
研九
研九

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)

... (Text continues with news items, including reports on local governance and public affairs.)

... (Text continues with news items, possibly focusing on community events and local news.)

... (Text continues with news items, including reports on local news and public opinion.)

... (Text continues with news items, possibly related to local news and public affairs.)



... (Introductory text in Chinese characters) ...

... (Text block in Chinese characters) ...

... (Text block in Chinese characters) ...

... (Text block in Chinese characters) ...

... (Text block in Chinese characters) ...

... (Text block in Chinese characters) ...

... (Text block in Chinese characters) ...

... (Text block in Chinese characters) ...

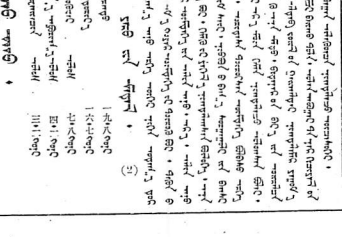
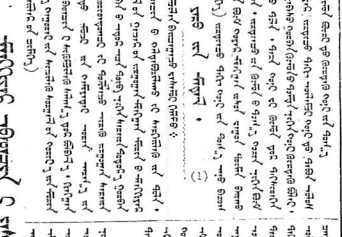
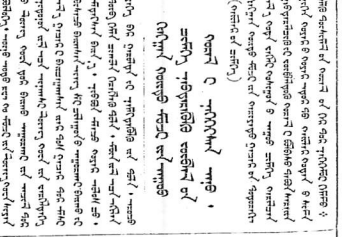
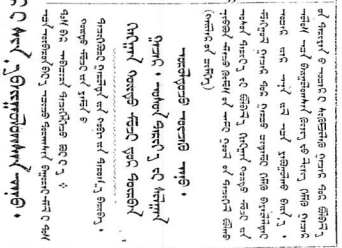
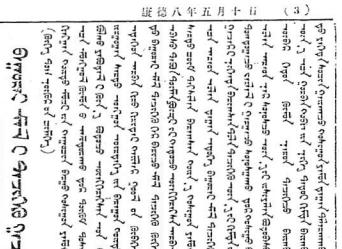
... (Text block in Chinese characters) ...

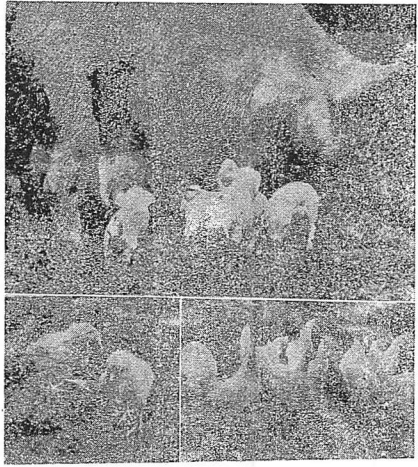
... (Text block in Chinese characters) ...

... (Text block in Chinese characters) ...

... (Text block in Chinese characters) ...

... (Text block in Chinese characters) ...





此為某處之風景，或為某項活動之記錄。圖中可見多人聚集，環境自然。

蘇聯之經濟

蘇聯之經濟，近來頗有進步。其工業之發達，尤為顯著。據最近之統計，蘇聯之工業產值，已較戰前為高。此實由於蘇聯政府之積極政策，及國民之勤勞努力之故。

蘇聯之教育

蘇聯之教育，亦大有進步。政府對於教育之重視，尤為顯著。不僅增加教育經費，且改革教育制度，使教育更為普及。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之政治

蘇聯之政治，近來亦趨於穩定。政府採取各項措施，以鞏固其政治基礎。同時，亦加強與各國之外交關係，以維護其國家利益。

蘇聯之文化

蘇聯之文化，亦大有進步。政府鼓勵文學、藝術之創作，使蘇聯文化事業，日趨繁榮。此實為蘇聯社會進步之重要表現。

蘇聯之軍事

蘇聯之軍事，近來亦大有進步。政府加強國防建設，提高軍隊素質。此實為蘇聯國家安全之重要保障。

蘇聯之外交

蘇聯之外交，近來亦趨於活躍。政府積極參與國際事務，維護世界和平。此實為蘇聯國際地位之重要體現。

蘇聯之經濟

蘇聯之經濟，近來亦大有進步。政府採取各項措施，以促進經濟發展。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之教育

蘇聯之教育，近來亦大有進步。政府對於教育之重視，尤為顯著。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之政治

蘇聯之政治，近來亦趨於穩定。政府採取各項措施，以鞏固其政治基礎。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之文化

蘇聯之文化，近來亦大有進步。政府鼓勵文學、藝術之創作，使蘇聯文化事業，日趨繁榮。此實為蘇聯社會進步之重要表現。

蘇聯之軍事

蘇聯之軍事，近來亦大有進步。政府加強國防建設，提高軍隊素質。此實為蘇聯國家安全之重要保障。

蘇聯之外交

蘇聯之外交，近來亦趨於活躍。政府積極參與國際事務，維護世界和平。此實為蘇聯國際地位之重要體現。

蘇聯之經濟，近來頗有進步。其工業之發達，尤為顯著。據最近之統計，蘇聯之工業產值，已較戰前為高。此實由於蘇聯政府之積極政策，及國民之勤勞努力之故。

蘇聯之教育，亦大有進步。政府對於教育之重視，尤為顯著。不僅增加教育經費，且改革教育制度，使教育更為普及。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之政治，近來亦趨於穩定。政府採取各項措施，以鞏固其政治基礎。同時，亦加強與各國之外交關係，以維護其國家利益。

蘇聯之文化，亦大有進步。政府鼓勵文學、藝術之創作，使蘇聯文化事業，日趨繁榮。此實為蘇聯社會進步之重要表現。

蘇聯之軍事，近來亦大有進步。政府加強國防建設，提高軍隊素質。此實為蘇聯國家安全之重要保障。

蘇聯之外交，近來亦趨於活躍。政府積極參與國際事務，維護世界和平。此實為蘇聯國際地位之重要體現。

蘇聯之經濟，近來亦大有進步。政府採取各項措施，以促進經濟發展。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之教育，近來亦大有進步。政府對於教育之重視，尤為顯著。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之政治，近來亦趨於穩定。政府採取各項措施，以鞏固其政治基礎。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之文化，近來亦大有進步。政府鼓勵文學、藝術之創作，使蘇聯文化事業，日趨繁榮。此實為蘇聯社會進步之重要表現。

蘇聯之軍事，近來亦大有進步。政府加強國防建設，提高軍隊素質。此實為蘇聯國家安全之重要保障。

蘇聯之外交，近來亦趨於活躍。政府積極參與國際事務，維護世界和平。此實為蘇聯國際地位之重要體現。

蘇聯之經濟，近來亦大有進步。政府採取各項措施，以促進經濟發展。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之教育，近來亦大有進步。政府對於教育之重視，尤為顯著。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之政治，近來亦趨於穩定。政府採取各項措施，以鞏固其政治基礎。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之文化，近來亦大有進步。政府鼓勵文學、藝術之創作，使蘇聯文化事業，日趨繁榮。此實為蘇聯社會進步之重要表現。

蘇聯之軍事，近來亦大有進步。政府加強國防建設，提高軍隊素質。此實為蘇聯國家安全之重要保障。

蘇聯之外交，近來亦趨於活躍。政府積極參與國際事務，維護世界和平。此實為蘇聯國際地位之重要體現。



此圖象徵著知識與進步的力量。

蘇聯之教育

蘇聯之教育，近來亦大有進步。政府對於教育之重視，尤為顯著。不僅增加教育經費，且改革教育制度，使教育更為普及。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之政治

蘇聯之政治，近來亦趨於穩定。政府採取各項措施，以鞏固其政治基礎。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之文化

蘇聯之文化，近來亦大有進步。政府鼓勵文學、藝術之創作，使蘇聯文化事業，日趨繁榮。此實為蘇聯社會進步之重要表現。

蘇聯之軍事

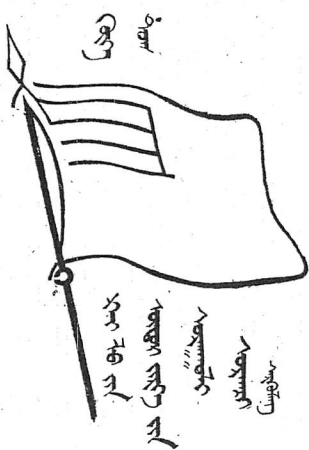
蘇聯之軍事，近來亦大有進步。政府加強國防建設，提高軍隊素質。此實為蘇聯國家安全之重要保障。

蘇聯之外交

蘇聯之外交，近來亦趨於活躍。政府積極參與國際事務，維護世界和平。此實為蘇聯國際地位之重要體現。

蘇聯之經濟

蘇聯之經濟，近來亦大有進步。政府採取各項措施，以促進經濟發展。此實為蘇聯社會進步之重要因素。



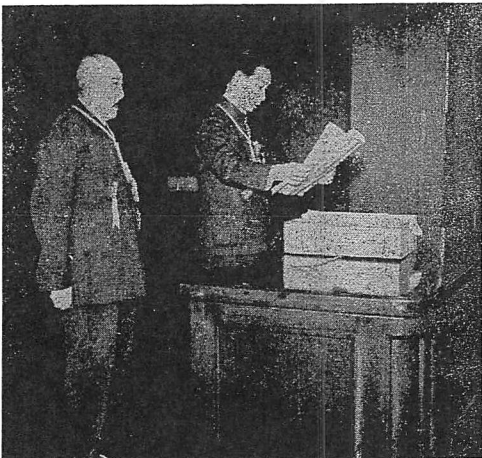
此為蘇聯之國旗，象徵著革命與進步。

蘇聯之教育

蘇聯之教育，近來亦大有進步。政府對於教育之重視，尤為顯著。不僅增加教育經費，且改革教育制度，使教育更為普及。此實為蘇聯社會進步之重要因素。

蘇聯之政治

蘇聯之政治，近來亦趨於穩定。政府採取各項措施，以鞏固其政治基礎。此實為蘇聯社會進步之重要因素。



此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

此君爲某報館之編輯長也

Advertisement for '新報' (Newspaper) with logo and contact information.

Advertisement for '新報' (Newspaper) with logo and contact information.

新報

新報

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社

新報社



此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

姓名	年齡	籍貫	學歷	職業
張三	25	山東	小學	農夫
李四	30	河南	中學	商人
王五	35	浙江	大學	教師
趙六	40	湖北	小學	工人
陳七	45	廣東	中學	醫生
周八	50	四川	小學	農民
吳九	55	福建	中學	律師
孫十	60	江西	小學	工匠
錢十一	65	湖南	中學	官員
孫十二	70	安徽	小學	商人
李十三	75	山西	中學	學者
張十四	80	陝西	小學	工人
王十五	85	雲南	中學	商人
趙十六	90	貴州	小學	農民
陳十七	95	廣西	中學	官員
周十八	100	雲南	小學	商人

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

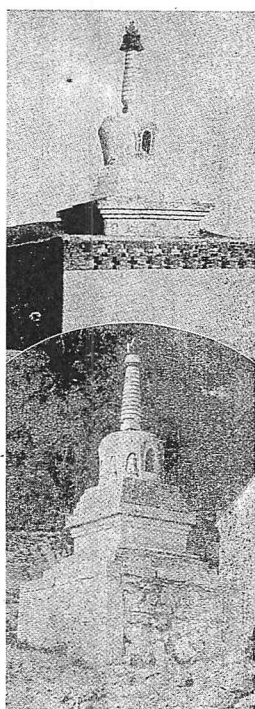
此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

姓名	年齡	籍貫	學歷	職業
張三	25	山東	小學	農夫
李四	30	河南	中學	商人
王五	35	浙江	大學	教師
趙六	40	湖北	小學	工人
陳七	45	廣東	中學	醫生
周八	50	四川	小學	農民
吳九	55	福建	中學	律師
孫十	60	江西	小學	工匠
錢十一	65	湖南	中學	官員
孫十二	70	安徽	小學	商人
李十三	75	山西	中學	學者
張十四	80	陝西	小學	工人
王十五	85	雲南	中學	商人
趙十六	90	貴州	小學	農民
陳十七	95	廣西	中學	官員
周十八	100	雲南	小學	商人

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。

此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。此種情形係在歐戰以前，當時各國軍隊之訓練，其精神與此圖無異。



此種機器係由外國運到，其構造極其精巧，且能節省燃料，故在工廠中極其重要。

工廠之重要

工廠之重要，在於其能生產大量之貨物，以供社會之需要。且工廠之設備，亦能節省人力，提高效率。故工廠之發展，實為國家經濟之基礎。

工廠之種類

工廠之種類，可分為輕工業與重工業。輕工業如紡織、製糖等，重工業如鋼鐵、機械等。兩者皆為國家經濟之重要組成部分。

工廠之管理

工廠之管理，應注重效率與品質。管理者應合理分配資源，提高生產力。同時，亦應注重員工之福利與安全，以確保生產之穩定。

工廠之未來

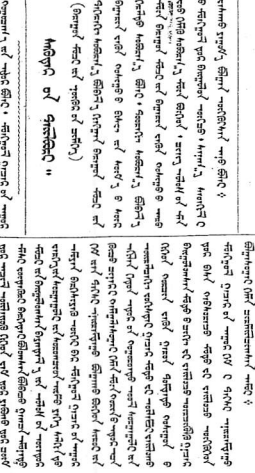
工廠之未來，在於技術之進步與設備之更新。隨著科學技術之發展，工廠之生產力將不斷提高，為國家經濟之繁榮做出更大贡献。

工廠之社會責任

工廠不僅是生產貨物之場所，亦應承擔社會責任。工廠應遵守法律法規，保護環境，並積極參與社會公益事業，為社會之和諧發展做出貢獻。

工廠之發展策略

工廠之發展策略，應根據自身之特點與市場之需求而定。工廠應不斷創新，提高競爭力，以在激烈之市場競爭中脫穎而出。



此種機器係由外國運到，其構造極其精巧，且能節省燃料，故在工廠中極其重要。

工廠之重要

工廠之重要，在於其能生產大量之貨物，以供社會之需要。且工廠之設備，亦能節省人力，提高效率。故工廠之發展，實為國家經濟之基礎。

工廠之種類

工廠之種類，可分為輕工業與重工業。輕工業如紡織、製糖等，重工業如鋼鐵、機械等。兩者皆為國家經濟之重要組成部分。

工廠之管理

工廠之管理，應注重效率與品質。管理者應合理分配資源，提高生產力。同時，亦應注重員工之福利與安全，以確保生產之穩定。

工廠之未來

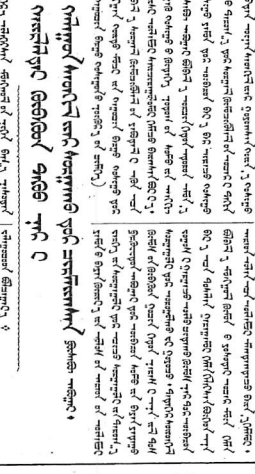
工廠之未來，在於技術之進步與設備之更新。隨著科學技術之發展，工廠之生產力將不斷提高，為國家經濟之繁榮做出更大贡献。

工廠之社會責任

工廠不僅是生產貨物之場所，亦應承擔社會責任。工廠應遵守法律法規，保護環境，並積極參與社會公益事業，為社會之和諧發展做出貢獻。

工廠之發展策略

工廠之發展策略，應根據自身之特點與市場之需求而定。工廠應不斷創新，提高競爭力，以在激烈之市場競爭中脫穎而出。



此種機器係由外國運到，其構造極其精巧，且能節省燃料，故在工廠中極其重要。

工廠之重要

工廠之重要，在於其能生產大量之貨物，以供社會之需要。且工廠之設備，亦能節省人力，提高效率。故工廠之發展，實為國家經濟之基礎。

工廠之種類

工廠之種類，可分為輕工業與重工業。輕工業如紡織、製糖等，重工業如鋼鐵、機械等。兩者皆為國家經濟之重要組成部分。

工廠之管理

工廠之管理，應注重效率與品質。管理者應合理分配資源，提高生產力。同時，亦應注重員工之福利與安全，以確保生產之穩定。

工廠之未來

工廠之未來，在於技術之進步與設備之更新。隨著科學技術之發展，工廠之生產力將不斷提高，為國家經濟之繁榮做出更大贡献。

工廠之社會責任

工廠不僅是生產貨物之場所，亦應承擔社會責任。工廠應遵守法律法規，保護環境，並積極參與社會公益事業，為社會之和諧發展做出貢獻。

工廠之發展策略

工廠之發展策略，應根據自身之特點與市場之需求而定。工廠應不斷創新，提高競爭力，以在激烈之市場競爭中脫穎而出。

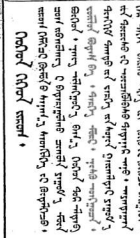


歌 聲 兒 童 聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲



歌 聲 兒 童 聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

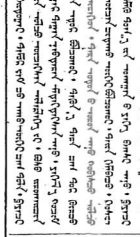


歌 聲 兒 童 聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

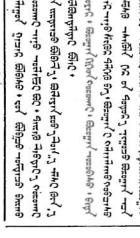


歌 聲 兒 童 聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

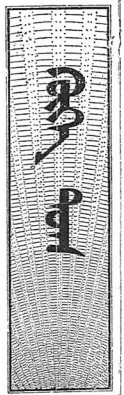


歌 聲 兒 童 聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲

歌聲兒童聲
歌聲兒童聲
歌聲兒童聲



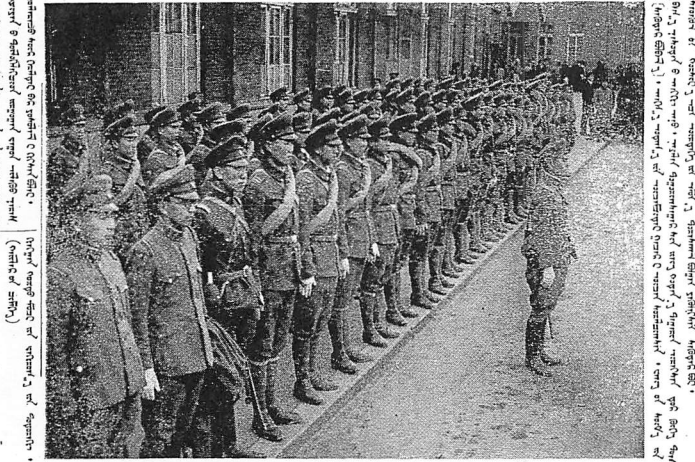
新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影

新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影。圖中可見多位新華日報社的同仁，他們身著整齊的制服，神情莊嚴，背景為大會現場。

新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影。圖中可見多位新華日報社的同仁，他們身著整齊的制服，神情莊嚴，背景為大會現場。

新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影

新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影。圖中可見多位新華日報社的同仁，他們身著整齊的制服，神情莊嚴，背景為大會現場。



新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影

新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影。圖中可見多位新華日報社的同仁，他們身著整齊的制服，神情莊嚴，背景為大會現場。



新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影

新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影。圖中可見多位新華日報社的同仁，他們身著整齊的制服，神情莊嚴，背景為大會現場。



新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影

新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影。圖中可見多位新華日報社的同仁，他們身著整齊的制服，神情莊嚴，背景為大會現場。

新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影。圖中可見多位新華日報社的同仁，他們身著整齊的制服，神情莊嚴，背景為大會現場。

新華日報社全體同仁在抗戰前線慰勞大會中合影。圖中可見多位新華日報社的同仁，他們身著整齊的制服，神情莊嚴，背景為大會現場。



新學堂之新氣象

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

新學堂之新氣象，自開辦以來，其進步之速，實非他校所能及也。...

振聲報
 振聲報之宗旨在於開通民智。其內容豐富。報導詳實。深受閱者歡迎。本報每日出版。除星期日及中國節日外。絕無停刊。其印刷精美。字體清晰。為當時上海新聞界之翹楚。

本報之宗旨
 本報之宗旨在於開通民智。其內容豐富。報導詳實。深受閱者歡迎。本報每日出版。除星期日及中國節日外。絕無停刊。其印刷精美。字體清晰。為當時上海新聞界之翹楚。



汽機之功用
 汽機之功用在於提供動力。其構造複雜。操作需經專門技術人員。在工廠及礦山中廣泛應用。為工業革命之重要標誌。

振聲報
 振聲報之宗旨在於開通民智。其內容豐富。報導詳實。深受閱者歡迎。本報每日出版。除星期日及中國節日外。絕無停刊。其印刷精美。字體清晰。為當時上海新聞界之翹楚。

汽機之功用
 汽機之功用在於提供動力。其構造複雜。操作需經專門技術人員。在工廠及礦山中廣泛應用。為工業革命之重要標誌。

振聲報
 振聲報之宗旨在於開通民智。其內容豐富。報導詳實。深受閱者歡迎。本報每日出版。除星期日及中國節日外。絕無停刊。其印刷精美。字體清晰。為當時上海新聞界之翹楚。

汽機之功用
 汽機之功用在於提供動力。其構造複雜。操作需經專門技術人員。在工廠及礦山中廣泛應用。為工業革命之重要標誌。

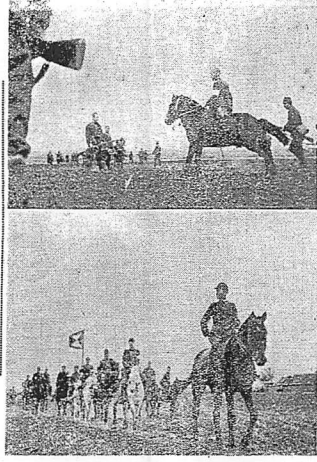
振聲報
 振聲報之宗旨在於開通民智。其內容豐富。報導詳實。深受閱者歡迎。本報每日出版。除星期日及中國節日外。絕無停刊。其印刷精美。字體清晰。為當時上海新聞界之翹楚。

連雲
 此肥皂洗滌力強。去污除垢。氣味芬芳。為家庭必備之良物。各大藥房均有出售。

新式自行車
 此車構造精良。行駛輕便。為城市交通之理想工具。歡迎各界人士垂詢。

汽機
 此機性能卓越。出力強勁。適用於各種工業場所。詳情請洽本公司工程師。

汽機
 此機性能卓越。出力強勁。適用於各種工業場所。詳情請洽本公司工程師。



此圖係由某報記者所攝，其時正當歐戰期間，圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

歐戰以來，騎士精神之復興，已為世界各國所公認。圖中騎士之裝束與馬具，均極其考究，其意蓋在表現騎士精神之復興也。

Advertisement for 'Lohm' (羅姆) featuring a large stylized logo and text describing its benefits for health and vitality.

Advertisement for 'Lohm' (羅姆) with a detailed list of symptoms it treats, such as weakness, lack of energy, and various ailments.



蔣委員長與汪精衛先生

蔣委員長與汪精衛先生

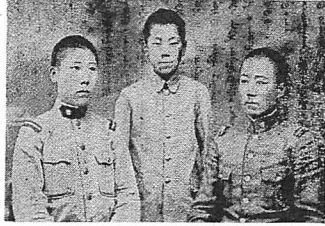
蔣委員長與汪精衛先生，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。蔣委員長在談話中，對汪先生之誠懇，表示極大之同情。汪先生則對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。...

汪精衛先生與蔣委員長

汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...

汪精衛先生與蔣委員長

汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...



汪精衛先生與蔣委員長

汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...

汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...

汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...

汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...

汪精衛先生與蔣委員長

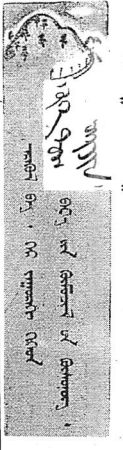
汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...

汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...

汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...

汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...

汪精衛先生與蔣委員長，在五月九日，於南京，舉行第二次談話。汪先生對蔣委員長之誠懇，表示極大之同情。蔣委員長對汪先生之誠懇，表示極大之同情。...



30 跳舞與音樂

跳舞與音樂之關係
跳舞與音樂之關係，實為人類生活之一重要部分。音樂能陶冶情操，而跳舞則能活動筋骨，二者相輔相成，共同豐富人們的精神世界。

30 音樂與舞蹈

音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。



音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。

30 音樂與舞蹈
音樂與舞蹈之關係，實為人類生活之一重要部分。音樂能陶冶情操，而跳舞則能活動筋骨，二者相輔相成，共同豐富人們的精神世界。

30 音樂與舞蹈
音樂與舞蹈之關係，實為人類生活之一重要部分。音樂能陶冶情操，而跳舞則能活動筋骨，二者相輔相成，共同豐富人們的精神世界。

30 音樂與舞蹈

音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。

音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。

音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。

30 音樂與舞蹈
音樂與舞蹈之關係，實為人類生活之一重要部分。音樂能陶冶情操，而跳舞則能活動筋骨，二者相輔相成，共同豐富人們的精神世界。

30 音樂與舞蹈
音樂與舞蹈之關係，實為人類生活之一重要部分。音樂能陶冶情操，而跳舞則能活動筋骨，二者相輔相成，共同豐富人們的精神世界。

30 音樂與舞蹈

音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。

音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。

音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。

30 音樂與舞蹈
音樂與舞蹈之關係，實為人類生活之一重要部分。音樂能陶冶情操，而跳舞則能活動筋骨，二者相輔相成，共同豐富人們的精神世界。

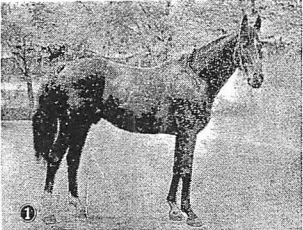
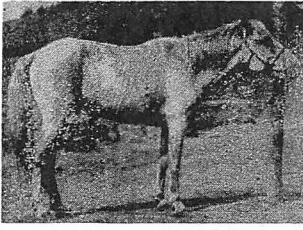
30 音樂與舞蹈
音樂與舞蹈之關係，實為人類生活之一重要部分。音樂能陶冶情操，而跳舞則能活動筋骨，二者相輔相成，共同豐富人們的精神世界。

30 音樂與舞蹈

音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。

音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。

音樂與舞蹈之關係
音樂與舞蹈，自古以來便有著不解之緣。音樂是舞蹈的靈魂，而舞蹈則是音樂的肢體表現。二者相映成趣，相得益彰。



此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...



此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

此種馬之體格，其體格之強健，其體格之強健，其體格之強健...

- mongɣul-un čimege]
- čaydayči-yin anggi nar sigürden (šügürden) arıyaysan annu. [Barayun
- <008-2-11-g> ordus-tur butaran üledeji bayıysan qulayai degereñi-di-i
narıı nar añıñar (ñarñar) narıñnar narıñnar [ñarñar narıñnar narıñnar]
- <008-2-11-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-2-10-y> 楚臣雖亦與之爭其地 [güčeldügülkü] bodulı-a-yi toytarayasan annu.
- <008-2-10-g> jaruñ kereglekü mori-yi durabar güčildügülkü
narıñnar narıñnar
- <008-2-10-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-2-09-y> 圖此族據歸臣與爭 可也 [tuñcañcañ]
jıryıyan sar-a-yin sin-e-yin nigen. [següder bui]
- <008-2-09-g> ulus-un čirig (čeriğ)-ün durasqal-ın ulıyaylıqu temdeg
narıñnar narıñnar [narıñnar narıñnar]
- <008-2-09-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-2-08-y> 擡其族家之與爭其地 [narıñnar narıñnar]
surıyagu annu.
- <008-2-08-g> olan qosıyın-u silideg jalayus jing üi bü nar-i köñijigülin
- <008-2-08-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-2-07-y> 八半與之爭其地 [narıñnar narıñnar]
[qayılar-un čimege]
- <008-2-07-g> naimaduyar on-u qolıyatu qural-i negegegsen annu (ınıñ).
- <008-2-07-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-2-06-y> 歐依族與之爭其地 [narıñnar narıñnar]
qural annu. [Jalan ayıl-un čimege]
- <008-2-06-g> kingıyan jегün muñi-yin el-e qosıyın darıy-a-yin jöbl-el-ün
narıñnar narıñnar]
- <008-2-06-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-2-05-y> 歐依族與之爭 [narıñnar narıñnar]
- <008-2-05-g> köke qota (kökeqota)-yin čimege.

- <008-3-06-g> re qu (he) muñi-yin lıny quwa sıyan-dur ing ši čilayun-u
narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-3-06-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-3-05-y> 歐依族與之爭 [narıñnar narıñnar]
narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-3-05-g> unıysıçı olan abuyai nar tan-a.
- <008-3-05-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-3-04-y> 歐依族與之爭 [narıñnar narıñnar]
oruldıju üjekü annu (ınıñ). [qayılar-un čimege]
- <008-3-04-g> kingıyan qoyıtı muñi-dur dörben yajar, usun tariy-a-yi sıryan
narıñnar narıñnar (narıñnar) [narıñnar narıñnar]
- <008-3-04-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-3-03-y> 擡其族家之與爭其地 [narıñnar narıñnar]
nökür-ün čimege]
- <008-3-03-g> bayurai mal-i tejiğekü yajar-i bayıyulıysan annu. [köke tuy
narıñnar]
- <008-3-03-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-3-02-y> 擡其族與之爭 [narıñnar narıñnar]
narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-3-02-g> wang-un sön-e-yin sonusyal (sonusqal)
- <008-3-02-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-3-01-y> 擡其族與之爭 [narıñnar narıñnar]
[següder bui]
- <008-3-01-g> mongıylıan orçıyulıju mandun büküi nom-un surtaquu.
- <008-3-01-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-2-12-y> 擡其族與之爭 [narıñnar narıñnar]
qural-un yeke tölüb. [1]
- <008-2-12-g> mongıyl arad-un amiduralı-a (amiduralı-a)-yi köñijigülkü
[1]
- <008-2-12-m> narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar narıñnar
- <008-2-11-y> 擡其族與之爭 [narıñnar narıñnar]

<008-5-08-g> gabur-un egesig-ün daryuu.
<008-5-08-m> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠤᠨ ᠡᠭᠢᠰᠢᠭᠡ ᠦᠨ ᠳᠠᠷᠢᠭᠠᠭᠤ**.

<008-5-07-y> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠤ**
<008-5-07-g> sedkilge.
<008-5-07-m> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠤ**.

<008-5-06-m> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ**
<008-5-06-m> qaburun (qabur-un) örlüge.
<008-5-06-m> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ (ᠭᠠᠪᠤᠷᠤᠨ ᠦᠷᠯᠢᠭᠡ)**.

<008-5-05-y> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ**
<008-5-05-g> nöklär-eče salırsan qaburun (qabur-un) söni.
<008-5-05-m> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ ᠶ᠋ᠢ ᠰᠠᠯᠢᠷᠰᠠᠨ ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ (ᠭᠠᠪᠤᠷᠤᠨ ᠰᠦᠨᠢ)**.

<008-5-04-y> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ**
<008-5-04-g> qabur-i urtuqu.
<008-5-04-m> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ ᠤᠷᠲᠤᠬᠤ**.

<008-5-03-y> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ**
<008-5-03-g> uđq-a uran-u küsünüg.
<008-5-03-m> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ ᠤᠷᠠᠨ ᠤ ᠬᠦᠰᠦᠨᠢᠭᠡ**.

<008-5-02-y> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ**
<008-5-02-g> takiy-a kiged yarı (yaraqai). [següder yurba bui]
<008-5-02-m> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ ᠠᠬᠢᠭᠡᠳ ᠶᠠᠷᠢ (ᠶᠠᠷᠠᠭᠠᠢ) [ᠰᠡᠭᠦᠳᠡᠷ ᠶᠤᠷᠪᠠ ᠪᠤᠢ]**

<008-5-01-y> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ**
küriyelen-g-ün tejiğebüri-yi kınan sigünjilejü bayıqu čiqula.
<008-5-01-g> yačiy-a torula körüngege-yin čidal arı-a-yin surıyaltu
ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ ᠬᠦᠷᠢᠶᠡᠯᠡᠨᠭᠡ ᠦᠨ ᠲᠡᠵᠢᠭᠡᠪᠦᠷᠢ ᠶᠢ ᠬᠢᠨᠠᠨ ᠰᠢᠭᠦᠨᠵᠢᠯᠡᠵᠢ ᠪᠠᠶᠢᠬᠤ ᠴᠢᠬᠤᠯᠠ

<008-5-01-m> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ ᠶᠠᠴᠢᠶᠢ ᠠ ᠲᠣᠷᠤᠯᠠ ᠬᠥᠷᠦᠨᠭᠡᠭᠡ ᠶᠢᠨ ᠴᠢᠳᠠᠯ ᠠᠷᠢ ᠠ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠯᠲᠤ**
<008-4-15-y> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ**
<008-4-15-g> mal tejiğebüri-yin küsünüg.
<008-4-15-m> **ᠭᠠᠪᠤᠷᠠᠨ ᠮᠠᠯ ᠲᠡᠵᠢᠭᠡᠪᠦᠷᠢ ᠶᠢᠨ ᠬᠦᠰᠦᠨᠢᠭᠡ**.

<008-6-04-g> bay-a surıyuli-yin surıyayı-yin egürege (egürige) tusıyal.
<008-6-04-m> **ᠪᠠᠶᠠ ᠰᠤᠷᠢᠶᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠡᠭᠦᠷᠡᠭᠡ (ᠡᠭᠦᠷᠢᠭᠡ) ᠲᠤᠰᠢᠶᠠᠯ**.

<008-6-03-y> **ᠪᠠᠶᠠ ᠰᠤᠷᠢᠶᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠡᠭᠦᠷᠡᠭᠡ**
<008-6-03-g> köke tur-tur köjün manduqu-yi belgeläki üge. [següder]
<008-6-03-m> **ᠪᠠᠶᠠ ᠲᠤᠷᠲᠤᠷ ᠬᠥᠵᠢᠨ ᠮᠠᠨᠳᠤᠬᠤ ᠶᠢ ᠪᠡᠯᠭᠡᠯᠡᠬᠢ ᠦᠭᠡ [ᠰᠡᠭᠦᠳᠡᠷ]**

<008-6-02-y> **ᠪᠠᠶᠠ ᠰᠤᠷᠢᠶᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠡᠭᠦᠷᠡᠭᠡ**
<008-6-02-g> modu sıyrıı-yin köjün badarayısan ügei gem.
<008-6-02-m> **ᠮᠣᠳᠤ ᠰᠢᠷᠢᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠬᠥᠵᠢᠨ ᠪᠠᠳᠠᠷᠠᠶᠢᠰᠠᠨ ᠦᠭᠡᠢ ᠭᠡᠮ**.

<008-6-01-y> **ᠪᠠᠶᠠ ᠰᠤᠷᠢᠶᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠡᠭᠦᠷᠡᠭᠡ**
<008-6-01-g> ungsiyčid-äca iregsen eke bičig-ün küsünüg.
<008-6-01-m> **ᠤᠨᠭᠰᠢᠶᠢᠳᠢᠳᠠ ᠢᠷᠡᠭᠰᠡᠨ ᠡᠬᠡ ᠪᠢᠴᠢᠭᠡ ᠦᠨ ᠬᠦᠰᠦᠨᠢᠭᠡ**.

<008-5-13-y> **ᠪᠠᠶᠠ ᠰᠤᠷᠢᠶᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠡᠭᠦᠷᠡᠭᠡ**
<008-5-13-g> saratu söni-yin onıyruča.
<008-5-13-m> **ᠰᠠᠷᠠᠲᠤ ᠰᠦᠨᠢ ᠶᠢᠨ ᠣᠨᠢᠶᠢᠷᠠᠴᠠ**.

<008-5-12-y> **ᠪᠠᠶᠠ ᠰᠤᠷᠢᠶᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠡᠭᠦᠷᠡᠭᠡ**
<008-5-12-g> gegeken saran.
<008-5-12-m> **ᠭᠡᠭᠡᠬᠡᠨ ᠰᠠᠷᠠᠨ**.

<008-5-11-y> **ᠪᠠᠶᠠ ᠰᠤᠷᠢᠶᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠡᠭᠦᠷᠡᠭᠡ**
<008-5-11-g> sula silüg.
<008-5-11-m> **ᠰᠤᠯᠠ ᠰᠢᠯᠦᠭᠡ**.

<008-5-10-y> **ᠪᠠᠶᠠ ᠰᠤᠷᠢᠶᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠡᠭᠦᠷᠡᠭᠡ**
<008-5-10-g> saran-i maytıysan silüg.
<008-5-10-m> **ᠰᠠᠷᠠᠨ ᠢ ᠮᠠᠶᠲᠢᠶᠰᠠᠨ ᠰᠢᠯᠦᠭᠡ**.

<008-5-09-y> **ᠪᠠᠶᠠ ᠰᠤᠷᠢᠶᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠡᠭᠦᠷᠡᠭᠡ**
<008-5-09-g> köke tur, [dırsütü ebkemel üsüg]
<008-5-09-m> **ᠬᠥᠬᠡ ᠲᠤᠷ [ᠳᠢᠷᠰᠦᠲᠦ ᠡᠪᠬᠡᠮᠡᠯ ᠦᠰᠦᠭᠡ]**

<008-5-08-y> **ᠪᠠᠶᠠ ᠰᠤᠷᠢᠶᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠶᠢ ᠶᠢᠨ ᠡᠭᠦᠷᠡᠭᠡ**

- <008-6-12-y> 鐵鑪卜ᠠᠨᠵᠢᠰᠢᠰᠢ
- <008-6-12-g> köğin manduqu köke tuy.
- <008-6-12-m> ᠬᠥᠵᠢᠨ ᠮᠠᠨᠳᠤᠬᠤ ᠬᠥᠬᠡ ᠲᠤᠶᠢ.

- <008-6-11-y> 書據ᠰᠢᠷᠠᠭᠢᠰᠢ
- <008-6-11-g> köke tuy-tur belgelegsen üge.
- <008-6-11-m> ᠬᠥᠬᠡ ᠲᠤᠶᠢ-ᠲᠤᠷ ᠪᠡᠯᠭᠡᠯᠭᠡᠰᠢᠨ ᠤᠭᠡ.

- <008-6-10-y> 書據ᠰᠢᠷᠠᠭᠢᠰᠢ ᠵᠢᠰᠢᠰᠢ
- <008-6-10-g> köke tuy-i manyaysan ungsiyčid-un dayun.
- <008-6-10-m> ᠬᠥᠬᠡ ᠲᠤᠶᠢ-ᠢ ᠮᠠᠨᠶᠠᠶᠤᠰᠠᠨ ᠤᠨᠭᠰᠢᠶᠢᠳᠢ-ᠤᠨ ᠳᠠᠶᠤᠨ.

- <008-6-09-y> 大圖ᠳᠠᠮᠤ
- <008-6-09-g> udq-a gegeken-i sigümjilegsen annu (inü).
- <008-6-09-m> ᠤᠳᠠ-ᠠ ᠭᠡᠭᠡᠬᠡᠨ-ᠢ ᠰᠢᠭᠦᠮᠵᠢᠯᠡᠭᠰᠢᠨ ᠠᠨᠨᠤ (ᠢᠨᠦ).

- <008-6-08-y> 愚かな水難[難]
- <008-6-08-g> er-e em-e adali mungqay. [iruy]
- <008-6-08-m> ᠡᠷ-ᠡ ᠡᠮ-ᠡ ᠠᠳᠠᠯᠢ ᠮᠤᠨᠭᠠᠶᠢ. [ᠢᠷᠤᠶ]

- <008-6-07-y> 友を難く交友[圖騰古書據友祭]
- köke tuy nöktür-ün čimegej
- <008-6-07-g> nöktür-i songyun nöktürleki annu (inü). [barayun mongyul-un ᠰᠢᠲᠠᠬᠤ]
- <008-6-07-m> ᠨᠥᠬᠡᠲᠦᠷ ᠢ ᠰᠣᠩᠶᠤᠨ ᠨᠥᠬᠡᠲᠦᠷᠯᠡᠬᠢ ᠠᠨᠨᠤ (ᠢᠨᠦ). [ᠪᠠᠷᠠᠶᠤᠨ ᠮᠣᠩᠭᠦᠯ-ᠤᠨ ᠰᠢᠲᠠᠬᠤ]

- <008-6-06-y> 難知ᠰᠢᠷᠠᠭᠢᠰᠢ
- <008-6-06-g> köke tuy-i ungsiyčü abuyai nar tan-a medegdeki annu (inü).
- <008-6-06-m> ᠬᠥᠬᠡ ᠲᠤᠶᠢ-ᠢ ᠤᠨᠭᠰᠢᠶᠢᠴᠦ ᠠᠪᠤᠶᠠᠢ ᠨᠠᠷ ᠲᠠᠨ-ᠠ ᠮᠡᠳᠡᠭᠳᠡᠬᠢ ᠠᠨᠨᠤ (ᠢᠨᠦ).

- <008-6-05-y> 推測ᠲᠠᠮᠤ
- <008-6-05-g> uruyši čirmayičiy-a (čirmayičay-a).
- <008-6-05-m> ᠤᠷᠤᠶᠰᠢ ᠴᠢᠷᠮᠠᠶᠢᠴᠢᠶ-ᠠ (ᠴᠢᠷᠮᠠᠶᠢᠴᠠᠶ-ᠠ).

- <008-6-04-y> 卜ᠠᠨᠵᠢᠰᠢ ᠵᠢᠰᠢᠰᠢ

- <008-8-01-y> 擬俗ᠠᠨᠵᠢᠰᠢ
- <008-8-01-g> sira (sir-a) alta kiged qara (qar-a) neghesü.
- <008-8-01-m> ᠰᠢᠷᠠ (ᠰᠢᠷ-ᠠ) ᠠᠯᠲᠠ ᠬᠢᠭᠡᠳ ᠵᠠᠷᠠ (ᠵᠠᠷ-ᠠ) ᠨᠡᠭᠢᠬᠡᠰᠦ.

- <008-7-07-y> 卜ᠠᠨᠵᠢᠰᠢ ᠵᠢᠰᠢᠰᠢ
- <008-7-07-g> keikced-ün ögülel.
- <008-7-07-m> ᠬᠡᠢᠬᠡᠴᠡᠳ-ᠤᠨ ᠥᠭᠦᠯᠡᠯ.

- <008-7-06-y> 民圖ᠳᠠᠮᠤ
- <008-7-06-g> keikced-ün köke tuy.
- <008-7-06-m> ᠬᠡᠢᠬᠡᠴᠡᠳ-ᠤᠨ ᠬᠥᠬᠡ ᠲᠤᠶᠢ.

- <008-7-05-y> 鐵鑪ᠵᠢᠰᠢᠰᠢ
- <008-7-05-g> mongyul-iyann manduyulqu silüg.
- <008-7-05-m> ᠮᠣᠩᠭᠦᠯ-ᠢᠶᠠᠨᠠᠨ ᠮᠠᠨᠳᠤᠶᠤᠯᠠᠬᠤ ᠰᠢᠯᠦᠭ.

- <008-7-04-y> 口會圖騰[口]
- tayilburiaqu [6]
- <008-7-04-g> nibbun (yapun) mongyul keleleki (keleleki) üge-yi
- <008-7-04-m> ᠨᠢᠪᠪᠤᠨ (ᠶᠠᠫᠤᠨ) ᠮᠣᠩᠭᠦᠯ ᠬᠡᠯᠡᠯᠡᠬᠢ (ᠬᠡᠯᠡᠯᠡᠬᠢ) ᠤᠭᠡ-ᠶᠢ

- <008-7-03-y> | 祭ᠰᠢᠷᠠᠭᠢᠰᠢ ᠵᠢᠰᠢᠰᠢ
- egürece (egürece).
- <008-7-03-g> nigen ger-ün medegči boluysand ekener-ün čiqula bolraq
- <008-7-03-m> ᠨᠢᠭᠡᠨ ᠭᠡᠷ-ᠤᠨ ᠮᠡᠳᠡᠭᠴᠢ ᠪᠣᠯᠤᠶᠤᠰᠠᠨᠳ ᠡᠬᠡᠨᠡᠷ-ᠤᠨ ᠴᠢᠻᠤᠯᠠ ᠪᠣᠯᠠᠷᠠᠭᠠ

- <008-7-02-y> 非遠ᠠᠨᠵᠢᠰᠢ [書據ᠰᠢᠷᠠᠭᠢᠰᠢ]
- (he)-yin köke tuy-un nöktür-ün čimegej
- <008-7-02-g> söm-e keyid ba subury-a. [següder-ün tayilburi] [re qu ᠲᠠᠮᠤ ᠡᠷ ᠰᠢᠲᠠᠬᠤ]
- <008-7-02-m> ᠰᠥᠮ-ᠡ ᠬᠡᠶᠢᠳ ᠪᠠ ᠰᠤᠪᠦᠷᠦ-ᠠ. [ᠰᠡᠭᠦᠳᠡᠷ-ᠤᠨ ᠲᠠᠶᠢᠯᠪᠦᠷᠢ] [ᠷᠡ ᠵᠤ ᠲᠠᠮ]

- <008-7-01-y> 書據ᠰᠢᠷᠠᠭᠢᠰᠢ
- <008-7-01-g> bičigsurqu-yin aci tusa-yi keleküü annu.
- <008-7-01-m> ᠪᠢᠴᠢᠭᠰᠦᠷᠬᠤ-ᠶᠢᠨ ᠠᠴᠢ ᠲᠤᠰᠠ-ᠶᠢ ᠬᠡᠯᠡᠬᠦᠦ ᠠᠨᠨᠤ.

- <008-7-01-y> 卜ᠠᠨᠵᠢᠰᠢ ᠵᠢᠰᠢᠰᠢ

- <009-2-08-g> manjur-un tusiyalkan-u bolbasural-un surayčid (suruyčid) **ᠮᠠᠨᠵᠤᠷ ᠤᠨ ᠲᠤᠰᠢᠶ᠋ᠠᠯᠠᠨ ᠤ ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠠᠯ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠴᠢᠳ**
- <009-2-08-m> **ᠮᠠᠨᠵᠤᠷ ᠤᠨ ᠲᠤᠰᠢᠶ᠋ᠠᠯᠠᠨ ᠤ ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠠᠯ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠴᠢᠳ**
- <009-2-07-y> **ᠮᠣᠷᠢ ᠶᠢ ᠻᠠᠶᠢᠷᠢᠯᠠᠭᠤ ᠳᠤᠷᠠᠰᠠᠭᠠᠯ ᠤᠨ ᠶᠣᠰᠤᠯᠠ** [següder]
- <009-2-07-g> mori-yi qayirilaqu durasgal-un yosulal. [següder]
- <009-2-07-m> **ᠮᠣᠷᠢ ᠶᠢ ᠻᠠᠶᠢᠷᠢᠯᠠᠭᠤ ᠳᠤᠷᠠᠰᠠᠭᠠᠯ ᠤᠨ ᠶᠣᠰᠤᠯᠠ** [ᠰᠡᠭᠦᠳᠡᠷ]
- <009-2-06-y> **ᠮᠡᠪᠤᠨ ᠶᠠᠷᠠᠯᠠᠯᠠᠵᠢᠬᠤ ᠨᠢᠪᠤᠨ ᠶᠠᠷᠠᠮᠤᠨ ᠶᠢ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢᠨ ᠶᠡᠭᠦᠭᠡᠭᠡᠬᠠᠢ** inü.
- barkiraldun bayarlalciju (bayarlalcaju) nibun (yapun)-i toyurin ečigsen
- <009-2-06-g> baysi-yin yosu (yosun)-u surayvuli-yi tegügekeki-dür
- (ᠨᠢᠪᠤᠨ ᠶᠠᠷᠠᠯᠠᠯᠠᠵᠢᠬᠤ) ᠨᠢᠪᠤᠨ (ᠶᠠᠷᠠᠮᠤᠨ) ᠤ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢᠨ ᠶᠡᠭᠦᠭᠡᠭᠡᠬᠠᠢ
- <009-2-06-m> **ᠮᠡᠪᠤᠨ ᠶᠠᠷᠠᠯᠠᠯᠠᠵᠢᠬᠤ ᠨᠢᠪᠤᠨ ᠶᠠᠷᠠᠮᠤᠨ ᠶᠢ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢᠨ ᠶᠡᠭᠦᠭᠡᠭᠡᠬᠠᠢ**
- <009-2-05-y> **ᠮᠡᠪᠤᠨ ᠶᠠᠷᠠᠯᠠᠯᠠᠵᠢᠬᠤ**
- <009-2-05-g> bay-a jalayus anggi-yin suruyčid.
- <009-2-05-m> **ᠪᠠᠶ ᠠ ᠵᠠᠯᠠᠶᠤᠰ ᠠᠩᠭᠢ ᠶᠢᠨ ᠰᠤᠷᠤᠶᠢᠴᠢᠳ**.
- <009-2-04-y> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠ ᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨᠨᠢ**
- sin jing-dür toyurir-a iregsen ann (inu).
- <009-2-04-g> kingyan čirig (čeri-g)-ün surayvuli-yin bay-a nasutan anggi, **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠ ᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨᠨᠢ ᠪᠠᠶ ᠠ ᠨᠠᠰᠤᠲᠠᠨ ᠠᠩᠭᠢ**,
- ᠠᠨᠨᠢ ᠶᠢ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢ**.
- <009-2-04-m> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢ ᠶᠢᠨ ᠪᠠᠶ ᠠ ᠨᠠᠰᠤᠲᠠᠨ ᠠᠩᠭᠢ**.
- <009-2-03-y> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢ ᠠᠨᠨᠢ**
- <009-2-03-g> el-e surayvuli-yin (eč-e) toyurir-a iregsen ann (inu).
- <009-2-03-m> **ᠡᠯ ᠡ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠶᠢᠨ (ᠡᠴᠡ) ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠ ᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨᠨᠢ**.
- <009-2-02-y> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢ ᠠᠨᠨᠢ**
- qaylar qotan-a yaqai tejügekeki-yi kökičüliü bayıqu ann. [qayilar-un čimegej]
- <009-2-02-g> ger-ün tejügebür-yi ürijügülkü (ürejügülkü)-yin učar (učir)-tur
- ᠻᠠᠶᠢᠯᠠᠷ ᠻᠣᠲᠠᠨ ᠠ ᠶᠠᠻᠠᠢ ᠲᠡᠵᠦᠭᠡᠭᠡᠬᠠᠢ ᠶᠢ ᠬᠣᠻᠢᠴᠦᠯᠢᠭᠤ ᠪᠠᠶᠢᠭᠤ ᠠᠨᠨ**
- <009-2-02-m> **ᠬᠡᠷ ᠤᠨ ᠲᠡᠵᠦᠭᠡᠭᠡᠬᠠᠢ ᠶᠢ ᠤᠷᠢᠭᠡᠭᠦᠯᠬᠤ (ᠤᠷᠡᠵᠦᠭᠡᠭᠦᠯᠬᠤ) ᠶᠢᠨ ᠤᠴᠠᠷ (ᠤᠴᠢᠷ) ᠲᠤᠷ**
- <009-2-01-y> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢ ᠠᠨᠨᠢ**

- <009-2-14-y> **ᠮᠠᠨᠵᠤᠷ ᠤᠨ ᠲᠤᠰᠢᠶ᠋ᠠᠯᠠᠨ ᠤ ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠠᠯ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠴᠢᠳ**
- [küsinügtü]
- <009-2-14-g> qosiyu (qosiyun)-u bayıvulyrsan dumdadu surayvuli.
- <009-2-14-m> **ᠻᠣᠰᠢᠶᠤ ᠲᠣᠰᠢᠶᠤᠨ ᠤ ᠪᠠᠶᠢᠶᠤᠯᠤᠷᠰᠠᠨ ᠳᠤᠮᠳᠠᠳᠤ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ**
- <009-2-13-y> **ᠮᠣᠨᠭᠤᠯ ᠲᠤᠮᠳᠠᠳᠤ ᠳᠣᠯᠣᠳᠤᠷᠠᠷ ᠣᠨ ᠠᠷᠲᠠᠨ ᠻᠣᠶᠠᠷ ᠰᠠᠷ ᠠ** [küsinügtü]
- surayvuli, doluduyar on arban goyar sar-a. [küsinügtü]
- <009-2-13-g> kingyan emün-e muji-yin bayıvulyrsan mongyul dumdadu
- ᠮᠣᠨᠭᠤᠯ ᠲᠤᠮᠳᠠᠳᠤ ᠳᠣᠯᠣᠳᠤᠷᠠᠷ ᠣᠨ ᠠᠷᠲᠠᠨ ᠻᠣᠶᠠᠷ ᠰᠠᠷ ᠠ**
- <009-2-13-m> **ᠮᠣᠨᠭᠤᠯ ᠲᠤᠮᠳᠠᠳᠤ ᠳᠣᠯᠣᠳᠤᠷᠠᠷ ᠣᠨ ᠠᠷᠲᠠᠨ ᠻᠣᠶᠠᠷ ᠰᠠᠷ ᠠ**
- <009-2-12-y> **ᠮᠠᠨᠵᠤᠷ ᠤᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢᠨ ᠠᠨ ᠠᠷᠲᠠᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠳᠣᠯᠣᠳᠤᠷᠠᠷ ᠣᠨ** [küsinügtü]
- <009-2-12-g> ulus-un arad-un surayvuli, doluduyar on. [küsinügtü]
- <009-2-12-m> **ᠤᠯᠤᠰ ᠤᠨ ᠠᠷᠠᠳ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠳᠣᠯᠣᠳᠤᠷᠠᠷ ᠣᠨ**
- <009-2-11-y> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨ ᠠᠷᠠᠳ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠳᠤᠷ ᠣᠷᠠᠭᠤ ᠻᠡᠢᠳᠡᠳ ᠤᠨ**
- erdentü-yin doluduyar on-u ulus-un arad-un surayvuli-dür oruqu keiiked-ün
- <009-2-11-g> kingyan emünetu muji-yin el-e qosiyud-un doturaki, engke
- ᠲᠣᠷ ᠡ ᠲᠣᠲᠦᠷ ᠠᠶᠢ ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨ ᠠᠷᠠᠳ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠳᠤᠷ ᠣᠷᠠᠭᠤ ᠻᠡᠢᠳᠡᠳ ᠤᠨ**
- <009-2-11-m> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨ ᠠᠷᠠᠳ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠳᠤᠷ ᠣᠷᠠᠭᠤ ᠻᠡᠢᠳᠡᠳ ᠤᠨ**
- <009-2-10-y> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨ ᠠᠷᠠᠳ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠳᠣᠯᠣᠳᠤᠷᠠᠷ ᠣᠨ ᠤ ᠢᠯᠡᠳᠻᠡᠯ** [küsinügtü]
- ülәнü jerge-yin surayvuli, (doluduyar on-u iledkel). [küsinügtü]
- <009-2-10-g> kingyan emünetu muji-yin el-e qosiyud-un ulus-un arad-un
- ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨ ᠠᠷᠠᠳ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠳᠣᠯᠣᠳᠤᠷᠠᠷ ᠣᠨ ᠤ ᠢᠯᠡᠳᠻᠡᠯ**
- <009-2-10-m> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨ ᠠᠷᠠᠳ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠳᠣᠯᠣᠳᠤᠷᠠᠷ ᠣᠨ ᠤ ᠢᠯᠡᠳᠻᠡᠯ**
- <009-2-09-y> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨ ᠠᠷᠠᠳ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠳᠣᠯᠣᠳᠤᠷᠠᠷ ᠣᠨ ᠤ ᠢᠯᠡᠳᠻᠡᠯ**
- qayucin yaryun-a. [següder bui]
- <009-2-09-g> qayucin bicig qar-a-tur (dur) üledejü bayıqu mongyul-un
- ᠻᠠᠶᠢᠴᠢᠨ ᠶᠠᠷᠢᠭᠤᠨ ᠠ ᠪᠢᠴᠢᠭ ᠻᠠᠷ ᠠ ᠲᠤᠷ (ᠳᠤᠷ) ᠤᠯᠡᠳᠡᠭᠦ ᠪᠠᠶᠢᠭᠤ ᠮᠣᠨᠭᠤᠯ ᠤᠨ**
- <009-2-09-m> **ᠻᠠᠶᠢᠴᠢᠨ ᠶᠠᠷᠢᠭᠤᠨ ᠠ ᠪᠢᠴᠢᠭ ᠻᠠᠷ ᠠ ᠲᠤᠷ (ᠳᠤᠷ) ᠤᠯᠡᠳᠡᠭᠦ ᠪᠠᠶᠢᠭᠤ ᠮᠣᠨᠭᠤᠯ ᠤᠨ**
- <009-2-08-y> **ᠮᠠᠨᠰᠤᠲᠠᠨ ᠲᠣᠶᠤᠷᠢ ᠠᠶᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠨ ᠠᠷᠠᠳ ᠤᠨ ᠰᠤᠷᠠᠶᠢᠯᠢ ᠳᠣᠯᠣᠳᠤᠷᠠᠷ ᠣᠨ ᠤ ᠢᠯᠡᠳᠻᠡᠯ**
- sin jiry-dür iregsen inü.

<009-3-05-y> 阿拉伯文数字的排列法
oyirtabai (oyirtabai).

<009-3-05-g> barayun dalai-yin aman-dur, basa ču usun-a uriyuqu

<009-3-05-m> 蒙语“安”的“巴”是“安”的意思 (蒙语“安”)

<009-3-04-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

üledbüri-yi bayiyulqu annu. [qayilar-un čimegel]

<009-3-04-g> mal tejiğebüri-yin nutur köliün boyir-tu masin-a-yin tariyan

蒙语“安” [蒙语“安”]

<009-3-04-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-03-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

čuglayulqu-dur čirmayiju baiqu annu. [qayilar-un čimegel]

<009-3-03-g> ende tende qayğadaysan čirsün arasu (yomu)-i (yi) ebleğitiün

蒙语“安” [蒙语“安”]

<009-3-03-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-02-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

čimegel]

talburi (talabur)-yi (i) kijü dayusyaqu (dayusyaqu) annu. [jalan ayil-un

<009-3-02-g> tabun sar-a-yin dottor-a jalan ayil-dur uraldaq (uraldaq)

(y) 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-02-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-01-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

dumdadu qosiyun-u čimegel]

(jalbarin) balgeleki yosulai-i ergün yabuyuluyusan annu. [gorčün jegün yarun

<009-3-01-g> jayily-un bičig-yi (i) tarğayvasan durasqal-un edür jalbiran

蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-01-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-2-15-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

doludyar on. [küsiünügü]

<009-2-15-g> öbertün kü bayiyuluyusan dumdadu jerge-yin suryayuli,

[蒙语“安”]

<009-2-15-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-11-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

jarun dumdadu qosiyun-u čimegel]

bolyasuyai kemenen modu-yi ülenji jayilaqu (jayilaqu) annu. [gorčün jegün

<009-3-11-g> mongryl vejär-un ayur amilyul (amilyul)-i dulayan

蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-11-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-10-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-10-g> ungsiyçi olan abuyai nar tan-a.

<009-3-10-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-09-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

(inti).

bügüdeger durasqal-un edür debkelčün ködelbürileki (ködelbürileki) annu

<009-3-09-g> bükü ulus-i noyuyan-iyar qubisyaqu-bar modu jayilaqu-du

蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-09-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-08-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

surbuljar-a morduyusan (morduyusan) annu. [barayun mongryl-un čimegel]

<009-3-08-g> barayun mongryl-un tusiyalkan nar nibbun (yapun)-i

蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-08-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-07-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

bise-yin söm-e-u (yin) sür gereti subury-a bolai. [segider]

(ni) 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-07-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-06-y> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

čimegel]

daryu-a san ši kuwan nar-tur sedkil-eče ruyuyusan annu. [qaryučin baryu-yin

<009-3-06-g> suryal kömüjgülel (Kömüjgülü) ün učan (učär)-i qosiyun

蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-3-06-m> 蒙语“安”的意思 [蒙语“安”]

<009-4-01-m> бичирал төлөгчөөр нь архыг нь бичирчлэг

<009-3-16-y> 蒙兀部之衆以爲經道之衆也ハハハ出[蒙兀經道衆女衆]
qosiyun-u nökiir-ün čimegej]

sedkil-yer suryaqu-dur čirnayirysan füsebu aburyai. [qorčün barуu
<009-3-16-g> qayiralтай (qayiralтай) köbөгүд degүү nar-i qalayun
насирлар бичих төлөгч. [бичирал бичигч төлөгч ө төлөгч нь архыг]

<009-3-16-m> бичирчлэг (бичирчлэг) бичигч ө төлөгч нь ө бичирчлэг төлөгчөөр
<009-3-15-y> 飛龍十年ハハハ蒙兀青年[日本之青旗女衆]
(yapun)-u köke tug nökiir-ün čimegej]

<009-3-15-g> nisku metü debisgsen nigem mongyul jalaryu. [nibbun
төгсөр нь архыг]

<009-3-15-m> төлөгч төлөгчөөр нь бичирчлэг төлөгч. [төлөгч (төл) ө бичирчлэг
<009-3-14-y> 蒙兀經道之衆
(inü).

<009-3-14-g> үгэнүйтэй ел-е ягайр үд-и үгэн суралчир-а (суралчар-а) ечигкү ану
<009-3-14-m> төлөгчөөр нь бичирчлэг төлөгч ө төлөгч төлөгчөөр [төлөгчөөр] төлөгч төлөгч.

<009-3-13-y> 蒙兀經道之衆蒙兀經道之衆也[蒙兀經道之衆]
Jegün yarun dumdadu qosiyun-u čimegej]

üyes tusalanji joryus-i jеgelegüün (jigelегүün) ögkü annu (inü). [qorčün
<009-3-13-g> тарьялаг-ун арад-и тедкүн тусалагу-ын туга габур таригу
төлөгч ө төлөгчөөр (төлөгчөөр) төлөгч төлөгч. [бичирчлэг төлөгчөөр төлөгч ө архыг]

<009-3-13-m> бичирчлэг төлөгч ө төлөгч төлөгчөөр нь төлөгч төлөгчөөр төлөгчөөр
[архыг]

<009-3-12-y> 蒙兀秋の收穫増加ハハ春の種土を蒙兀の經道之衆に與ふ
qosiyun-u čimegej]

usu-bar qour-i usadyaqu (usadaqu) annu. [qorčün Jegün yarun dumdadu
qurivala-ya nemegdegülkü-yn tula, qabur-ун таригу үрес-и em-tü (emti)
<009-3-12-g> тарьялаг-ун ажи-и көгөйгүлкү бүгед ирегедүү-ын нанмур-ун
(төрөөмөр) төлөгч [бичирчлэг төлөгч төлөгчөөр төлөгч ө архыг]

төрөгчөөр нь төлөгч төлөгчөөр төлөгч ө төлөгч төлөгчөөр ө төлөгчөөр ө төлөгчөөр
<009-3-12-m> бичирчлэг төлөгч ө төлөгчөөр төлөгч төлөгчөөр нь төлөгч ө төлөгчөөр ө

<009-4-06-y> 水田を蒙兀部に與ふ[日本蒙兀衆]
(kökeqota) yin nökiir-ün čimegej]

<009-4-06-g> usun tary-a-ya badaryulun üiledkü inü. [köke qota
төлөгч нь архыг]

<009-4-06-m> төлөгч төлөгч ө төлөгчөөр төлөгчөөр төлөгч. [архыг төлөгч (төлөгч) нь
<009-4-05-y> 蒙兀經道之衆蒙兀經道之衆也[日本蒙兀衆]
čimegej]

(köbünг)-ün qayučin büs-i kürgen öggügsen inü. [köke qota (kökeqota)-yin
<009-4-05-g> улус-ун гайрыл болгу екенер емес үд-еңе ұласу көбөңг
өтөр ө төлөгч төлөгчөөр төлөгч. [архыг төлөгч (төлөгч) нь архыг]

<009-4-05-m> төлөгч ө төлөгчөөр төлөгч төлөгчөөр төлөгч төлөгчөөр (төлөгч) ө бичирчлэг
<009-4-04-y> 蒙兀經道之衆蒙兀經道之衆也[日本蒙兀衆]
önggetü küriyeleng bolyaqu annu. [boutu (boryutu) yin köke tur-ün čimegej]

<009-4-04-g> nuturyaju bayıqu arıudam(arıudam) tal-a-ya noyyuan
өтөр төлөгч. [төлөгч (төлөгч) нь архыг төлөгч ө архыг]

<009-4-04-m> төлөгчөөр төлөгч төлөгчөөр (төлөгч) төлөгч ө төлөгчөөр төлөгчөөр
<009-4-03-y> 蒙兀經道之衆蒙兀經道之衆也[日本蒙兀衆]
(boryutu)-yin čimegej]

nasutai nibbun (yapun) emgen (emegen). [bararyun mongyul-ün boutu
<009-4-03-g> гайытай(гайытай) көбөңг-и-ен ери-е-и-ргесен на-ян гойар
төлөгч(төл) төлөгч(төл) . [бичирчлэг төлөгчөөр ө төлөгч (төлөгч) нь архыг]

<009-4-03-m> бичирчлэг (бичирчлэг) бичигч төлөгч төлөгчөөр төлөгчөөр төлөгчөөр
<009-4-02-y> 人口增加蒙兀の蒙兀經道之衆古蒙兀經道之衆也[日本蒙兀衆]
[köke qota (kökeqota)-yin čimegej]

qosiyu-dur amiduraly-a (amiduraly-a)-i (yi) jıyadaqu (jıyadaqu) yajar.
<009-4-02-g> törüjü nemegdekü inü mongyul-ün čiqula uçar (učir) tömed
архыг]

төрөгчөөр (төрөгчөөр) ө (төр) төлөгчөөр (төрөгчөөр) төлөгч. [архыг төлөгч (төлөгч) нь
<009-4-02-m> бичирчлэг төлөгчөөр төлөгч төлөгчөөр төлөгч төлөгчөөр (төлөгч) төлөгчөөр

<009-4-01-y> 蒙兀經道之衆
<009-4-01-g> bararyun mongyol-ün čimege-yin küsünüg.

<009-5-03-y> 木排羅

<009-5-03-g> udd-a uran-u küsünüg.

<009-5-03-m> 木排羅 1 木排羅 6 木排羅 7

<009-5-02-y> 羅木排羅羅木排羅 [羅木排羅]

sergeyilekü ary-a. [jiryu bui]

<009-5-02-g> mongyul-un mal mori-yin kejiŋ (kijiŋ) kiged tegün-i

<009-5-02-m> 羅木排羅 6 木排羅 7 木排羅 (木排羅) 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 [木排羅 6]

<009-5-01-y> 羅羅羅

<009-5-01-g> mal tejiŋgebüri-yin küsünüg.

<009-5-01-m> 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

<009-4-10-y> 羅羅羅木排羅羅羅羅

serenjiŋlekü ary-a-yin yəke tölüb-i kelegesen.

<009-4-10-g> qaldaburi ebedün-i olqu siltayan-i erteŋe (erte-ečč)

木排羅 6 木排羅 6

<009-4-10-m> 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

<009-4-09-y> 羅羅 羅羅羅羅羅

<009-4-09-g> eregül ba, ger jäyuraki kiged bey-e-yin kömüŋil-ün küsünüg.

<009-4-09-m> 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

<009-4-08-y> 羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅

[ŋangčiküü)-yin čimege]

(qota)-yin yaryum-a (yaryuman)-u ün-e-yi bayičaryarasan annu. [ŋang jiya kei

<009-4-08-g> dōben sarayin seŋil-ün üy-e jaŋg jiya keü [ŋangčiküü) qotan

(木排羅) 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

<009-4-08-m> 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

<009-4-07-y> 羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅

annu. [barayun mongyul-un čimege]

<009-4-07-g> sedkil-ün temdegleŋči-yin ger-i jäsar-un ordun-a bayiryulqu

木排羅 6 木排羅 6

<009-4-07-m> 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

annu.

<009-6-04-g> jəgüden-ü dotur-a nasutai eji degen učirayzan (učarayzan)

<009-6-04-m> 木排羅 (木排羅) 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

<009-6-03-y> 羅羅羅

<009-6-03-g> qabur-un uyaral.

<009-6-03-m> 木排羅 6 木排羅 6

<009-6-02-y> 羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅

<009-6-02-g> ečige eke-yin alberil-i erkebesi (erkebesi) medekü kereŋtei.

<009-6-02-m> 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

<009-6-01-y> 羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅

üges.

<009-6-01-g> jalayus nöktür (nöktür) nar-tu ilieŋekü kedün anggi biteŋüiŋ

<009-6-01-m> 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

<009-5-08-y> 羅羅羅羅羅羅羅

<009-5-08-g> ungsi'čid-ača ireggen eke bičig-ün küsünüg.

<009-5-08-m> 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

<009-5-07-y> 羅羅

<009-5-07-g> ayalan toyurıysan.

<009-5-07-m> 木排羅 6 木排羅 6

<009-5-06-y> 羅羅

<009-5-06-g> toil.

<009-5-06-m> 木排羅 6

<009-5-05-y> 羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅

<009-5-05-g> dürsütü ebkemel üsüg. [jiryu-un tayılburı]

<009-5-05-m> 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6 木排羅 6

<009-5-04-y> 羅羅

<009-5-04-g> dürimtü üges.

<009-5-04-m> 木排羅 6 木排羅 6

- <009-8-01-y> 尺蠖吐絲
- <009-8-01-g> keikked-un köke tuy.
- <009-8-01-m> nelw of awq awr.
- <009-7-03-y> 口蠶食糧盡 [K] ([ㄎ])
tayilburilaqu. [6] ([7])
- <009-7-03-g> nibun (yapun) mongyul kelejčikü (kelejčeki) üge-yi
- <009-7-03-m> 尺蠖(尺) 食糧(食) 盡(盡) 完(完) 了(了) [ㄨ] ([ㄨ])
- <009-7-02-y> 燕雀之巢中出燕
uysay-a.
- <009-7-02-g> suryan kömüjigülei (kömüjigülei) kiged mongyul arad
- <009-7-02-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-7-01-y> 三燕 [ㄩ]
- <009-7-01-g> yurban boduly-a-u (yin) bičig. [1]
- <009-7-01-m> 三(三) 燕(燕) 完(完) 了(了) [ㄩ]
- <009-6-07-y> 燕巢中出燕 [ㄩ]
- <009-6-07-g> qayiralantai (qayiralantai) sayin nayiratai (nayiratai) könnün.
- <009-6-07-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-6-06-y> 燕巢
- <009-6-06-g> qongqur-un dayruu.
- <009-6-06-m> 燕(燕) 巢(巢) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-6-05-y> 燕巢中出燕
- <009-6-05-g> qoni-ban quriyay-a kemeki silüg.
- <009-6-05-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-6-05-y> 燕巢中出燕
- <009-6-05-g> aduryučin bolud (bolun) arad-un dayruu.
- <009-6-05-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-6-04-y> 燕巢中出燕

- <009-8-06-y> 燕巢中出燕
- <009-8-06-g> yekedken üjekü sil-i kilbar-iyar kikiü anu (inu).
- <009-8-06-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-8-05-y> 燕巢中出燕 [ㄩ]
- <009-8-05-g> longqu-dur ömdege (öndege)-yi darun ortuyulqu. [irug bui]
- <009-8-05-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-8-04-y> 燕巢
- <009-8-04-g> mayadian kinaqu küsünüg.
- <009-8-04-m> 燕(燕) 巢(巢) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-8-04-y> 燕巢
- <009-8-04-g> bay-a siljikiü odu.
- <009-8-04-m> 燕(燕) 巢(巢) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-8-03-y> 燕巢中出燕
- <009-8-03-g> masi erten-ü nočuly-a.
- <009-8-03-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-8-03-y> 燕巢中出燕
- <009-8-03-g> keikked-yin sinjil suryal.
- <009-8-03-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-8-03-y> 燕巢中出燕 [ㄩ]
- <009-8-03-g> bay-a üliiger, mal-iyān oluyšan jaryu. [jiryu bui]
- <009-8-03-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-8-02-y> 燕巢中出燕
- <009-8-02-g> keikked kiged jiryu.
- <009-8-02-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)
- <009-8-01-y> 燕巢中出燕 [ㄩ]
- <009-8-01-g> činggis qayan jalaryu-taryan (dayan) sibaryu talbuju abalaysan anu. [jiryu bui]
- <009-8-01-m> 燕(燕) 巢(巢) 中(中) 出(出) 燕(燕) 完(完) 了(了) 了(了)

- <009-8-09-y> 藍藍糊
- <009-8-09-g> asayvıçlaqu ger.
- <009-8-09-m> 牛奶蛋糕 奶。
- <009-8-08-y> 藍中(藍中)
- <009-8-08-g> qorıqai-yin jirtinci (yirtinci).
- <009-8-08-m> 牛奶蛋糕 奶 (牛奶)。
- <009-8-08-y> 水入(水) 牛奶蛋糕 牛奶 [牛奶]
- <009-8-08-g> usu-tai çomuy-a (çomo)-yi uyaqu ügei-ber elgükü inü. [irug
bul]
- <009-8-08-m> 牛奶 牛奶 (牛奶) 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 [牛奶 奶]
- <009-8-07-y> 藍十(藍十)
- <009-8-07-g> noçuly-a-yin esi alququ anu.
- <009-8-07-m> 牛奶(牛奶) 牛奶 牛奶 牛奶。

<010-1-06-m> 牛奶(牛奶) 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶。

<010-1-05-y> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 [牛奶]

lam-a sabınar doluyan neres. [següder]

<010-1-05-g> ene jil-ün quyuçay-a nißun (yapın)-dur suryal kir-e cçikü

牛奶。[牛奶]

<010-1-05-m> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶

<010-1-04-y> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 [牛奶]

(suralçayşan), wang-un söm-e-ün bay-a nasutan-u angki. [següder]

<010-1-04-g> angq-a uday-a-yin üjenjitei yajar-i üjen suralçayşan

牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 [牛奶]

<010-1-04-m> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶

<010-1-03-y> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 [牛奶]

anu. [qayılar-un çimegel]

<010-1-03-g> belçiger-ün yajar-i sayjirayulqu-yi beki qatay-bar toytayşan

牛奶]

<010-1-03-m> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶

<010-1-02-y> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 [牛奶]

bayıyulquı.

<010-1-02-g> barayun muji-yin kai ü qotan-a basa nißen qural-un ger-i

<010-1-02-m> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶。

<010-1-01-y> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶

anu.

<010-1-01-g> qayan-u ordun-i bayıyulqu-dur qar-a küçün-i ergüjü bayıqu

<010-1-01-m> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶。

<010-1-00-y> 牛奶 第十期 康德八(一九四一)年五月二十四

tabun sarayın qorin döbhen

<010-1-00-g> arbaduyar quyuçay-a, engke erdemiti-yin naimaduyar on-u

牛奶。

<010-1-00-m> 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶 牛奶

牛奶 köke tuy 青旗

- <010-3-05-y> 雜誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 [jeme]tei unay-a törügsen anu (inu). [nõktir buyandalai-yin čimege]
 <010-3-05-g> ünən küčün-iyer čirmayırsan yađıy-a-dur ülemü sayıđan
 Ancaññıñ ıfı (ıfı) . [ıfıññeñ öimeññeñ ıfı ıfıññı]]
 <010-3-05-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-04-y> 雜誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 [kõke gota (kõkegotata)-yin čimege]
 <010-3-04-g> gegeren todurğai bolıqu gertekei sayıđan kõke qotan-u jegerai.
 Ancaññıñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-04-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-03-y> 雑誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 barayun mongğul-tur ečigsen anu (inu).
 <010-3-03-g> tus qorsiy-a-yin mori takaişhi abuyai alban-ača dabsju
 ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ .
 <010-3-03-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-02-y> 雑誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 (salulçırsan) örtege-yin emüneki şür jibqulang.
 <010-3-02-g> ünneldün türkirejüñ (türkičejü) qarılçan salulçırsan
 Ancaññıñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ .
 <010-3-02-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-01-y> 雑誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 čilig (čering)-tür orur-a ečigsen anu (inu).
 <010-3-01-g> baratur sedkil-dü (tü) fangđai abuyai barayun mongğul-un
 Ancaññıñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ .
 <010-3-01-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ

[2] <010-2-9-g> mongğul arad-un amidural-i köğüñkü qural-un yeke tölüü.
 <010-2-9-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ . [ıfıññeñ]
 <010-2-08-y> 雑誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條

- (kõkegotata)-yin čimege]
 <010-3-12-g> iderkeg jalayučud-i kömüjğülkü anu (inu). [kõke gota
 <010-3-12-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-11-y> 雑誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 yekekekü anu (inu). [kõke gota (kõkegotata)-yin čimege]
 <010-3-11-g> barayun mongğul-un tümed qosıy-un-a bar-a surıyayı-yi
 [ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ]
 <010-3-11-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-10-y> 雑誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 surbuljırsan inü (anu).
 <010-3-10-g> kõke tur sedkil-ün qorsiy-a-yi küseksen jorıta-bar
 <010-3-10-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-9-y> 雑誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 čimege]
 <010-3-9-g> kitad jegerai-yin arad-un ketürkei sayısayıtai uçır. [qayılar-un
 <010-3-9-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-08-y> 雑誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 čimege]
 <010-3-08-g> qayılar qotan-dur mori-yi bayıçayrsan anu. [qayılar-un
 <010-3-08-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-07-y> 雑誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 yurba buñ]
 <010-3-07-g> barayun mongğul-un aduyun süñüg bolun adıyuçın. [següder
 <010-3-07-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-06-y> 雑誌發條の語彙の整理に於て「及ホヤハヤ」條
 tusıyaltan nar. [següder]
 surbuljılar-a ireksen manjuur-un tüsimed-i bolbasuraylıqu yzarar-un alban
 <010-3-06-g> mñ sarayın sinid (sined)-ün üy-e-dür kõke tur-yi (yi)
 Ancaññıñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ
 <010-3-06-m> ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ ıfıññeñ

- <010-4-05-y> 蘇中嶺の土塩採
- <010-4-05-g> naran-a qourduyday-san (narsıqu) ebedün-i sergeyilekü arı-a.
- <010-4-05-m> җәһәтте һәм һәм һәм (җәһәтте) җәһәтте һәм һәм җәһәтте һәм һәм.
- <010-4-04-y> 蘇聯 җәмһүрияте җәмһүрияте җәмһүрияте җәмһүрияте җәмһүрияте [蘇聯]
- dotur-a adabasi naran-u gercel-i dusyauq keregetei.
- <010-4-04-g> ariyun tiber (čeber) ba arbolıaq-u-yin tula gertün (ger-tün)
- җәһәтте һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-4-04-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-4-03-y> 蘇聯 (蘇聯) 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 [蘇聯]
- kömüjgüli-i kijiü bayıqu annu. [següder qoyar bui]
- <010-4-03-g> duyısu ulus-un masin-a-bar ulus-i qamayalaqu surıyal
- җәһәтте һәм һәм [җәһәтте һәм һәм]
- <010-4-03-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-4-02-y> 蘇聯 蘇聯
- <010-4-02-g> nilq-a keüked-i qamayalaqu annu.
- <010-4-02-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-4-01-y> 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯
- <010-4-01-g> eregüli ba, ger jayıraki kiged bey-e-yin kömüjü-ün küsinüg.
- <010-4-01-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-3-14-y> 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯
- iregüli-kü-yi quyumu (quyumu).
- <010-3-14-g> ködege-yin čimege (čimegen)-ü eke bičig-i ürgüli
- <010-3-14-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-3-13-y> 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯
- (inü).
- <010-3-13-g> arun youl-un köbege-ber annu-yi tariqu-yi ekilegsen annu
- <010-3-13-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-3-12-y> 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯

- <010-5-04-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-5-03-y> 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯
- degün qoyar kömün-ü üge.
- <010-5-03-g> jän-dur ayuljıju (ayuljaju) kelelčigsen (kelelčegsen) aq-a
- җәһәтте һәм һәм
- <010-5-03-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-5-02-y> 蘇聯 蘇聯
- <010-5-02-g> dörben tuyıl-un toyıyal (toyıyal).
- <010-5-02-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-5-01-y> 蘇聯 蘇聯
- <010-5-01-g> udaq-a uran-u küsinüg.
- <010-5-01-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-4-09-y> 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 [蘇聯]
- bey-e-tü (beyetü) bolun sayjıtıraysan annu. [següder bui]
- <010-4-09-g> öčükken bey-e-tei morı-yi qalan sayjıtırıylıysayar öndür
- җәһәтте һәм һәм [җәһәтте һәм һәм]
- <010-4-09-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-4-08-y> 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯
- sayıqan qolburıydal.
- <010-4-08-g> gerün (ger-tün) teji gebüri-yin arasu ungyasu kiged uran
- <010-4-08-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-4-06-y> 蘇聯 蘇聯
- <010-4-07-g> mal teji gebüri-yin küsinüg.
- <010-4-07-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-4-06-y> 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯 蘇聯
- bayıdal-i temdeglegsen eke bičig-i iregüli-kü-yi küsemnü.
- <010-4-06-g> bey-e-yi kömüjgüli-kü (kömüjgüli-kü)-dür qanıyatıai
- җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм
- <010-4-06-m> җәмһүрияте һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм (җәһәтте) һәм һәм

toyurju baytal-a kirkirün dayuruqu (duyuruqu) üker büiry-e-yin dayran-aça

<010-8-09-g> kögjittei takıqu süm-e-yin qural-tur egiğed kögerüldün

(Аһһһһ) Өһһһ Өһһһ Өһһһ Өһһһ [тәһһ]

Өһһһһһ Өһһһһһ (Өһһһһһ) һһһһ Өһһһһ һ һһһһ һ һһһһһ Өһһһһһ һһһһ Өһһһһ

<010-8-09-m> Өһһһһһ Өһһһ һһһ һ һ һһһ һһ һһһһ Өһһһһһ Өһһһһһ Өһһһһ һ

<010-8-08-y> Һһһһһ һһһһһ һ һ һ

Jokıqu anu.

<010-8-08-g> ider jalayuu (jalayuu) nasun-dayran surulçıbasu (surulçıbasu)

<010-8-08-m> һһһһ һһһһ (һһһһ) һһһ һһһ һһһһһһ (һһһһһһһ) һһһһ һһһ

<010-8-07-y> һ һ һ һ һ һ һ

<010-8-07-g> keikced-ün kigsen jüil.

<010-8-07-m> Өһһһ һ һ һ һ һ һ

<010-8-06-y> Ө һ һ һ һ

<010-8-06-g> eng-ün edür-ün kelejige.

<010-8-06-m> Һһһ һ һ һһһһ (һһһһһ) .

<010-8-05-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-05-g> boyursuy idegsen iniyedem (iniyedüm).

<010-8-05-m> Өһһһһһ һ һһһһ һ һһһһ (һһһһһ) .

<010-8-04-y> Ө һ һ һ һ

<010-8-04-g> taulai ba yasutu manekci (manekci)

<010-8-04-m> Өһһһ Ө һ һһһһ һһһ (һһһһ) .

<010-8-03-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-03-g> bay-a üliget, jayran quluyan (quluyan-a) qaricün (qaricün) açi

һһһ

<010-8-03-m> Өһһһ һһһһһ һ һһ һһһһ (һһһһһ) Һһһ һһһһһһһ

qarıyulırsan anu.

<010-8-02-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-02-g> isüb üliget, eljige quadalıqu ebügen. [1]

<010-8-02-m> һһһһ һһһһһ һ һһһ һһһһһ һһһ һ һ

<010-8-02-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-02-g> isüb üliget, eljige quadalıqu ebügen. [1]

<010-8-02-m> һһһһ һһһһһ һ һһһ һһһһһ һһһ һ һ

<010-8-02-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-02-g> isüb üliget, eljige quadalıqu ebügen. [1]

<010-8-02-m> һһһһ һһһһһ һ һһһ һһһһһ һһһ һ һ

<010-8-02-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-02-g> isüb üliget, eljige quadalıqu ebügen. [1]

<010-8-02-m> һһһһ һһһһһ һ һһһ һһһһһ һһһ һ һ

<010-8-14-y> Һ һ һ һ

<010-8-14-g> asayučılaqu ger.

<010-8-14-m> Һһһһһһһ һ һ

<010-8-13-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-13-g> yal yaryaqu ary-a.

<010-8-13-m> Һ һ һ һһһһ һһһһ

<010-8-12-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-12-g> keikced-ün sinjil suryal.

<010-8-12-m> Өһһһ һ һ һ һ һ һ

<010-8-11-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-11-g> tayılburı, türgen čirmayıya-bide. [jınyı]

<010-8-11-m> Өһһһһһ Өһһһ һ һһһ һ һһ

<010-8-10-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-10-g> uruy-i elberilekü ögülel.

<010-8-10-m> Һһһһ һ һһһһ һ һһһ һ һһһ

<010-8-09-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-09-g> ayırvad böjiglekü metü debegcün (debekcün) bayıqu qoyar köbegüd nar.

[jınyı]

<010-8-09-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-09-g> ayırvad böjiglekü metü debegcün (debekcün) bayıqu qoyar köbegüd nar.

[jınyı]

<010-8-09-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-09-g> ayırvad böjiglekü metü debegcün (debekcün) bayıqu qoyar köbegüd nar.

[jınyı]

<010-8-09-y> Һ һ һ һ һ һ

<010-8-09-g> ayırvad böjiglekü metü debegcün (debekcün) bayıqu qoyar köbegüd nar.

[jınyı]

<010-8-09-y> Һ һ һ һ һ һ

<011-3-05-m> Өмөр төлөө өг үзүүлж өгөх.

<011-3-04-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-04-g> qalayun sedkiteri köke tuy-un nökid-tür qabsurayulun gany төлөө өгөх (төб),

<011-3-04-m> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-03-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх [Өмөр төлөө өгөх]

(takiry-a) oyiratabai (oyiratabai). [qayilar-un nökid-ün äimege]

<011-3-03-g> бүтүн-йер күйлөйү байысан бойда агула-ын такилар-а (төмөр) ; [Өмөр өг төлөө өг өгөх]

<011-3-03-m> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-02-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх ann (ünü).

bolbasurayulun surayysan suraycid (suraycid) neyisiel gotan-dur iregsen <011-3-02-g> mongyul arad-un amidural-i kögügülkü qural-un

Өмөр (Өмөр) төлөө өгөх үзүүлж өгөх (төб),

<011-3-02-m> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх өгөх.

№]

<011-3-01-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх [següder bul]

degüü nar-i tengkerügülün surayyuli-dur oruyuluyusan sayisiyaltai učir.

sayinöyörui bayisi qalayun sedkili-iyer ayılı yacay-a-yn yacıydaysan, keilked <011-3-01-g> qayuray jan-un moritu čirig (čerig)-ün jüng yüü tüsimej,

Өмөр (Өмөр) төлөө өгөх үзүүлж өгөх [Өмөр өг]

Өмөр (Өмөр) төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-01-m> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-2-14-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх [1]

qural-un yekke tölib. [2]

<011-2-14-g> mongyul arad-un amiduraly-a (amiduraly-a)-yi kögügülkü [2]

<011-2-14-m> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-11-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх [Өмөр төлөө өгөх]

surayqu ann. [qayilar-un äimege]

<011-3-11-g> dumdadu jerge-yn surayyuli-dur čirig (čerig)-ün bolbasural-i [Өмөр өг өгөх]

<011-3-11-m> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-10-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх [Өмөр төлөө өгөх]

talbju bayıqu ann. [qayucın barıy-yn qorsiy-a-yn nökid-eče iregüügessen

<011-3-10-g> gedestin-ü kejiğ (kejiğ) ebedcin-i uridčian sergeyilekü jегüü [Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх]

<011-3-10-m> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-9-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх [Өмөр төлөө өгөх]

tanıyulıy-a. [yajar-un jıruy bul]

<011-3-9-g> aburyai nar-dur köke tuy sedkili-ün qorsiy-a-yn yajar-i [Өмөр өг]

<011-3-9-m> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-08-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх yekedken bayıyulann.

<011-3-08-g> barayun mongyul-un kömed qosıyru-a bay-a surayyuli-yi

<011-3-08-m> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-07-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх muji-yn äimege]

<011-3-07-g> nannurun ularıl-dur ebesü qurıyagu ann. [kingyan barayun

<011-3-07-u> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-06-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх üge.

<011-3-06-g> jalayid qosıyru-ača iregsen jalayuu (jalayuu) nıgen mama-yn

<011-3-06-m> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх.

<011-3-05-y> Өмөр төлөө өгөх үзүүлж өгөх

<011-3-05-g> barayun mongyul-un nökid-ün ilegessen següder.

<011-4-06-g> toli metü üge.
<011-4-06-m> 4000 4000 4000

<011-4-05-y> 蘇州府知府 蘇州府知府 蘇州府知府
bey-e inu ketürkei yadangyuyiramui.

<011-4-05-g> büin güyüçed umtaju (umtaju) çidagu ügei kömün, büki
1000000000

<011-4-05-m> 1000000000 (1000000000) 1000000000 1000000000 1000000000

<011-4-04-m> 蘇州府知府 蘇州府知府 蘇州府知府

<011-4-04-m> ger-ün ejen boluyçı er-e kömün-ü erkinlen yabuqu jam.

<011-4-04-m> 1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-4-03-y> 蘇州府知府 蘇州府知府 [蘇州府知府]

<011-4-03-g> bey-e maqabud-un tengkelegün-i qamayalaqu anu. [jiryı buı]

<011-4-03-m> 1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-4-02-y> 蘇州府知府 蘇州府知府

<011-4-02-g> ger jayuraki suryal kömüjülei (kömüjügülil).

<011-4-02-m> 1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-4-01-y> 蘇州府知府 蘇州府知府

<011-4-01-g> eregül ba, ger jayuraki kiged bey-e-yin kömüjüi-un küsünüg.

<011-4-01-m> 1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-3-13-y> 蘇州府知府 蘇州府知府 蘇州府知府

(naryu)-un neğüesü-yin aruqai-yi negegen badarayuluyisan anu.

<011-3-13-g> ulam badaraq man-u ulus-un ed körüngege, dalai nuur
1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-3-13-m> 1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-3-12-y> 蘇州府知府 蘇州府知府 [蘇州府知府]

bötügekü anu (inu). [köke gotan-u (kökeqota-yin) çimmege]

<011-3-12-g> iderkeg jalayus-i kömüjügülün ulam idü küçükei bolyan

[1000000000 1000000000 1000000000]

<011-3-12-m> 1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-5-07-y> 蘇州府知府 蘇州府知府
<011-5-07-g> manju-yin çirig (çirig)-ün dayuu.
<011-5-07-m> 1000000000 1000000000 1000000000

<011-5-06-y> 蘇州府知府 蘇州府知府

<011-5-06-g> mongyulçud-un çirmayiqu silüg.

<011-5-06-m> 1000000000 1000000000 1000000000

<011-5-05-y> 蘇州府知府 蘇州府知府

<011-5-05-g> silüg-ün bilüg

<011-5-05-m> 1000000000 1000000000 1000000000

<011-5-04-y> 蘇州府知府 蘇州府知府

<011-5-04-g> udaq-a uran-u küsünüg.

<011-5-04-m> 1000000000 1000000000 1000000000

<011-5-03-y> 蘇州府知府 蘇州府知府 蘇州府知府

yuba buı]

<011-5-03-g> aru qortın-u kitaru mori jerge yuruban törtül-ün mori [següder

<011-5-03-m> 1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-5-02-y> 蘇州府知府 蘇州府知府

<011-5-02-g> qar-a qabudat ebedün-ü çiqula jüli.

<011-5-02-m> 1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-5-01-y> 蘇州府知府 蘇州府知府

<011-5-01-g> mal teji gebüri-yin küsünüg.

<011-5-01-m> 1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-4-07-y> 蘇州府知府 蘇州府知府 蘇州府知府

suryal-i kömüjügülügen bayisdardıji-yin üliget.

<011-4-07-g> qarqan (qarqan) bay-a-yin çay üyes-eçe qalayun sedkil-iyer

1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-4-07-m> 1000000000 1000000000 1000000000 1000000000

<011-4-06-y> 蘇州府知府 蘇州府知府

- çiğula bol'yaqu annu. [següder buil]
- <011-6-03-g> öbertin vrsay-a ayımav-un uđq-a üsüg-iyen ölii onkiqu-yi
 𐰃𐰺𐰽𐰸 [𐰃𐰺𐰽𐰸 𐰹]
- <011-6-03-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-6-02-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-6-02-g> bay-a üliġer, čimü eke.
 <011-6-02-m> bay-𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-6-01-g> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-6-01-y> unġsiyčid-ača ireġsen eke bičiġ-ün küsünüġ
 <011-6-01-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-5-13-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-5-13-g> kinġyan suryal-un qoriyan-u dayulal.
 <011-5-13-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-5-12-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-5-12-g> nayırlay-a.
 <011-5-12-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-5-11-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-5-11-g> basım.
 <011-5-11-m> bay-𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-5-10-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-5-10-g> eġeljel.
 <011-5-10-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-5-09-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-5-09-g> köke mongyul-un manduqu silüġ.
 <011-5-09-m> bay-𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-5-08-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-5-08-g> köke tuy-un sedküi-i küsen belgeleġsen annu (inü).
 <011-5-08-m> bay-𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺

- <011-7-01-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 [𐰃]
- <011-6-10-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-6-10-g> borsang quwaray-un sanal
 <011-6-10-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-6-09-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-6-09-g> nöktür niġbun (yapun) ulus-un yeke aci tusa-yi keleġsen annu
 <011-6-09-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 (𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺) 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-6-08-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-6-08-g> köke tuy. [silüġ]
 <011-6-08-m> bay-𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 [𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺]
- <011-6-07-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-6-07-g> manju ulus arad-dur masi örtüsiyel-ter-yi keleküi annu (inü).
 <011-6-07-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-6-06-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 <011-6-06-g> qaburum (qabur-un) čay sanayaljiysan (sanayaljiysan) silüġ.
 <011-6-06-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 (𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺) 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 (𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺) 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-6-05-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 uridčilan bodun olıysan annu.
 <011-6-05-g> man-u mongyul erke ügei dakin manduju bolqu-yi mayad
 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-6-05-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-6-04-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 (ban) mandurıuluy-a. [següder buil]
 <011-6-04-g> üge uđq-a-ban kičiyen kündükejü qojındaysan uđq-a-ıyan
 [𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺]
 <011-6-04-m> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
- <011-6-03-y> 𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺
 [𐰃𐰺𐰽𐰸𐰺]

<011-8-01-m> ئەتەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ

<011-7-08-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ] ھۆكۈمەت [ھۆكۈمەت]

<011-7-08-g> mongyul uysaryalan-daryan sanayulqu üges. [siliüg]

<011-7-08-m> تەنھەڭ ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ. [ئىشلىتىش]

<011-7-07-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ] ھۆكۈمەت [ھۆكۈمەت]

kökenükü jobayuri.

<011-7-07-g> üejü qaratal-a oniyul-dur unaysan anu, üsüg ötü tanrıçid-un tötömnä.

<011-7-07-m> مەنەڭ ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ

<011-7-06-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ] ھۆكۈمەت [ھۆكۈمەت]

köbegün.

<011-7-06-g> iniyedüm-tei bay-a üliгер, nigен em-e-еде ayuqu kömün-ün

<011-7-06-m> ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ

<011-7-05-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ]

tayiburiqlaqu. [9]

<011-7-05-g> niibun (yapun) mongyul keleleçikü (keleleçeki) üge-yi

<011-7-05-m> ئەنەڭ (تەنھەڭ) مەنھەڭ ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ. [9]

<011-7-04-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ]

<011-7-04-g> köke tuy-ıyan (ban) delgergükü kemekü silüg.

<011-7-04-m> ئەنەڭ ئەمەڭ (بەن) ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ

<011-7-03-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ]

<011-7-03-g> köke tuy-un jorika egüрге. [siliüg]

<011-7-03-m> ئەنەڭ ئەمەڭ ۋە تەنھەڭ ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ

<011-7-02-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ] ھۆكۈمەت [ھۆكۈمەت]

<011-7-02-g> gimani-yin (german-u) tariyalang ideten-ü čoy jibqulang.

<011-7-02-m> ئەنەڭ ئەمەڭ (گەرمانىيە) ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ

<011-7-01-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ]

<011-7-01-g> yurban bodulıy-a-yin biçig. [3]

<011-8-09-m> ئەنەڭ ئەمەڭ تەنھەڭ ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ.

<010-8-08-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ]

<010-8-08-g> keüked-ün kigsen jüil.

<010-8-08-m> ئەنەڭ ئەمەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ.

<011-8-07-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ]

<011-8-07-g> modun-u aci tusa.

<011-8-07-m> مەنەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ.

<011-8-06-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ] ھۆكۈمەت [ھۆكۈمەت]

<011-8-06-g> narān sarān bariydaqū silhāv.

<011-8-06-m> ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ. [ئىنسانلار]

<011-8-05-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ] ھۆكۈمەت [ھۆكۈمەت]

(yapun)-dur ildēken yarayāsān anu. [jiruy bui]

<011-8-05-g> somu jebseg metü qurdun yabūqu masin-i niibun

تەنھەڭ.

<011-8-05-m> ئەنەڭ ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ

<011-8-04-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ]

<011-8-04-g> sirui-bar boyda ayula-yin bayidal-i kigsen inü. [jiruy]

<011-8-04-m> ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ. [ئىنسانلار]

<011-8-03-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ] ھۆكۈمەت [ھۆكۈمەت]

(dürsülen) kikiü ary-a. [jiruy bui]

<011-8-03-g> tübsin tal-a-yin degер-e ayula-yin bayidal-i dürsülen

[ئىنسانلار]

<011-8-03-m> ئەنەڭ ئەمەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ

<011-8-02-y> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ]

<011-8-02-g> rajar-un jiruy-i üjekiü ary-a. [jiruy bui]

<011-8-02-m> ئىنسانلارنىڭ ئىشلىتىش ھەققىدە تەنھەڭ ۋە ئەنەڭ ئەمەڭ. [ئىنسانلار]

<011-8-01-g> 蒙古国 [مەنگۆ گۇاڭتۇ]

<011-8-01-y> keüked-ün köke tuy.

- <011-8-15-y> 聖蹟院遊
- <011-8-15-g> keik-ed-un emci-yin qoriy-a.
- <011-8-15-m> ñhvaf af ñhvaf ñhvaf?
- <011-8-14-y> 彼上柳參詣
- <011-8-14-g> aljıyı (aljıyı) kōnün-tü üliġer.
- <011-8-14-m> ñhvaf (ñhvaf) ñhvaf s ñhvaf.
- <011-8-13-y> 紫參詣
- <011-8-13-g> iniyedün üges.
- <011-8-13-m> ñhvaf ñhvaf.
- <011-8-12-y> 柳參詣
- <011-8-12-g> miyui (mıur)-yin (un) üliġer.
- <011-8-12-m> ñhvaf (ñhvaf) ñhvaf.
- <011-8-11-y> 青旗報社に継続寄稿の依頼
- olan-du yabıyulıqu anu.
- <011-8-11-g> köke tıy-un sedkü-ün ger-tür eke biġig ilgeġü-yi yuyun ñhvaf.
- <011-8-11-m> ñhvaf ñhvaf af ñhvaf af ñhvaf ñhvaf ñhvaf ñhvaf ñhvaf ñhvaf.
- <011-8-10-y> 鎌字は人間の成程のこと
- <011-8-10-g> biġig üstüġ kenġeġi bey-e-ben bayıyulıqu-yin ünüdsü mön-e.
- <011-8-10-m> ñhvaf ñhvaf ñhvaf ñhvaf ñhvaf ñhvaf ñhvaf ñhvaf ñhvaf.
- <011-8-09-y> 若く時に軍隊に入営
- <011-8-09-g> jalayı nasun-dur čirig (čirig)-tür yabıyulıqu anu.

••• ••• 2022 •••

•••

[2022] 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

[2022 2022 2022 2022]

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

[« 2022 » 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022]

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

[« 2022 » 2022 2022 2022 2022 2022]

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

[2022 2022 2022] 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

[2022 2022 2022 2022 2022]

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

2022

2022 2022 2022 2022 2022 2022

አስገቢዎቻችን ስለ

የሚገኝ ስራ ለማግኘት

[ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት]

ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት

የሚገኝ ስራ ለማግኘት

ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት

[ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት]

ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት

የሚገኝ ስራ ለማግኘት

ይህን ስራ ለማግኘት

ይህን ስራ ለማግኘት

የሚገኝ ስራ ለማግኘት

ይህን ስራ ለማግኘት

[ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት]

ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት

[ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት]

ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት

የሚገኝ ስራ ለማግኘት

የሚገኝ ስራ ለማግኘት

ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት (6)

ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት

ይህን ስራ ለማግኘት ለሚገኝ ስራ ለማግኘት (1)

陳田爾虎旗
包頭

貝子廟

西蘇丹自治政府

巴林左旗

青少年隊

小流屋

綠化

綠色公園

週間世界情勢

見傳

私立中等學校

運動場

國の後衛

國民學校

國民優級學校

保健事業

物資配給所

厚生所

王爺廟

王爺廟

熱河省

世界

常職

會議

警務補

第九軍

モウニガゼル

扎欄屯

警務

圖騰

映画

承德

英雄旗

熱中症

見傳

觀孝行

德國教育

なぞなぞ

日會話

阿羅河

アドルフ・ヒトラー (Adolf Hitler)

拡大鏡

張家口

奉勳

祝賀式

護照

徵兵官會議

奧察事

鐵

多金

吐察特旗

官吏訓練生

補助金

保健課

職員

教師

新聞記者

參事

滿州國

功勞者

警察

本館

科衛沁左翼中旗

興安軍官學校

興安南省

研修生

北京

茶曼旗

予防接種

國交正常化

阿魯科爾沁旗

民衆協和

厚生會

關魯市

万全県

万安県

錦洲省

独逸(ドイツ)

土默特左旗

中總協

蒙中青年

蒙古民族

蒙民裕生會

森健

殖産課

青旗報社

集會所(會議室)

懷安県

卒業

参事官

皇宮

羅馬尼亞(ルーマニヤ、ルーマニア)

熱河省

中野

扎魯特旗

扎賚特旗

軍官學校生

警察學校

中等學校

炭鉱

グライノール

証明書

承認

ソ連

新京

日食

騎兵

莫斯科

猫

感染性胃腸炎

独逸(ドイツ)

興安學院

悪性黒色腫

陸軍

ブルガリア(ボヤリア)

協定締結

『1940年代アジア総合年表』に見る 国際情勢の日録記事（1941年5月）

田中 仁

大阪外国語大学アジア研究会『1940年代アジア総合年表』（1995年，310頁）は，同研究会による『アジア現代史年表』（1989年）をふまえて行った研究プロジェクト「第二次世界大戦期アジア社会の構造変動：『アジア現代史年表』の作成とその解題」（1992～94年度科学研究費補助金・一般研究A（課題番号04405005，研究代表者：桑島昭）の成果報告書である。

同書の「序文」において，研究代表者の桑島は次のように記している。

1940年代のアジア史についての本年表は，それぞれの地域が当面した課題に即してアジアの全体像を描こうとしている。

第二次世界大戦の性格や，起点をめぐる論争についても，ここでは，統一した視点に立つよりも，それぞれの地域の民衆が戦争をどのようなものとして受けとめたかに注意している。たとえば，世界大戦の性格をめぐるインド国民会議派とインド共産党の対立は深刻であり，それは戦後インド史のありかたに深い影響を及ぼしているが，この点に留意しながらも，むしろ，当時，飢饉に苦しんでいたベンガルの底辺層の人々にとって，戦争は何を意味したかという視点から「世界大戦」の性格を描こうとした。大戦下の日本の民衆が直面した空襲と食糧危機は，フィリピン，ヴェトナム，ビルマ，インド，イランなどの民衆が直面した問題と共通している。アジアの「地域」を横につなぐとき，「大国」をつなぐ歴史像とは別の世界大戦像をつかみとることが出来るであろう。

本年表においてこの点がどの程度成功したか，むしろ，それは本年表の作成を通じて改めて我々に残された課題といえる。また，このことは，アジアの民衆の日付けのない日常から提起された問題を本年表がどの程度吸収できたかにも関わっている。

さらに構成と体裁について，「序文」は次のように述べる。

それぞれの地域の取り上げた項目数には、かなりの差がある。このため、紙数の制約と全体のバランスを考えて、順次、地域別に項目を並べ、索引を通して、地域を越えたアジアの同時代をとらえることができるようにした。しかし、アジアの全体像を一つの視野のなかに収めるといふ点で不満も残るである。それについても、改めて、公刊するに際しての検討課題としたい。

本年表は、当初、日本語と英語で同時に作成する計画を立てた。しかし、作成の過程において...止むを得ざる事情が発生したために、英文年表は部分的なものにとどまった。しかし、すでに作成されたものについては、多くの新しい視角を提供しえたと考えている。我々の作業の成果の結果をアジアの歴史に関心を寄せる世界の多くの人々と共有するためにも当初の計画を実現することが求められている。

同書の構成と執筆者は下記のとおりである。

日本語部分

日本：西村成雄，小野田求，秋田茂，森藤一史
朝鮮：小野田求
中国：田中仁
モンゴル：生駒雅則，村井宗行
フィリピン：津田守
ヴェトナム：五島文雄
インドネシア：松野明久，柏村彰夫，北野正徳
マレーシア・シンガポール：黒田景子，Nagarajan,S，桑島昭
タイ：赤木攻
ビルマ：大野徹，南田みどり
南アジア：桑島昭，濱口恒夫
イラン：岡崎正孝，藤元優子，加賀谷寛
西アジア：白井正博
オセアニア：竹内俊隆
ヨーロッパ・アメリカ：秋田茂，松田武，山田康博，杉田米行

英語部分

中国：田中仁（福富祐子訳）
モンゴル：村井正行
フィリピン：Evangelista,Oscar，Alfaro,Yolanda，津田守
マレーシア・シンガポール：黒田景子，Nagarajan,S，桑島昭
ネパール：桑島昭

『フフ・トグ(青旗)』データベースでは、『1940年代アジア総合年表』におけるテキストデータを用いて、刊行日前後の一週間の日録記事データをスクロールして表示したいと考えている¹。

以下、1941年5月の記事データを整理し一覧化する。

* * *

- 1² 天皇、法律「国防保安法」を公布〔KO-5〕³
- 1 天皇、法律「治安維持法改正」を公布〔KO-5〕
- 1 ビルマ＝ルート管理委員会設立〔CH-2〇〕⁴
- 1 胡風編『民族形式討論集』出版〔CH-43〇〕⁵
- 1 労働手帳制導入〔MO-1〇〕⁶
- 3 ビハール・シャリーフ(ビハール州パトナー県)とその周辺村落でのコミユナル暴動による死者、21人と報告さる〔SA_ID-27〕⁷
- 3 イギリス戦時経済省、5月15日よりヨーロッパ以外の中立国からペルシア湾岸の港への貨物には封鎖海域通過証が要求されると発表〔IR-1〕⁸
- 4 ドーマン・スミス、ビルマ総督に任命さる〔BUR-5〕⁹
- 5 モスクワ＝ハミ間の航空路、運行再開〔CH-7〇〕¹⁰
- 5 日本軍、鄂北戦役を発動(16日まで)〔CH-11〇〕¹¹
- 5 日本出版配給株式会社創立(44年9月1日統制会社に改組)〔JA-1〕¹²
- 5 京城帝国大学、大陸文化講座を開講〔KO-1〕¹³

¹ 『1940年代アジア総合年表』が多くの研究者が参与した編集所作物であることから、データベースの公開にあたっては、本文に列記した執筆者や翻訳者など表現に関わった人々からの許諾が必要である。

² 1941年5月「1」日を示す。

³ 〔KO-5〕は年表の構成と典拠とした資料番号を示す。すなわち〔KO〕は朝鮮、〔KO-5〕は「朝鮮」の資料番号5：韓国学文献研究所編『朝鮮総督府官報』(亜細亜文化社、ソウル、1987年)。

⁴ 〔CH〕は中国、〔CH-2〕は、戴月芳主編『20世紀中国全記録』(錦繡出版事業股份公司、台北、1992年)。「〇」は英語データが存在することを示す。

⁵ 〔CH-43〕: 文天行編『国統区抗戦文芸運動大事記』(四川社会科学院出版社、成都、1985年)。

⁶ 〔MO-1〕: 「モンゴル」, БНМАУ-ын Тvvх, Боть, Улаанваатар, Улсын Хэвлэлийн Хэрэг Эрхлэх Хороо, 1967.

⁷ 〔SA_ID-27〕: 「南アジア・インド」, Nripendra Nath Mitra (ed.), The Indian Annual Register; an Annual Digest of Public Affairs of India, The Annual Register Office, Calcutta, 1939-1947.

⁸ 〔IR-1〕: 「イラン」, The London Times.

⁹ 〔BUR-5〕: 「ビルマ」, Maurice Collis, Last and First in Burma (1941-1948), Faber and Faber, London, 1956.

¹⁰ 〔CH-7〕: 高蔭祖主編『中華民國国大事記』, 世界社, 台北, 1957年。

¹¹ 〔CH-11〕: 朱漢国主編『南京国民政府紀実』, 安徽人民出版社, 合肥, 1993年。

¹² 〔JA-1〕: 「日本」, 岩波書店編集部編『近代日本総合年表』, 岩波書店, 東京, 1984年(第2版)。

¹³ 〔KO-1〕: 「朝鮮」, 신석호·기타편『연표로 보는 현대사』, 신구문화사, 서울, 1974年。

- 6 アメリカ，中国に「武器貸与法」を適用〔EA-3〕¹⁴
- 6 日本・フランス両国政府，日本とインドシナ間の経済関係に関する諸協約を締結〔VI-4〕¹⁵
- 7 日本軍，中条山戦役を発動（27日まで）〔CH-11〇〕
- 8 初の肉なし日（毎月2回，肉屋・食堂など肉不売）〔JA-1〕
- 9 （台湾）全島で「防諜週間」実施〔CH-28〇〕¹⁶
- 9 「タイ・フランス平和条約」締結〔THA-1〕¹⁷
- 9 「タイ・フランス領インドシナ平和条約」，東京で調印（フランス，タイにバタンバン地区を割譲）〔VI-1〕¹⁸
- 10 インドシナ共産党第8回中央委員会，カオバン省パクボで開催（コミンテルン代表グエン・アイ・クオックが主宰。チュオン・チン，ホアン・ヴァン・トゥー，ホアン・クオック・ヴィエット，フン・チ・キエンおよび北圻・中圻代表が参加。新中央委員会委員を選出。チュオン・チンが総書記に就任。ホアン・ヴァン・トゥーとホアン・クオック・ヴィエットを常任委員会委員に補充。ヴェトナム独立同盟（ベトミン）結成。反仏・反日民族解放路線を決定。19日まで）〔VI-4〕
- 10 ウィルヘルミナ女王，ラジオ演説（植民地改革は戦争終了後検討すると発表）〔INN-18〕¹⁹
- 10 総督府，道議員選挙を全国で実施〔KO-1〕
- 10 ドイツのナチス副総統ルドルフ・ヘス，スコットランドに単独飛行（対イギリス和平打診を企図するも，イギリス・ドイツ両政府はこれを無視）〔EA-3〕
- 11 野村大使，ハルに「日米了解案」修正案を提示〔EA-3〕
- 11 蒋介石，周恩来と会見〔CH-22〇〕²⁰
- 12 国民政府，「非常時期食糧管理違反処罰暫行条例」を公布〔CH-11〇〕
- 12 李軫鎬，中樞院副議長に就任〔KO-1〕
- 13 中共中央，中央西北局の樹立を決定〔CH-21〇〕²¹
- 13 マイソール藩王国宰相ミルザー・イスマーイールの辞任，発表さる〔SA_ID〕²²
- 14 「貿易統制令」公布〔JA-1〕

¹⁴ 〔EA-3〕：「ヨーロッパ・アメリカ」，『20世紀全記録』，講談社，東京，1987年。

¹⁵ 〔VI-4〕：「ヴェトナム」，Duong Trung Quoc, VIET NAM NHUNG SU KIEN LICH SU 1858-1945 TAP 4 1936-1945, Nha xuất bản khoa hoc xa hoi, 1989, Hanoi.

¹⁶ 〔CH-28〕：台湾総督府編『台湾日誌』，緑蔭書房，東京，1992年（復刻版）。

¹⁷ 〔THA-1〕：「タイ」，รอง ศยามานนท์, ประวัติศาสตร์ไทยในระบอบรัฐธรรมนูญ ไทยวัฒนาพานิช, ก.ท.ม. 1977.

¹⁸ 〔VI-1〕：岩波書店編集部編『近代日本総合年表』，岩波書店，東京，1984年（第2版）。

¹⁹ 〔INN-18〕：「インドネシア」，Kartodirdjo, S. et al. (eds.), Sejarah Nasional Indonesia, Balai Pustaka, 1977. Jakarta.

²⁰ 〔CH-22〕：肖一平・翁仲二・楊聖清・何進・王健衆編『中国共産党抗日戦争時期大事記』，人民出版社，北京，1988年。

²¹ 〔CH-21〕：中共中央党史研究室『中共党史大事年表』，人民出版社，北京，1987年。

²² 典拠の記載なし。

- 15 総督府令「朝鮮思想犯予防拘禁規則」を公布〔KO-5〕
- 16 イギリス，マライから日本および円ブロック向けゴム輸出を禁止〔EA-26〕²³
- 16 中共中央機関紙『解放日報』，延安で創刊〔CH-20〕
- 17 『大衆生活』，香港で復刊〔CH-220〕
- 19 駐日米国大使グルーと松岡外相会談〔JA-3〕²⁴
- 19 毛沢東，「われわれの学習を改造せよ」と題して講演〔CH-210〕
- 20 国民政府，糧食部を設置〔CH-190〕²⁵
- 20 中共中央華中局成立〔CH-210〕
- 中旬 東京でたばこ1人1個売り厳守〔JA-1〕
- 24 ドイツ戦艦「ビスマルク」，イギリス海軍最大の戦艦「フッド」を撃沈〔EA-3〕・
- 24 ボンベイのコミユナル暴動で8人死亡〔SA_ID-27〕
- 25 横田喜三郎『国際裁判の本質』刊〔JA-1〕
- 25 アメリカ政府，第2期対華武器援助を批准〔CH-20〕
- 25 パンジャープ州会議派委員会議長ミヤーン・イフティカルッディーン，100人以上の各コミュニティー代表を自宅に招待（州内のコミユナル統一の方法をさぐり，そのプログラムを作成する委員会を設立）〔SA_ID-27〕
- 26 ボンベイ市内のコミナル暴動鎮圧に軍隊発動〔SA_ID-27〕
- 27 ドイツ戦艦「ビスマルク」，イギリス海・空軍の報復攻撃により沈没〔EA-3〕
- 27 アメリカ「非常事態宣言」・「臨戦態勢確立宣言」を発表〔EA-1〕²⁶
- 28 日本新聞連盟設立（11月15日同理事会，全新聞の新聞共同会社への一元化案をめぐる紛糾）〔JA-1〕
- 28 ローズヴェルト大統領，「アメリカ属領輸出統制法」に署名（フィリピンにも適用）〔PH-170〕²⁷
- 28 貴族院議員岩倉公爵一行，山城丸にてダバオに入港（麻農園などを視察）〔PH-170〕
- 29 北支那方面軍，冀東作戦を開始〔CH-170〕²⁸・
- 30 ラーマ7世王崩御〔THA-3〕²⁹・
- 30 （イラク）英軍，ガイラーニーの対英抗争を鎮圧〔WA-2〕
- * 平安南道中和郡東頭面真里古墳壁画，発見〔KO-1〕

²³ 〔EA-26〕：日本国際政治学会太平洋戦争原因研究部編『太平洋戦争への道』（第6巻，南方進出），朝日新聞社，東京，1963年。

²⁴ 〔JA-3〕：梁寒冰・魏宏運主編『中国現代史大事記』，黒龍江人民出版社，ハルビン，1984年。

²⁵ 〔CH-19〕：中国国民党中央委員会党史委員会編『中国国民党90年大事年表』，台北，1984年。

²⁶ 〔EA-1〕：日比野丈雄編『世界史年表』，河出書房新社，東京，1983年。

²⁷ 〔PH-17〕：「フィリピン」，フィリピン協会『日比関係記録集』，フィリピン協会，東京，1985年。

²⁸ 〔CH-17〕：松田光生編著『15年戦争時代日録』（2巻），葦書房，福岡，1987年。

²⁹ 〔TH-3〕：大阪外国語大学タイ語学研究室編『タイ国歴史年表』，大阪，1958年。

* * *

- 1 The Burmese Route Administrative Committee was founded. [C-2]
- 1 The Collected Debates of the National Formality edited by Hufeng was published. [C-43]
- 1 Personal labor books were introduced. [MO-1]
- 5 An airway between Moscow and Hami was reopened. [C-7]
- 5 Japanese troops exercised the E'bei Warfare (until May 16). [C-11]
- 7 Japanese troops exercised the Zhongtiao Mountain Warfare (until May 27). [C-11]
- 9 (Taiwan) Anti-Episonage Week" was enforced in the entire island. [C-28]
- 11 Jiang Jieshi had a talk with Zhou Enlai. [C-22]
- 12 The National Government promulgated the Provisional Bill of Punishing the Violation of the Food Administration during the Extraordinary Period." [C-11]
- 13 The Central Committee of the CCP resolved to establish the Central Northwestern Bureau. [C-21]
- 16 *Jiefang Ribao*, the party organ of the Central Committee of the CCP, started the publication in Yan'an. [C-2]
- 17 *Dazhong Shenghuo* revived the publication in Hong Kong. [C-22]
- 19 Mao Zedong made a report entitled "*Reform Our Study*." [C-21]
- 20 The National Government set up the Ministry of Food. [C-19]
- 20 The Central Committee of the CCP Central China Bureau was established. [C-21]
- 25 The US Government ratified the secondary military aid to China. [C-2]
- 28 President Roosevelt signed the Export Control Law covering American Territory, and applied also to the Philippines. [PH-17]
- 28 Aristocrat Iwakura and his party arrived in Davao in Yamashiro Maru for an observation visit around the hemp plantation. [PH-17]
- 29 The Japanese Army of the North China Theater launched the Jidong (the eastern part of Hebei Province) Operation. [C-17]

執筆者・発言者

堤一昭（つつみ かずあき）

大阪大学・文学研究科・教授

周太平（ZHOU Taiping）

中国 内モンゴル大学・蒙古学院・教授

都馬バイカル（とば ばいかる）

桜美林大学・リベラルアーツ学群・准教授

相原佳之（あいはら よしゆき）

公益財団法人東洋文庫・研究員 / 人間文化研究機構・地域研究推進センター・研究員

田中仁（たなか ひとし）

大阪大学・法学研究科・教授 / 公益財団法人東洋文庫・研究員（客員）

中見立夫（なかみ たつお）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

石川禎浩（いしかわ よしひろ）

京都大学・人文科学研究所・教授

内田孝（うちだ たかし）

滋賀県立大学・非常勤講師 / 大阪大学・日本語日本文化教育センター・非常勤講師 / 島根県立大学・客員研究員

橋本勝（はしもと まさる）

大阪外国語大学・名誉教授

野原亜希（のはら あき）

大阪大学附属図書館・学術情報整備室・専門職員

娜仁格日勒（ナランゲレル）

中国 内モンゴル大学・外国語学院・教授

『青旗』研究会

あとがき

本書は、2015年9月19日、大阪大学で開催したワークショップ「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』データベースの構築・公開に向けて」の記録である(主催:大阪大学未来研究イニシアティブ「21世紀課題群と中国」[提案代表者・田中仁],科学研究費補助金・基盤研究(C)「東洋学学術資産としての石濱文庫の基礎的研究」[研究代表者・堤一昭]。共催:NIHU 現代中国研究東洋文庫拠点・政治史資料研究班)。

2014年12月に開催した研究セミナー「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性」では、この資料に関する研究の現状をつかむとともに、国際的な学術ネットワーク形成の可能性をさぐった(詳細はOUFCブックレット第7巻を参照)。今回のワークショップでは、この成果のうえに、紙面画像、多言語による目録データを統合するデータベース構築に向けた作業に向けて、具体的論点の明確化を試みた。

すなわちそれは、都馬バイカル・桜美林大学准教授を中心と知る『青旗』研究会による記事索引、ナランゲレル・内モンゴル大学教授による記事細目に加えて、かつて旧大阪外国語大学アジア研究会が作成した『1940年代アジア総合年表』を素材として、これに『フフ・トグ(青旗)』紙のデジタル・データを組み合わせることによって、どのようなデータベースを構築しうるのかという課題であるが、モンゴル語表記をふくむ多言語データベースの構築や知的所有権の問題など当初予想していた論点とともに、記事目録の日本語訳の校閲の必要性や写真資料の意義など、ワークショップでの討議のなかで重要な課題や新たな可能性も確認された。

二回の研究セミナーやワークショップを通して、複合的学術資産『フフ・トグ(青旗)』の魅力を実感することができた。同紙データベース構築・公開に向けた多領域の協働と研究交流の可能性を現実化すべく、対話の輪をひろげたいと思う。(田中仁)

編集委員会

青野繁治（言語文化研究科）、片山剛（文学研究科）、木村自（人間文化研究機構）、
許衛東（経済学研究科）、坂口一成（法学研究科）、思沁夫（グローバルコラボレー
ションセンター）、田口宏二郎（文学研究科）、竹内俊隆（国際公共政策研究科）、高田
篤（法学研究科）、高橋慶吉（法学研究科）、瀧口剛（法学研究科）、田中仁（法学研
究科）、堤一昭（文学研究科）、豊田岐聡（理学研究科）、福田州平（グローバルコラ
ボレーションセンター）、宮原暁（グローバルコラボレーションセンター）、三好恵真
子（人間科学研究科）、山田康博（国際公共政策研究科）、林初梅（言語文化研究科）

戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』 データベースの構築・公開に向けて

2016年3月10日発行
編者 田中仁・堤一昭
印刷・製本 (株)アイジイ

OUFC ブックレット 第9巻

<http://www.law.osaka-u.ac.jp/~c-forum/booklet.htm>

ISSN 2187-6487（オンライン）

大阪大学中国文化フォーラム事務局（c-forum@law.osaka-u.ac.jp）

560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-6 大阪大学法学研究科内